



始



特216
284



墨理原
丹日校介共著

墨理原
丹日校介共著
看國友全集
描方



中文報社版

緒言

百聞は一見に如かずとは古よりの金言で今日の時代に於ても偽りなき眞理である、斯かる故に現代教育界に於て最も重視されて居る所の直觀教授なるものも畢竟は此の言葉を言ひ換へたに過ぎぬと思ふ。

純眞なる頭腦の持主たる兒童の教育上如何に實物教育即ち直觀教授の効果の偉大なるかは今更云ふまでもなく兒童をして苦しましむることなく愉快に習得せしむることは最も重要なことで教授者も亦此處に留意し指導に努めねばならぬ。

地理、歴史、理科、數學等を教ふる場合其の教授指導者が其の熱心と豊富なる學問經驗と加ふるに其の實物又は之れに代はるべき模型、圖畫を示したらんには兒童をして一層容易に理解せしむることを得べし。

無論種々適當なる標本又は模型或は圖畫に由つて出來得る限りの努力はせられて居るのであらうが尙且つ不足なる場合が幾多生ずるであらう。

斯かる場合教師なり父兄なり其の指導者が黑板上又は紙面に直に其の足らざるところを簡短に描出して之れを補ひたらむには兒童は如何に深き興味と満足を以てこれを迎へさうして理解するであらうか。

一つの林檎と二つの柿とを加へて三つになると云ふことを教ふる場合に一つの林檎と二つの柿との繪を描きあらはし、又地理に於ては山河港灣を描現し物産を示し歴史又は訓話に於て主要人物或は風俗等を描出し理科に於ても目的の動物植物等を描き出されたらむには兒童等は如何に喜んで之れを享け入れ容易に腦裡に收め得て永く印象に残すことであらう。斯くして兒童は非常なる愉快のうちに教育されて而してその効果をもたらすことの偉大なるは勿論である。

略畫は例へば林檎と梨との區別を僅かの輪廓の差異を以てよく其の何れかなることを認識し得せしめるのである。併しながら此の簡略なる圖畫は容易なる如くにしてしかも俄に修め得るところのものにあらざれば能く其の物の特徴と特質とを捉へ得て直に之を描現するは至難なるべきを思ひ茲に實際教育家諸氏の要求を充たし併せて學校家庭教育の上に貢獻あらしめんと社會百般の事物を最も簡易なる描法を以てして參考たらしめんとする所以である。

前に述べたる如く略畫の目的は其の物體の要領を捉へるにあれば筆者は徒に細部に涉つて筆を運ぶことは避けねばならぬ。又簡單なる色彩を施すことも更によい方法である。かゝる場合には黑板面にてよく其のものゝ感じを表はすに往々不都合を生ずる場合がある。之れがため歐米諸國に於ては摺硝子の裏面即ち面のあらき方を表にし中間に適當なる白紙又は色紙を挿入したる額面のボードを用ふる所もある斯くするときには色チヨークを以て自由によ

く其の目的を達し得らるゝのである又之れに代ふるに亞鉛板を使用して居る所もある。卷中收めたるところの人物畫に至つては其の繁累を避くるため應用し得べきもの例へば鎌倉時代の人物は其の代表的なるものを收めてあるから他の人物に應用せらるゝ様はかられたい又草木花鳥の類にいたつても同様よく其の要領を摘採せられたし。

尙或る人物に或る風景樹木を配し又は或る器物に花卉果物を配して一箇の畫面を構成されることも亦有益なことであらう。編纂上最も意を用ひたるところは小學各學年の各教科書に準據して題材を擇びたれば學校家庭に於て教科書と相俟つて適用さるゝに於ては裨益するところ蓋し淺少にあらざるべし

著者 識

解説	一
少女(クレヨン畫)	一
圖案	二
牡丹	三
シヤウリヨウバツタ。クビキリバツタ。イナゴ。セスジツユムシ。螢	四
自動車のいろいろ	五
人力車。山籠	六
釣しのぶ。手水鉢	七
アラメ。アオノリ。昆布。ツノマタ。トサカノリ。フノリ。ワカメ	八
カマキリ。ケラ。ハタオリバツタ	九
大名屋敷門	一〇

荷葉。ほけ	一一
平安朝風俗	一二
鎌倉時代風俗	一三
江戸時代大名風俗	一四
還城樂。(童舞) 奈良朝時代風俗	一五
城。追手門	一六
据風呂と桶	一七
朝顔。瓢箪。晝顔	一八
川畔(クレヨン畫)	一九
コガネ虫(圖案)	二〇
シオカラトンボ。トノサマバツタ。ミヤマアカネ。ムカデ。コガネムシ	二一
梅。俵。徳利。楯	二二
コスモス。ダリヤ	二三
蚊帳釣草。釣鐘草。ヒヤシンス	二四
福壽草	二四

海軍々人……………二五
 海軍々人……………二六
 陸軍々人……………二七
 陸軍々人……………二八
 陸軍々人……………二九
 陸軍々人……………三〇
 陸軍々人……………三一
 龜。金魚。鯉。鮒。メダカ。おたまじ
 やくし。鼈……………三二
 浚流。瀧……………三三
 屋根や。桶や……………三四
 飴や……………三五
 礮。草原。ちや籠……………三六
 文福茶釜……………三七
 刷毛。羽箒。筆洗。筆たて……………三八
 笥。清水。道しるべ……………三九

鱒……………四〇
 棕櫚。蘇鐵……………四一
 郵便局。おもちゃ屋……………四二
 工夫。左官。新聞配達。按摩……………四三
 垣根三題……………四四
 銅像と教會堂……………四五
 菅公……………四六
 葵。オモト。芭蕉……………四七
 瀧見茶屋。塚……………四八
 經師屋。寫生と寫眞……………四九
 理髮所。鍛冶屋……………五〇
 山椒魚。青海龜。いとより。鬼オコゼ
 ………………五一
 栗鼠。猪。尾長猿……………五二
 ベンギン鳥。うみねこ……………五三
 しめ縄賣。濱つたひ……………五四

老翁(タレヨン畫)……………五五
 圖案……………五六
 壯年。娘。老人……………五七
 少年少女。青年。幼年……………五八
 白もくれん。野ばら……………五九
 雀。鳩。もず……………六〇
 まりつき。髪結び……………六一
 小鼓。茶の湯。投げ入れ花。配膳。
 挨拶……………六二
 編馬。象……………六三
 きりぎりす。くつわ虫。鈴虫。松虫……………六四
 馬追虫……………六四
 駒草。白根葵。しやくなげ。つけ櫻……………六五
 南京小櫻。白山いちげ……………六五
 五重塔。堂。祠……………六六
 瀧浴び……………六七

行水。線香花火。夕顔……………六八
 冬の人々……………六九
 女三題……………七〇
 明治神宮。伊勢大廟……………七一
 檜扇草。あさみ。馬こやし……………七二
 圖案……………七三
 校庭の一隅(タレヨン畫)……………七四
 温泉場……………七五
 せきせいいんこ……………七六
 ばら。ちんてをげ……………七七
 大工道具……………七八
 魚板。どら其他。木魚……………七九
 茶の湯道具……………八〇
 女三奏……………八一
 弓術。教師。劍術。からす。とび……………八二
 からす。とび……………八三

虎。豹……………	八四
やままゆ。かみきり虫……………	八五
蕪袴ひ扇……………	八六
子安貝。蛸とり貝。蛤。ほら貝。ほたて貝。あわび貝……………	八七
眞珠貝。つめた貝。天狗にし。なぎなたほづき。あみがひ。あかにし。海ほづき。からす螺……………	八八
素人角力。神官。しの笛。讀書……………	八九
竹馬。鮎賣り。石蹴り……………	九〇
魚形水雷。ピストル。砲彈。錨……………	九一
鉢植のいろいろ……………	九二
紫式部……………	九三
義經……………	九四
ぼけ。山藪……………	九五
富士山と湖……………	九六
しばゑび。手長ゑび。かに……………	九七
尾白鷺。大鷹……………	九八
僧。圓基生花。醫術……………	九九
谷。かけはし……………	一〇〇
せきれい。燕ほととぎす。みそさゞい。鶯……………	一〇一
秋海棠。しおん。おしろいの花……………	一〇二
行李。鞆のいろいろ……………	一〇三
摺鉢。たわし。てば庖刀。庖刀。まな板……………	一〇四
洗濯。田植。釣魚。松葉かき……………	一〇五
罪人。神官。尼。石や……………	一〇六
社殿。石燈籠……………	一〇七
漁村。浦……………	一〇八
岬(クレヨン岬)……………	一〇九
圖案……………	一一〇

雞のいろいろ……………	一一一
しやこ。蛸。やどかり。いか……………	一一二
菊。日まわり草……………	一一三
亭。庭園。噴水……………	一一四
鯨。鋤。鳴子。かま。かとし……………	一一五
女四題……………	一一六
桔梗。董……………	一一七
鯛。まぐろ。鱒。あなご……………	一一八
西郷隆盛……………	一一九
明智左馬之介……………	一二〇
火見櫓。紡績會社。ものほし……………	一二一
すゝはき……………	一二二
鳥さし。トンボツリ。虫取り……………	一二三
釣燈籠。電燈。ランプのいろいろ……………	一二三
瓦斯燈……………	一二四
櫻草。朝顔。あやめ。あぢさい……………	一二五
公園。街路樹……………	一二六
静物(クレヨン畫)……………	一二七
圖案……………	一二八
巡査。豆腐屋。メツセンチャーパーイ。八百屋……………	一二九
猿。鹿。豚……………	一三〇
ラチオのきかい……………	一三一
笹。紅葉。柳……………	一三二
さつま芋。ちやがいも。つくね芋……………	一三三
二十四孝の一……………	一三四
二十四孝の二……………	一三五
椅子のいろいろ……………	一三六
五位鷲。信天翁。かいつぶり……………	一三七
つゆ草。とうもろこし。おしろいの花……………	一三八
洗濯……………	一三九

那須與一	一四〇
二宮尊徳。渡邊登	一四一
山脈。林。森。山	一四二
杉のいろいろ	一四三
オートバイと交通巡査	一四四
くさりがま。木剣。しない。銃鎗	一四五
チウリツブ	一四六
蜘蛛。たにし。あめんぼう。かぶと	一四七
虫。蝸牛。かへる	一四八
碁盤。岐阜提灯	一四九
そらまめの花。梨の花。麥	一五〇
鴨	一五一
もみより。稻刈。稻こぎ	一五二
鶴。鶉。うづら。七面鳥	一五三
犬のいろいろ	一五四
とかげ。蜂と蜂の巢。へび	一五五
女三態	一五五
文具のいろいろ	一五六
七福神	一五七
青鬼。お多福。閻魔大王	一五八
土筆。蕨。タンポポ。レンゲ草	一五九
手箱。針さし。鋏。ものさし。糸巻。	一六〇
きめべら	一六一
面のいろいろ	一六二
能樂	一六三
圖案	一六四
鮎釣り(タレヨン巻)	一六五
バン屋。せんべい屋	一六六
説教	一六七
柳四題	一六八
きりん。らくだ	一六九
酒器。茶器	一七〇

蓮。葡萄。佛手柑	一七〇
帽子のいろいろ	一七一
洋服のいろいろ	一七二
緋百合。クワンソウ	一七三
いかるが。鳩と雀。文鳥。ほうじろ	一七四
まんぼう。鯖。鱈。はも。ほうばう	一七五
桐の花。こくたん。白檀。したん。	一七六
たがやさん。ほうの木	一七七
籠四題	一七八
枯野。焚火	一七九
一休禪師	一八〇
最明寺時頼	一八一
扇子と團扇。煙草盆。葉巻入れ。灰	一八二
落し	一八三
演説と速記者	一八四
呉服や。花や	一八五
山百合。蘭。しゃくなげ	一八六
ブラットホームの人々	一八七
松原。燈臺	一八八
牛若丸と辨慶	一八九
聖徳太子	一九〇
おかめいんこ。木の葉づく。巢。佛	一九一
法僧	一九二
銀行。書店	一九三
魚屋。蕎麥屋	一九四
家具五題	一九五
さぼてん。龍舌蘭	一九六
河馬。水牛	一九七
いすか。駒鳥。つぐみ。雲雀。山が	一九八
ら	一九九

松の色々	一九六
ラヂオ放送局	一九七
街道。山道	一九八
川(タレヨシ)	一九九
圖案	二〇〇
獵人。金魚賣。牛乳配達。屑拾ひ。	二〇〇
子守。乞食。魚屋	二〇一
青鳩。いかる千鳥。高麗雉子。千鳥	二〇一
機械。ミシン	二〇二
けし。チキタリス。てんなんしょう。	二〇三
とりかぶと	二〇四
繪馬。賽銭箱。鈴。神籤	二〇五
元冠の役	二〇六
西行法師	二〇七
學校	二〇八
行燈と燭臺	二〇九
看板屋。陶工	二一〇
熊。ライオン	二一一
蹄鐵屋	二一二
電車。陸橋	二一三
水車。トンネル	二一四
五徳。臺十能。火鉢。火消壺	二一五
アマリ。ス。スウキートビー	二一六
ダリヤ(タレヨシ)	二一七
圖案	二一八
交番所。自動電話	二一九
兒島高德	二二〇
豐臣秀吉	二二一
輕氣球。飛行船。飛行機。芙蓉	二二二
狼。狐。狸	二二三
カーネーション。シクラメン。フリ	二二三

ーチャ	二二四
あかえひ。青鮫。水母。撞木鮫。人手	二二四
海豚	二二五
寺。農家	二二六
青ざり。梅。喬木	二二七
鮎。いわな。うなぎ。たなご。どぜう。鯰	二二八
ポブラ	二二九
氷店。寄席	二三〇
植木屋。草かり。茶つみ	二三一
海棠。菜種	二三二
祭禮の日	二三三
田すき。もみ打ち	二三四
霞。霧	二三五
春雨	二三六
廣告や。氷水や	二三七
こうや。船大工	二三八
見臺。胡弓。三味線	二三九
おもちゃの色々	二四〇
あざみ。さつき。ペンペン草	二四一
印度犀。カンガル	二四二
あしか。鯨	二四三
蝶の色々	二四四
仁徳天皇	二四五
桐の花。のうぜんかつら	二四六
おみなへし。薄。萩	二四七
青物屋。米屋	二四八
井戸二題	二四九
樹の色々(1)	二五〇
樹の色々(2)	二五一
靴。洋傘。スリッパ	二五二
富士山(タレヨシ)	二五三

圖案……………二五四
 櫻井の驛……………二五五
 藤の花。つゝじ……………二五六
 盆景。盆栽……………二五七
 きのこの色々……………二五八
 ひき蛙。やもり……………二五九
 あんこう。小判魚。たつのおとし子。
 飛魚……………二六〇
 鍾馗。達摩。天狗……………二六一
 悪魔。釋迦。仙人……………二六二
 キリスト……………二六三
 あんか。屑籠。炭取。炭かご。ちり拂
 ひ。ふみ臺……………二六四
 岩山。草山……………二六五
 湖水と池……………二六六
 赤穂浪士……………二六七

源義家……………二六八
 いたち。かわうそ。針鼠。もぐら…
 山あらし……………二六九
 鶉。ペリカン。ゆり鷗……………二七〇
 山路……………二七一
 樂器の色々……………二七二
 葱華葦。風箏……………二七三
 うつば。御所車。太刀。弓……………二七四
 靴屋。蝙蝠直し……………二七五
 日本畫家。洋畫家……………二七六
 女のいろいろ……………二七七
 涼みの人々……………二七八
 牛肉屋……………二七九
 給仕。コック。撒水夫。郵便配達。
 夕刊賣……………二八〇
 瓦斯セリン。ストーブ。水道……………二八一

雨傘。履物のいろいろ……………二八二
 櫻の花。椿……………二八三
 兎。蝙蝠。鼠。羊。むさしび。綿羊。
 山羊。栗鼠……………二八四
 雪浚……………二八五
 斧。きやたつ。鳶口。梯子……………二八六
 かけ茶屋。茶話……………二八七
 孔雀。駄鳥……………二八八
 圖案……………二八九
 人物スケッチ(タレオン畫)……………二九〇
 山伏。保昌……………二九一
 新田義貞……………二九二
 鍵と錠。金庫……………二九三
 ぐびじん草。さつき。バンジー。レン
 ゲ草……………二九四
 鯉のぼり。のぼり……………二九五

蟬捕り。とんぼつり……………二九六
 市場。警察署……………二九七
 あんどう豆。さしげ。空豆。唐がらし。
 とまと。とうもろこし。ほうづき。宮
 重大根。わさび……………二九八
 洋畫道具の色々……………二九九
 犬。牛。馬。鼠。猫……………三〇〇
 金鷄鳥。鴻。ほろほろ鳥。五位鶯
 ………………三〇一
 河。町。村……………三〇二
 仕事師。電燈工夫……………三〇三
 縁日の植木屋。せり賣……………三〇四
 峠茶屋。塀……………三〇五
 釜。くど。米櫃。櫃……………三〇六
 圖案……………三〇七
 ばらの花(タレオン畫)……………三〇八

青しぎ。雁。ほゝ羽白……………三〇九
 ホテル……………三一〇
 松島。宮島……………三一
 夜會服……………三一二
 鏡臺。簾筒。屏風……………三一三
 月見草。美男草。まんりよう。雪割
 草……………三一四
 サンタクロース。雪だるま。雪兎
 ………………三一五
 稻村。小川。田畑……………三一六
 大國主命。手力男命……………三一七
 鎌足公……………三一八
 活動寫眞館。劇場……………三一九
 消防夫……………三二〇
 貨物自動車。夜行列車……………三二一
 稻。撫子。芙蓉。麥……………三二二

白。打盤。笠。簀。笑……………三二三
 エスキモー。西洋人。生蕃。琉球人
 ………………三二四
 稻荷……………三二五
 天女……………三二六
 島の女……………三二七
 日本武尊……………三二八
 雪。霞……………三二九
 巖。石……………三三〇
 春の人々……………三三一
 ビルディング……………三三二
 日清の役……………三三三
 秋の人々……………三三四
 金たらひ。洗濯板。たらひ。手桶。
 ひしゃく……………三三五
 小鳥屋の店……………三三六

雨の日。風の日。雪の日……………三三七
 観菊御宴。砧。夜業……………三三八
 をしどり。鶯鳥。白鳥……………三三九
 掃除する人々……………三四〇
 理髪店……………三四一
 雲の色々……………三四二
 曲乗りの象(クレヨン畫)……………三四三
 圖案……………三四四
 浚流。流水……………三四五
 島。岬……………三四六
 香爐。香合。こて。ひのし……………三四七
 寒念佛。炬燵。火の番……………三四八
 遠足。摘草。風船賣。ベンチ……………三四九
 いてふ。梅の實。柿。ぎんなん。栗
 ………………三五〇
 アイヌ。印度人。支那人。朝鮮人……………三五一

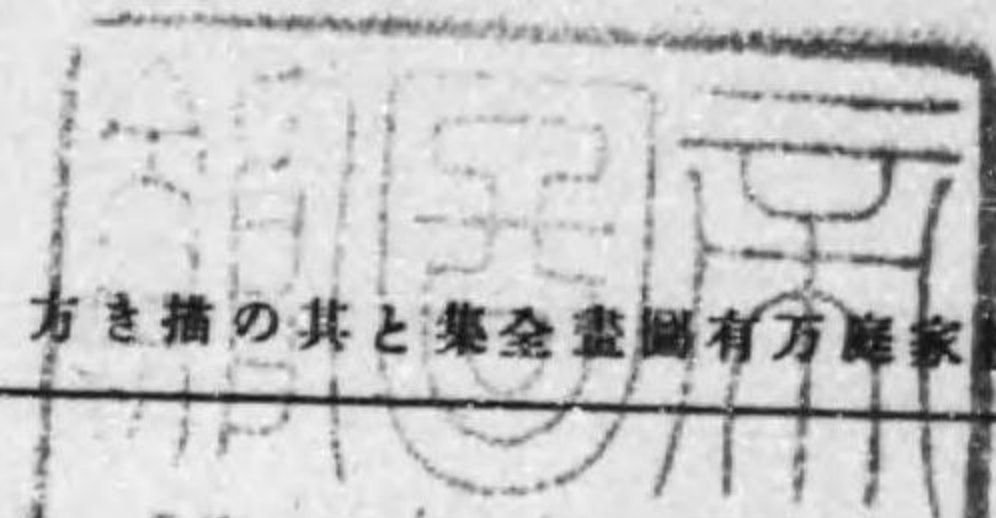
ちり取り。ばけつ。箒……………三五二
 地藏尊。大佛……………三五三
 かも鹿。じゃこう鹿。てんちく鼠……………三五四
 島。怒濤。寄せる波……………三五五
 漁夫。渡し舟……………三五六
 道普清(1)……………三五七
 道普清(2)……………三五八
 植木鉢。如露……………三五九
 金佛。木造……………三六〇
 山岳(クレヨン畫)……………三六一
 圖案……………三六二
 果物のいろいろ。梨……………三六三
 測量。土方……………三六四
 花見……………三六五
 沙千狩。彼岸わたし……………三六六
 猿。狸々……………三六七

天文……………三六八
 雷……………三六九
 電柱。郵便函……………三七〇
 状差。硯箱。算盤。机……………三七一
 盆踊。冬月……………三七二
 四條暖。正行……………三七三
 神武天皇……………三七四
 初午祭……………三七五
 旗……………三七六
 櫻の花。桃の色々。梅。梅の花……………三七七
 タンク……………三七八
 祝砲……………三七九
 花火……………三八〇
 橋の色々(1)……………三八一
 橋の色々(2)……………三八二
 橋の色々(3)……………三八三

女四題……………三八四
 玉突き。ピンポン……………三八五
 講談師。淨瑠璃。大神樂……………三八六
 遊籠。神子……………三八七
 軍艦……………三八八
 風の波三題……………三八九
 競馬……………三九〇
 端午節句……………三九一
 ヴァイオリン。ピアノ……………三九二
 葦とおもだか。河骨。睡蓮。蓮。菱……………三九三
 行司。相撲。控力士……………三九四
 能狂言。辨士……………三九五
 人形の色々……………三九六
 秋の郊外(タレモン畫)……………三九七
 圖案……………三九八

あみ舟。釣舟。引舟。渡し舟……………三九九
 左甚五郎。岡山應舉……………四〇〇
 清少納言……………四〇一
 曲馬。奇術師……………四〇二
 劍舞……………四〇三
 筏船。傳馬船。帆かけ船……………四〇四
 千石船。泊り舟。湊……………四〇五
 あやめ。菖蒲……………四〇六
 祭禮の日……………四〇七
 万歳……………四〇八
 狒々……………四〇九
 船の色々……………四一〇
 人形の色々……………四一一
 茶山花。水仙。南天。葉牡丹……………四一二
 水泳。マラソン競走……………四一三
 海水浴。キャンプ……………四一四

静物(タレモン畫)……………四一五
 圖案……………四一六
 汽船の色々……………四一七
 竹……………四一八
 カチカチ山。花咲爺……………四一九
 大江山。金太郎……………四二〇
 猿蟹合戦。舌切雀……………四二一
 浦島太郎……………四二二
 噴火山。氷山……………四二三
 雛の色々……………四二四
 野菜の色々……………四二五
 高山彦九郎……………四二六
 川中島……………四二七
 ベースボール……………四二八
 テニス。ラグビー……………四二九
 几帳。こし……………四三〇



解 說

學校家庭に於ける圖畫教育の目的が單に寫生を事とするのみでなく觀察力、考察力、表現力、又鑑賞力の養成發達を圖るべきものである以上構圖又は着想の妙、色調の美、表現の技法等工藝美術の基礎的陶冶或は構象能力の啓培涵養或は又形と色とに關する普遍的教養をなすべき重要なものであるは言ふ迄もない話である。

然れば、今こゝに集むるところの略筆畫、クレヨン畫及圖按のみに付て少しく説明を載録して聊か圖法、鑑賞の便たらしめ其手段方法を自ら考究會得さるゝ案内とする次第である。

略畫の圖法は其物體の性情特質を巧みに捉へて極めて直截的に思ふがまゝに感じたまゝを自由に描現すればよいのであることは既に緒言にも述べた通

牛車	四三一
西洋の田舎。日本の田舎	四三二
鳥の色々	四三三
シーソー。ブランコ。遊動円木	四三四
上野の戦争。大村益次郎像	四三五
果物の色々	四三六
獅子舞	四三七
石崖。石佛。石燈籠	四三八
踊。芝居	四三九
加藤清正	四四〇
福島正則の幼時	四四一
凧。羽子板。羽子。まり	四四二
野菜の色々	四四三
神功皇后	四四四
輕業。玉乗り	四四五
瓜。きうり。西瓜。玉葱。とうなす。	四四五

茄子。へちま	四四六
會我兄弟	四四七
棧橋。水門。堤	四四八

目次終

りであるが其描現するに當つて第一に活殺自在の鍵を握るものは線である。此線の強弱軟剛がやがて飄逸、剛放或は大膽に深刻に謹嚴に輕妙に其描かるゝものゝ本質性情を表現するのである、斯くの如く圖法としては何等の拘束も受けず極めて自由なるだけ一層の獨創力即ち精密なる觀察力と冷靜なる注意や思索の念と加ふるに表現の技の熟練とを具備せざれば中々此せつばつまつた一線一劃は自由に生れて來ないのである。

説明の便宜上挿入の圖畫を左の如く分類して其數種に付いて述べる事とする。

- 一 彩畫 (クレヨン畫、圖案)
- 一 人事 (歴史人物、風俗)
- 一 鳥獸魚貝類
- 一 草木花卉

一 風景

一 器物其他

○ 圖案

○ 單獨模様とは或る定められたる輪廓の内にうまく當て嵌めて構成さるゝものを云ふ。

○ 二方連續模様とは左右又は上下に帶の如く細長く排列布置するものをいふ。

○ 四方連續模様とは模様の單位を上下左右に連續展開する模様をいふのである。

本書挿入の圖按中 (416) (20) (344) (200) 頁のものは何れも主として單獨模様の様式を示したものである (416頁) は茶色と黒を以て謂ゆる澁味ある色の調和を示しスワン (20頁) 黒と黄と更に緑の森と嘴の赤は色の對比の効果を現したものである之等は皆吾人が平常心附かて居

るところの自然界の物象が持つ調和の美の一端である植物に於ても莖と葉又は枝葉と花の色の關係等名も無き路傍の小さき草花に至るまで仔細に之を観察する時は其美しくしき調和の餘りにも行き届いて創造されてゐることに誰しもが驚異の觀にうたれるところである此等の調和こそ吾等に常に良き暗示と構成の美を教へてくれるのである。

此他 (398) (362) (307) (289) (163) (128) (110) 頁は便化されたるもの又は寫生そのまゝを稍々圖按化したるもの規則的なもの不規則的なもの等變化と統一の妙を表し又は配色上よりは同色と類似色及び餘色等の配合を示し書籍の表紙に座蒲團に半襟はんせきに皿又は手提袋に或は刺繡に染物に應用せらるべきものゝみである。之等は皆參考の一部として兒童に鑑賞せしめ各人各様の好みによりて更に面白いものを創案させることに努められたい。

○連續模様 (二方連續及四方連續) (254) (218) (2) (73)
 (56) 頁は何れも兒童の常に目に觸れて居るものゝみに材を選び注意すべき題材の容易に得らるゝことを知らしめたのである。
 又形式等は構成の觀念を授くる方便に止め圖案を無暗に窮屈なものと誤解せしめず成るべく自由に構成する路を指示して除々に配色と意匠構成の要諦を會得するやう導いてやる必要がある。

○クレヨン畫

クレヨン畫は兒童の最も好んで描くものである。それはその使用法が他のものに比較して兒童に適して居る爲にも因るのである。クレヨンの持つ色彩はかなり明るい氣持の好いものである。クレヨンは塗るといふよりも描くといふことを心懸けて成べく軽く使ふことを練習させる必要がある。尤も之は

兒童にとりては中々困難な注文であるが餘りに強く押へつけて使ふときは第一折れ易きこと次に色を重ねて初めて目的の色彩を得んと試みた場合例へば黄に赤を混じて橙色を現じ又は黄に青を加へて草色を得んとした場合にツルツルと滑つて重ならないのみならず反つて汚なくなつて配色の調子を打ちこはして仕舞ふことになるからである

凡てクレヨン畫を描く際の下圖は成べく其繪の中の最も邪魔にならぬ繪の具を以て描くのが好い。それから描法に餘り縦横十文字の運筆を避けた方が好い之は繪全體の調子を統一する上に於てかなり邪魔をする場合が多い爲である。靜物は輪廓を正確に寫す練習に適し又陰影明暗の調子を見分けるに便利であるから最初は之に依つて充分練磨させるが好い。

次に風景寫生に入る順序であるが之も最初は極狭い一部分の寫生をさせる之れは廣々とした大きな景色はどこから描いてよいか一寸見當のつかないも

のであつて随つて其出來上つたものは必ずいゝ加減なものになつて仕舞ふ。小部分の寫生は接近して直觀も充分に出來忠實に研究することも出來て自身の力を育て、行く上にも大變効果のあるものである。

又色彩は各人各様であるべきものであるから成べく關涉せず兒童自身の觀るところ好むところのまゝを注意深く監視し善導してやることが肝要である。校庭の一隅(74)時は初秋の朝であつて花壇の一隅に咲きほこる赤い花、その後葉さきの他は全部が陰になつて居る樹木、細かい玉川砂利の地面も美しく全幅は陽光に燦爛として輝いて居るこゝろいふ場合陰の部分が非常に暗く見へるものであるけれど全體の色調と對照して見ると決してそれ程暗いものではないから常に一部分のみを見ることなく全體から見た調子といふ事に注意せねばならぬ

少女(1)頁顔の表情は無邪氣で然も兩足を揃へて行儀よく椅子に倚れるは

縦順な性質であることを思はせる。窓近く雑誌に見入つて居るところを寫したものである。

川畔(19) 森を出抜けたところに繋がれた一艘の小舟あり對岸の農家に牛の聲も聞へる、こうした情景は到るところの郊外に見受けられるものであるから此繪に依つて郊外散策や遠足に出た時に更に新らしき畫趣を呼び起すことであらう。

秋の郊外(397) 頁秋空にそゝりたつ一本の大樹、遙かに見ゆる赤瓦の家、屋後の森に霞さへかゝりて清澄の氣を漂して居る、畫面にゴテゴテと幾度も色を塗り重ねずに又わざとらしき技法を用ひず初めに色と調子の關係をよく呑み込んで要領よくスラスラと描く事も又必要である。

ばら(308) 頁黒い瓶に黄と赤の二輪のばらの花をさしたスケッチである、花辨の重なり工合や其方向或は其調子のつけ方且つ又花辨に用ひられた線の

描き方などに注意されたい。

静物(415) 頁立體的の構圖で茶と黒と黄の色調、それに明暗の度合ひ、形體の正確等を練習するにこうした手近にあるものを組立て、寫生することはかなり落附いた氣持ちで直觀も出來形體や色調に付ての理解も出來るものである。

川(199) 頁静かな初夏の日である溶々と流れる水、霞に烟る山、全體の色調が淡いやうに思ふ人もあるかも知れないが其所に此繪の生命が宿つて居る事を考へて貰ひ度い。

老翁(55) 頁人體寫生として各人が先づ己れの手足や鏡に寫る自分の顔を寫すのもよい練習である、樹木の枝を一本描き落しても誰も氣附く者は無いけれども人間の指一本を描き落したり鼻の方向が曲つて居たりするのは繪心の無い人でも直にその誤りが分る、故に兒童に充分な觀察をなさしめ正確な

描寫を練習せしめる爲に時にモデルになつてやることも絶好な方法である。

略 畫

人事（歴史人物、風俗）凡そ人物畫は一見して其人物の氣持ちとか人格とかと解るやうでなければならぬ又活動せる動作、沈思せる状態其他喜怒哀樂に因つて起る表情も僅かな線描の差を以て決するのである、例へば歴史人物（444）頁の神功皇后の勇邁にして然も御女性の優しきあり使者に謁見を賜ひて悠揚迫らざる尊き御身にそなわる威嚴。又曾我兄弟（447）頁の兄十郎の沈着と弟五郎の氣鋭或は又加藤清正（440）頁鬼と呼ばれた英傑も遠く異域にあつて偶々故郷の空に富士の靈峯を發見した時涙滂沱として止めあへずしばしば渚に立ちつくした事であらう此時の清正の氣持ちは其全身の姿勢に依つて觀者に傳へねばならぬ四條駿に於ける楠正行（373）頁は目

に餘る賊の大軍を物ともせず一死報國の精神を以て獅子奮迅の働きも遂に空しく味方は散々に打敗られ己れも今は深傷淺傷數知れず蒙りたれど賊將高野師直の首級を擧げる迄はと飛び來る矢彈を防ぎつゝ傷きしき身で躍進する其悲壯な氣持ちを前のめりになつた上半身と尙且つ意に隨はぬ足の運び等に依りて其當時の光景を偲ばしめるのである。

次に風俗畫の一二を擧ぐれば涼む人（278）頁の巖上に腰を下して胸一ぱいに涼風をあびて居る人、つゝましましやかに床机に腰かけ打水したる庭の一隅に虫の音を聞く涼しさ貸浴衣の糊のこはさは少々痛けれども心地よく涼しきものである。又雨の日、雪の日、風の日（337）頁や劍舞（403）頁にある吟聲の男や肩をいからして劍舞する男の姿勢はよく其心持ちが出せて居ると思ふ更に又能狂言（375）頁の悠暢な中に一種の滑稽味をも含める氣分も祭りの樽みこし（407）頁の子供連の必死の樂しみ等は誰しも著者の

如く感ぜらるゝ事であらう其他八大お伽噺あり陸海軍の各兵種の將卒あり訓話に職業にありとあらゆるものゝ殆んど總てを集め然も其個々に付ての職業に依り又人格に應じて姿態に表情に相當留意して描現してあるから其れ等を一々鑑賞して其趣きを味はれ度い。

鳥獸魚貝類、鳥を描くには卵形を基として之に首と尾と足を附けて行くのが都合がよい、それから如何なる鳥も全身羽毛に包まれて居るが綿細工のやうにならぬやう常に隠れたる筋肉と骨のあることを忘れてはならぬ之に反し獅子虎、牛馬等は其逞ましき筋骨の上にも若草のやうな軟かい毛が密生して居ることを念頭に置いて其の描線の上にも之等の味ひを持せねばならぬ。獸類を描くには其胴體となるべき橢圓形を描き之に首や四肢を附けるやうに又其割合は人間を描く時と同様其顔の長さを標準にして長き或は短かき個々の特長ある首や四肢を附けるやうにするのが便利である。

花卉、果實類は實に千態万様であつてこゝに一々其特徴を擧げる事は出来ない、極めて僅かな輪廓の差や微妙な線の運用の如何に依りて其異つた特質が現せるのであるから常に四季の草木果實等に就いてよく觀察研究して置く事が必要である。例へば梨と林檎、胡瓜と青瓜、抽子と橙の如く稻と麥、さつきとつゝじ、海棠と櫻花、ベコニヤと秋海棠等の如く其相似たるものも皆各異つた特徴を備へて居るといふ事は冬枯の山野に落葉して等しく枯木の姿となつて淋しくたつて居ても柳は柳、梅は梅、其他桃にしる櫻にしる梨にしる柿にしる其枝ぶりや樹皮の工合によつて各其特徴を示して居ると同様である。

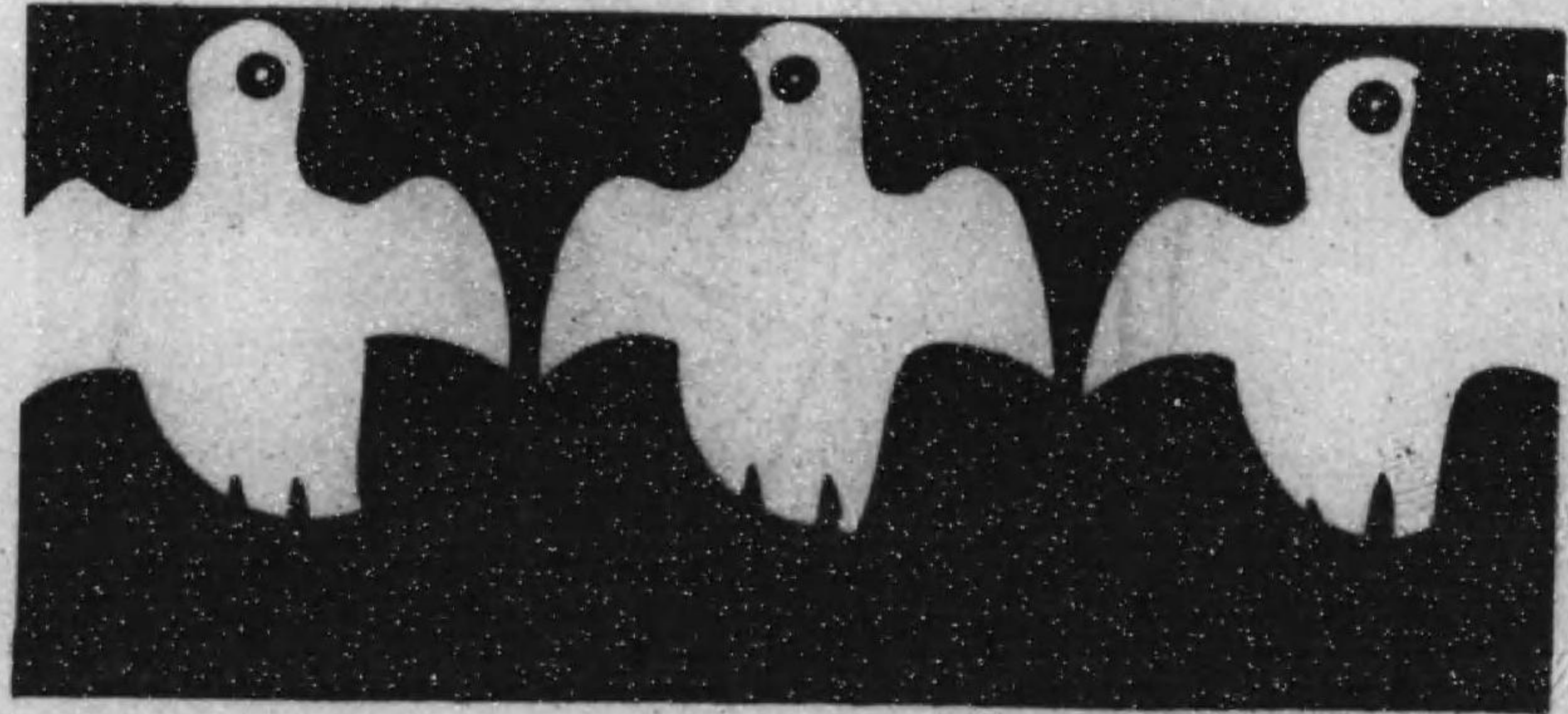
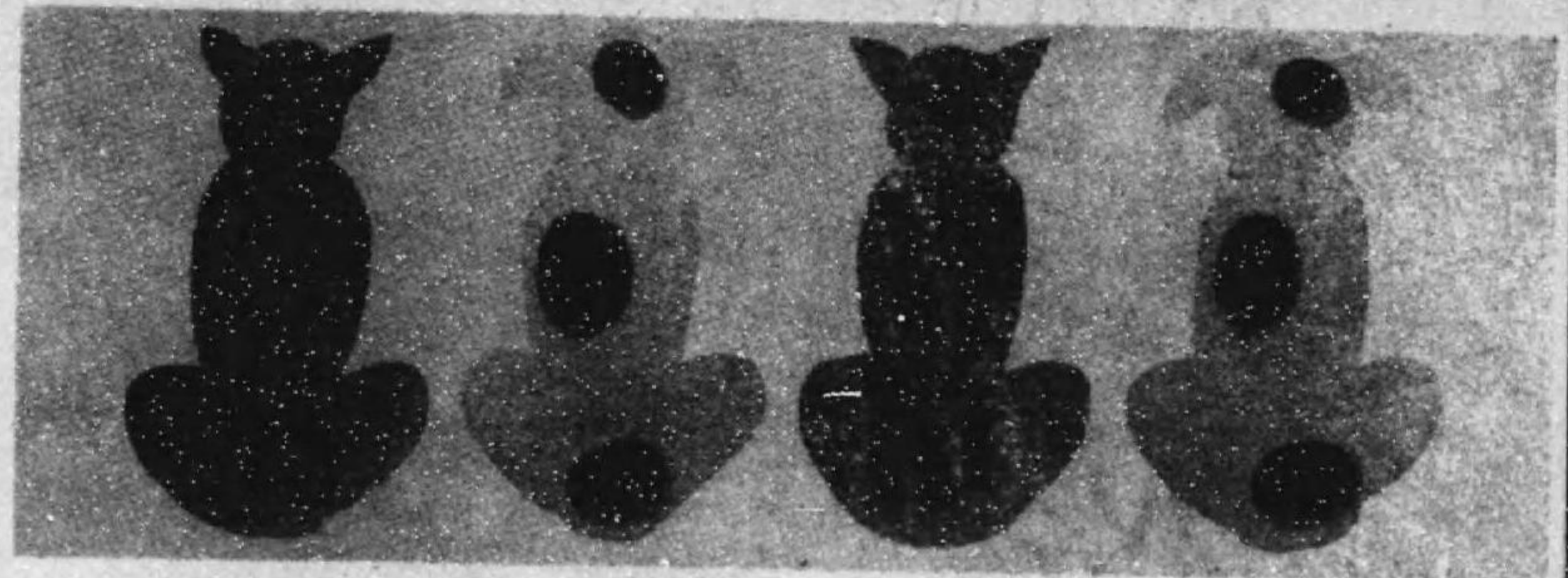
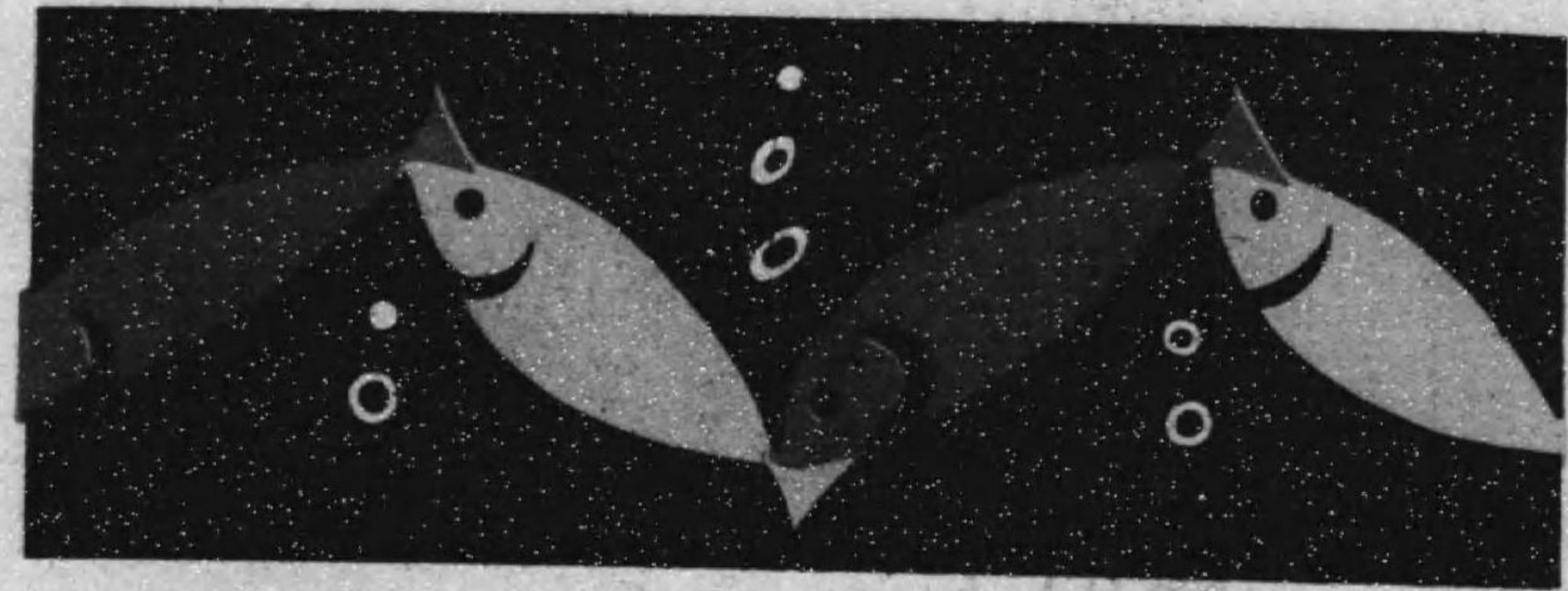
桔梗の纖弱、牡丹の艶、白百合の清、木蓮の俳味も矢張り皆其描線の氣持一つで現れるのであるから先づその特徴と氣持ちを研究して筆をとる事が大切である。

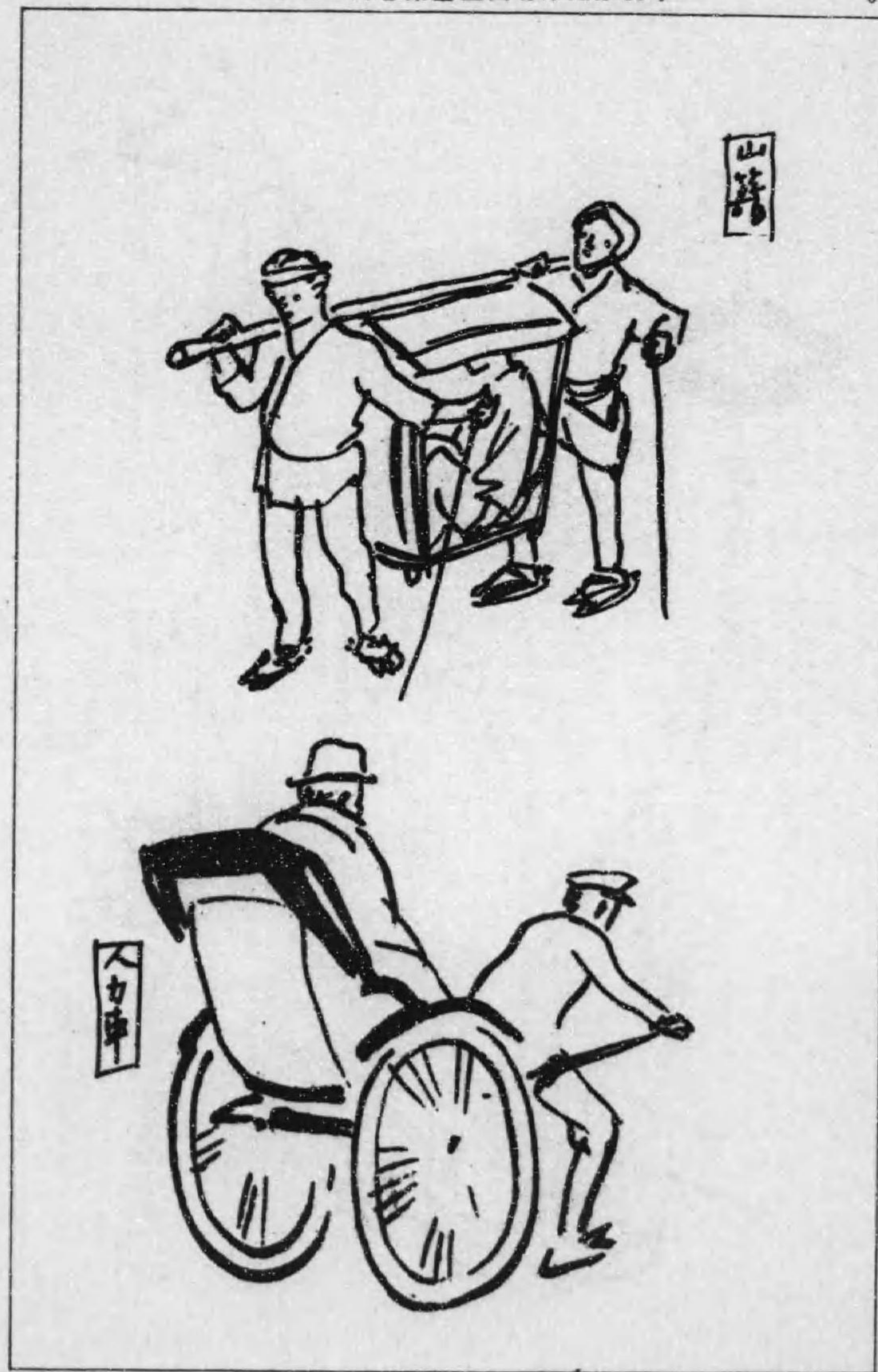
風景は山川草木家屋橋梁等が相集つて一つの畫面を構成して居るのであるが旅行中に見受ける懐かしきものに椿咲く樹蔭にかけられた笈や陽炎燃ゆる野路の小川にゴトリくくと水車の廻るのや花菜咲く丘の曲り角にたてられた道しるべ等何れも盡きぬ旅情を印象されるものであることにはさうした途上所見の風物は勿論橋のいろいろや船のいろいろ又小波、怒濤、流水、風浪等變現極りなき線の表現法を示し又山には岩山もあり草山もあり峻嶮アルプスの如きもあれば蒲團きて寝たる姿の東山の如きもあり何れも其山容の差に依つて自から剛柔の山皴で其趣きを描現するのである。

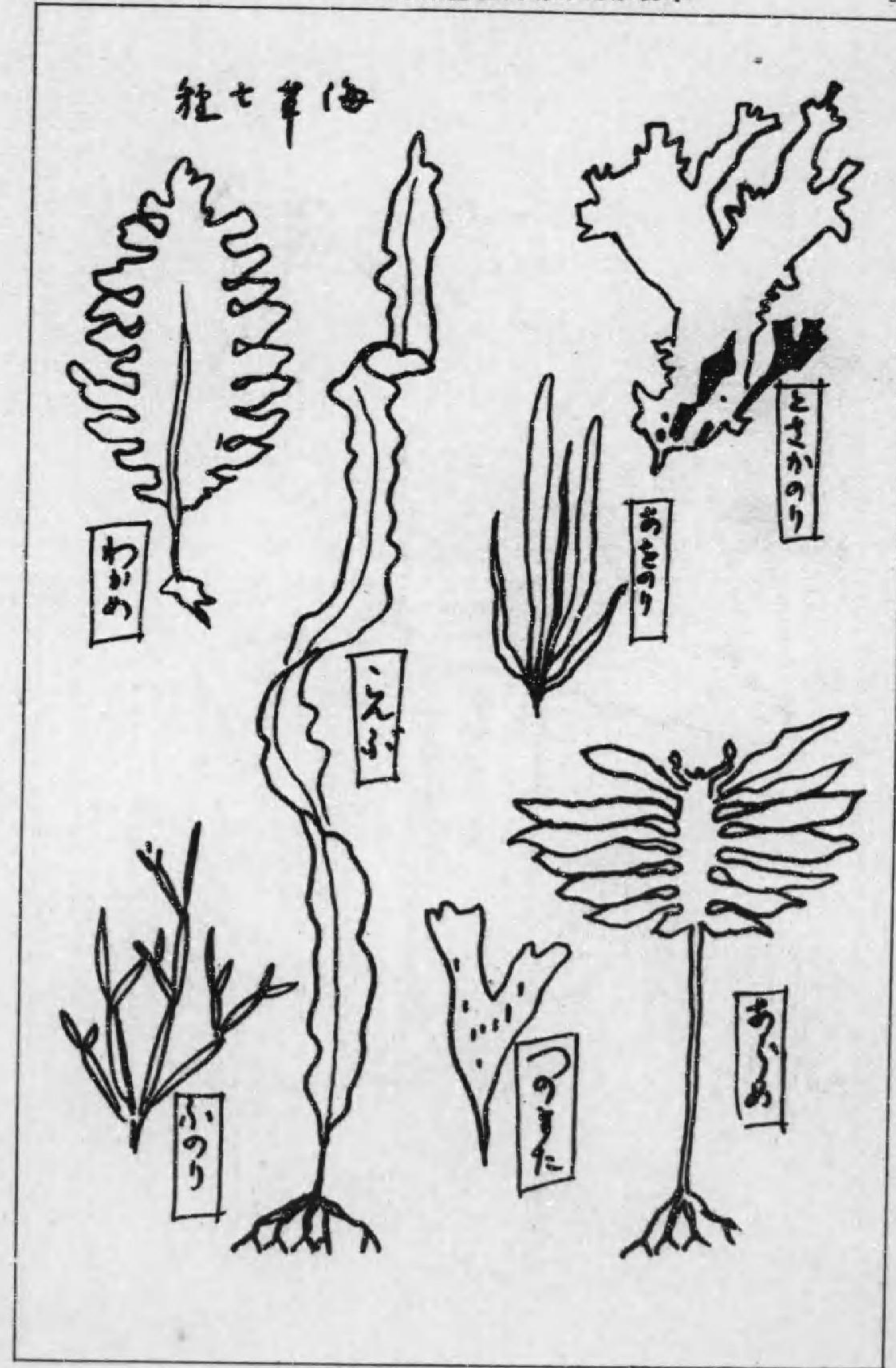
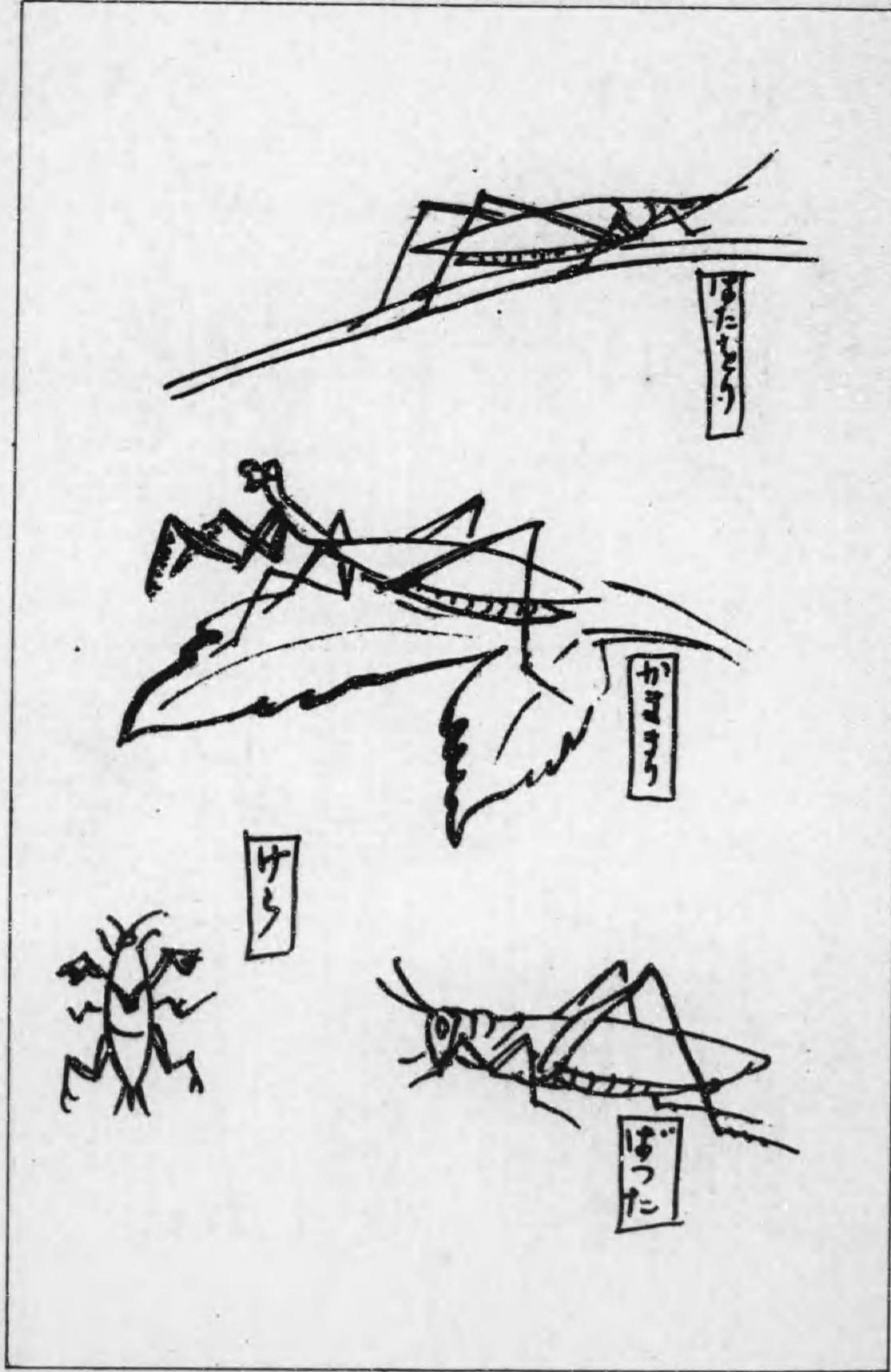
家屋は寒村漁村の農家民家を初め都會の大通りから其近郊までの風物を網羅し乗物には風轆、葱花轆を初め牛車、袖輿、電車、自働車等往昔より現代にわたる數十種のものを示し此他學校用品、文房具、玩具、農具、日常の勝手道具、樂器、武器、大工道具等に至るまで凡そ常識を養ふ上にも、必要と認

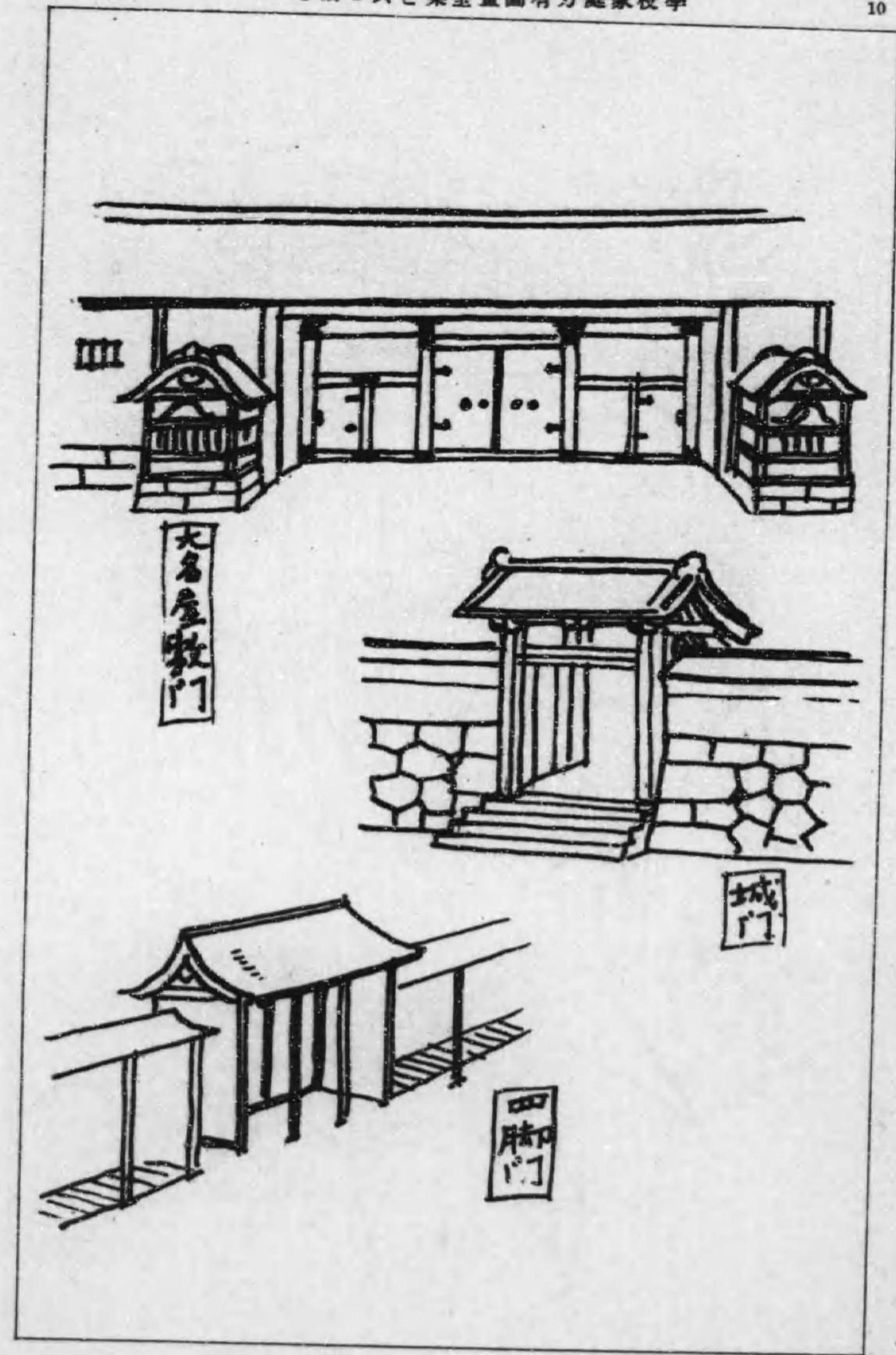
むるものは其悉くを集めたり之等は學校家庭に於ける教材となるのみでなく平素よく承知して居ながら愈々それを描こうとなると其構造や形體がどうしても確然と思ひ出せない事があるものである、さうした場合の重寶ともなり参考ともならば此書の使命は大半果されたと言つてもいいのである。

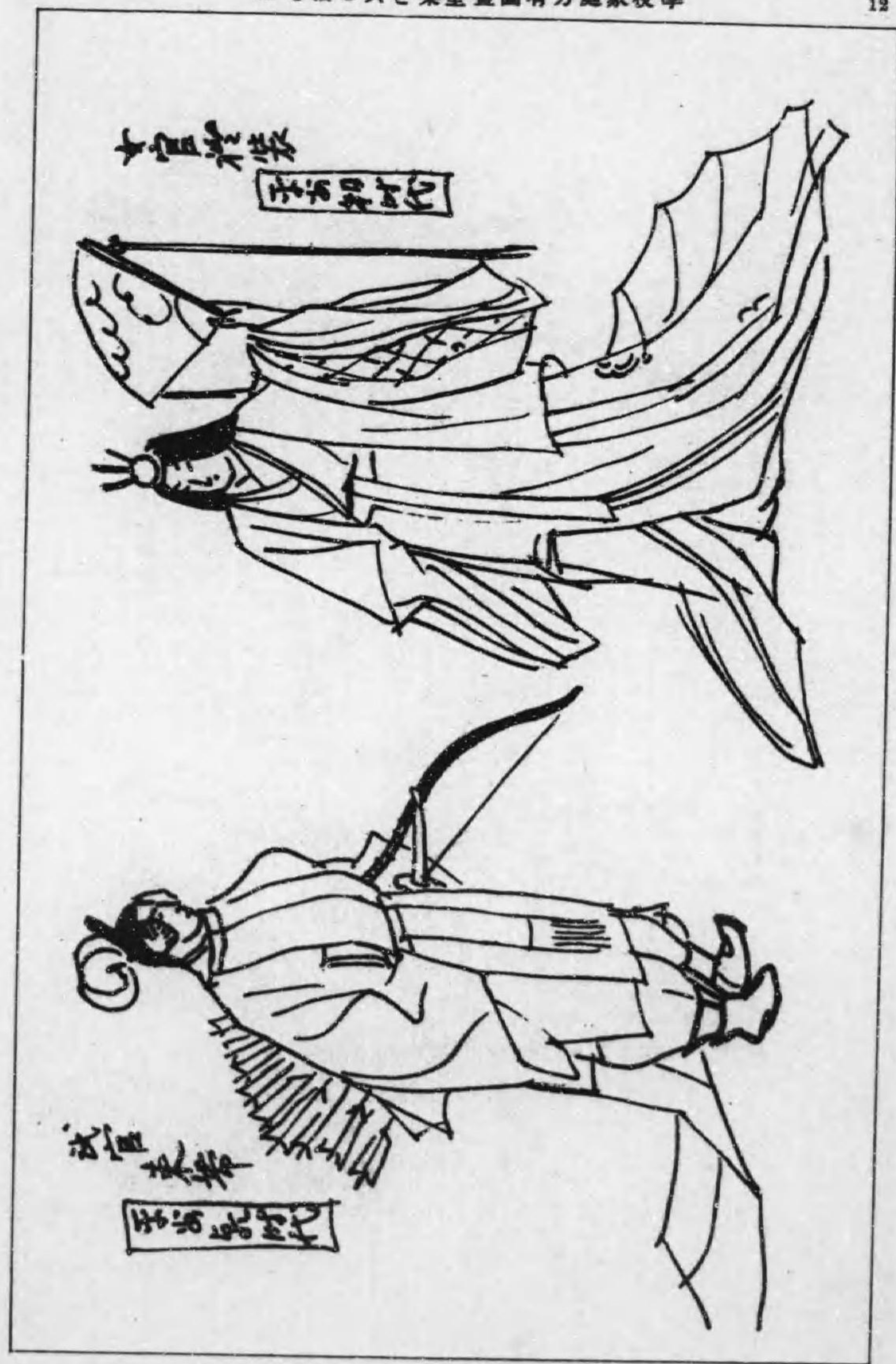




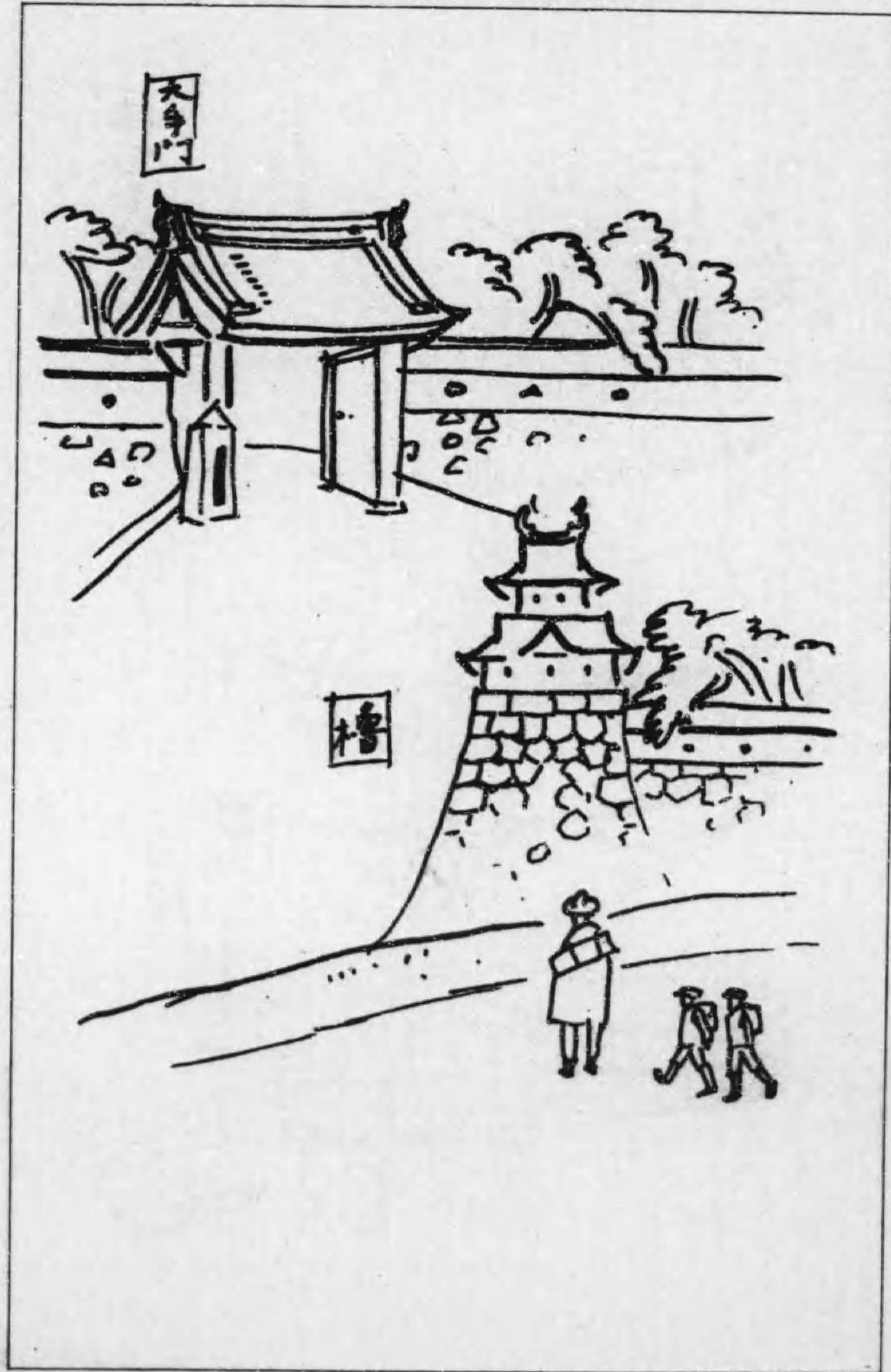
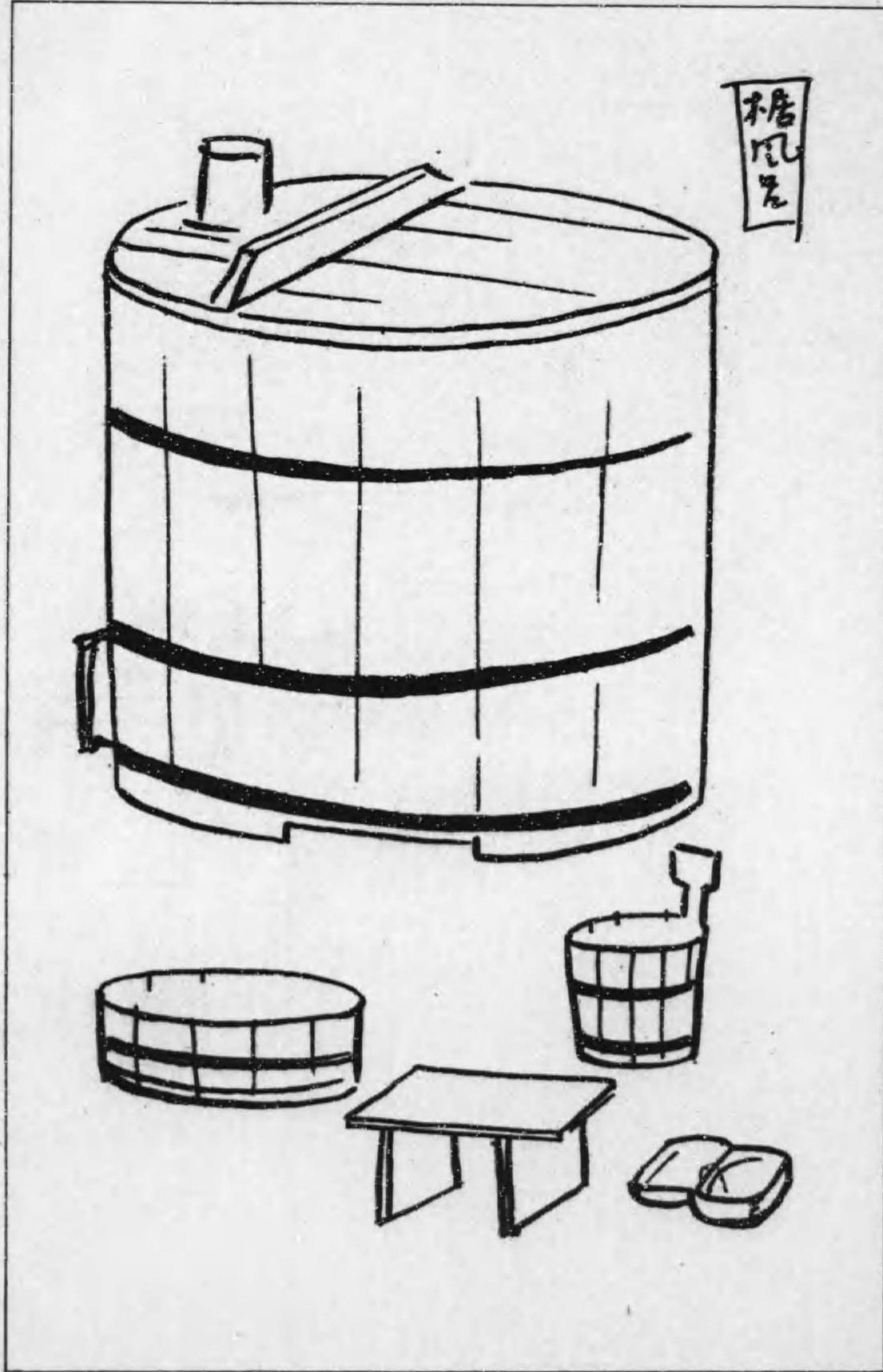


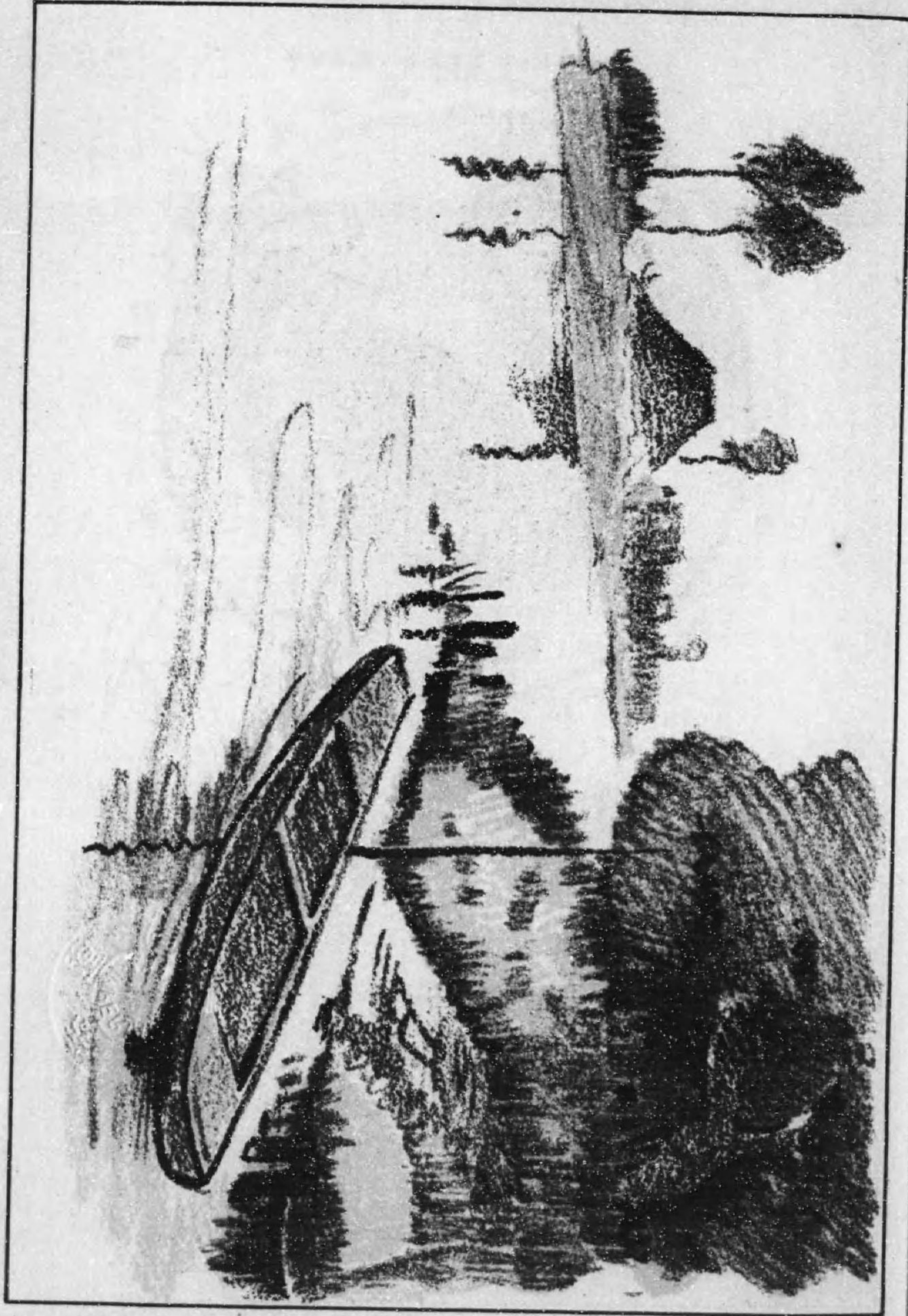


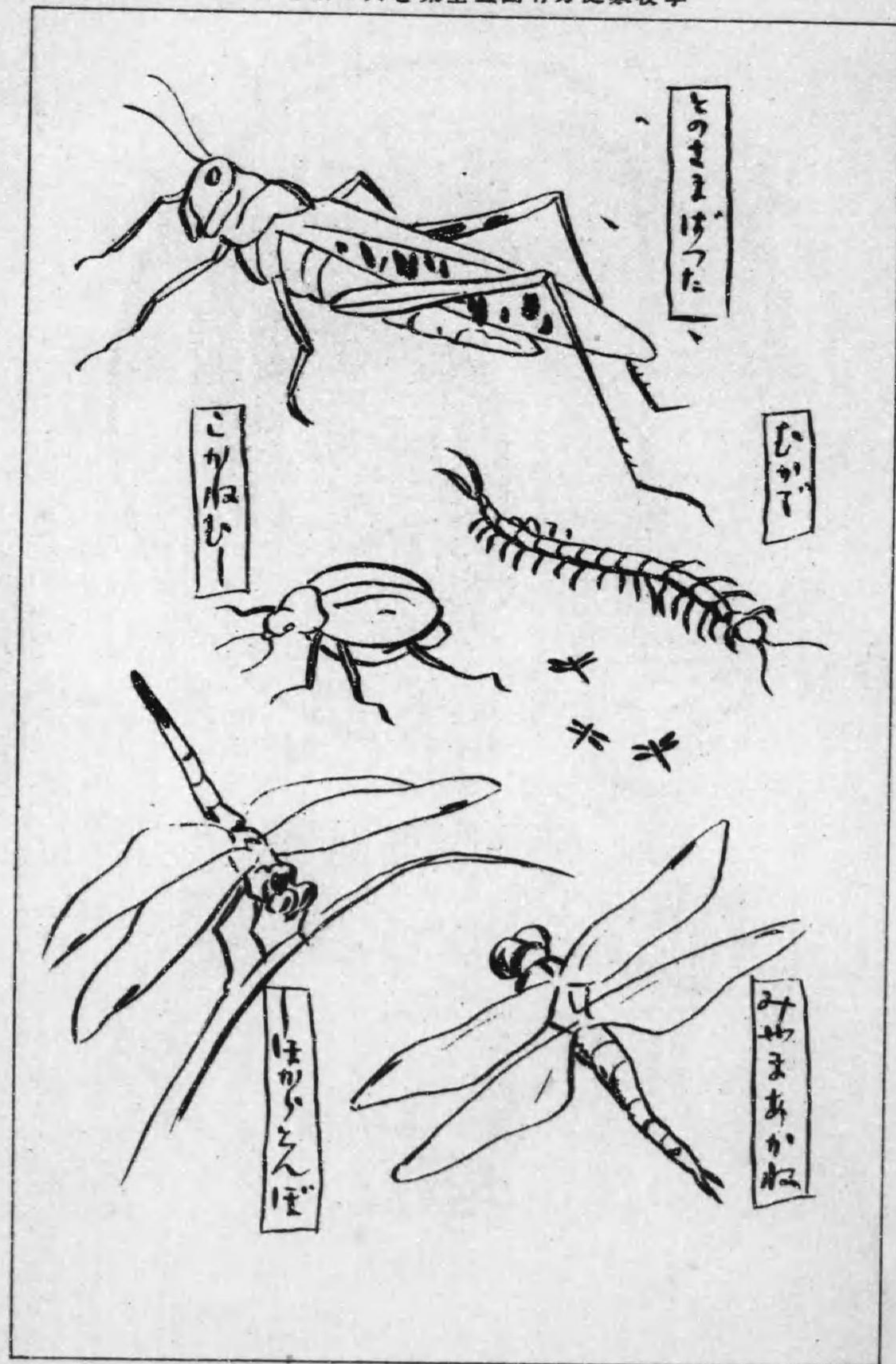


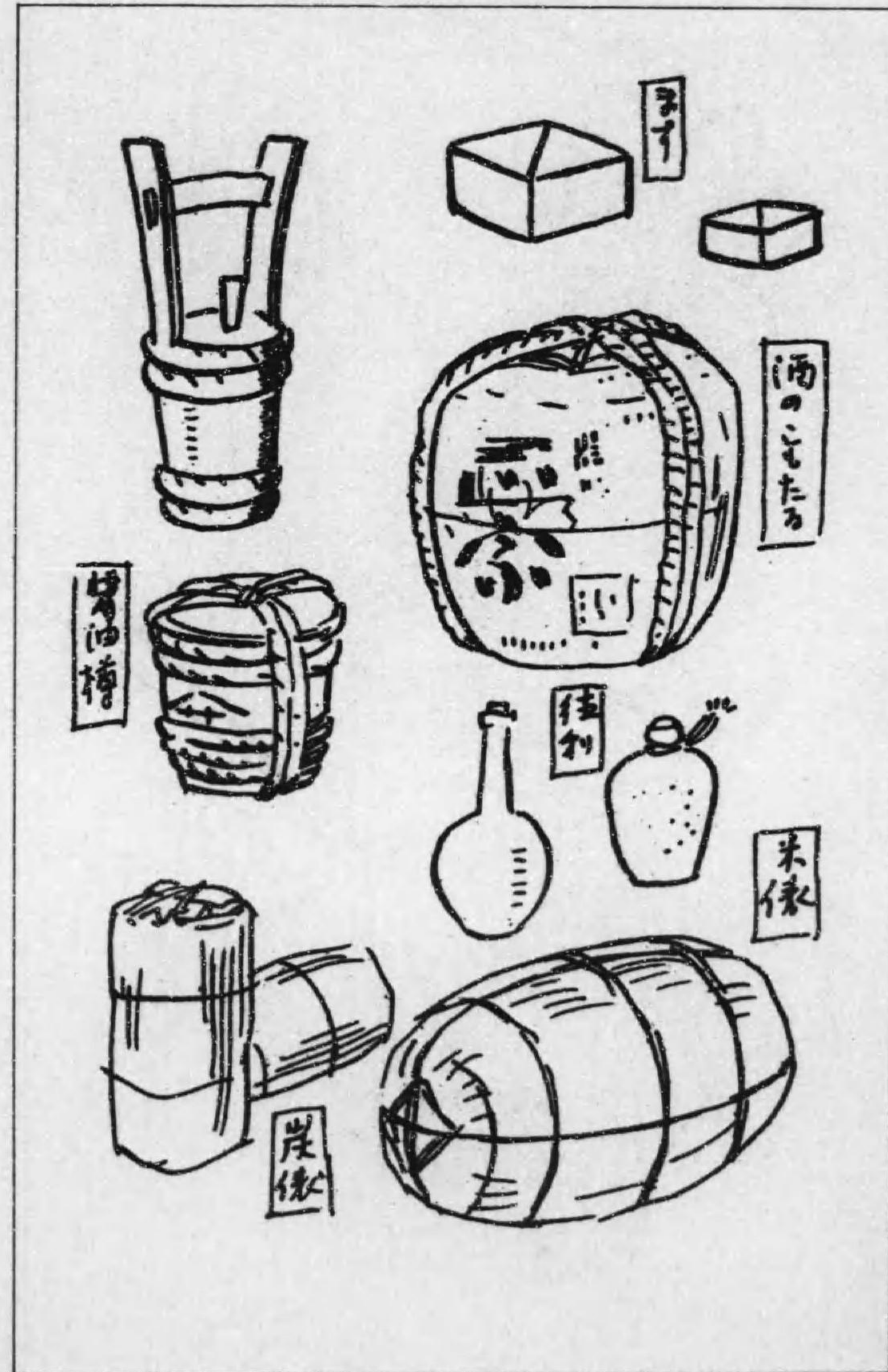






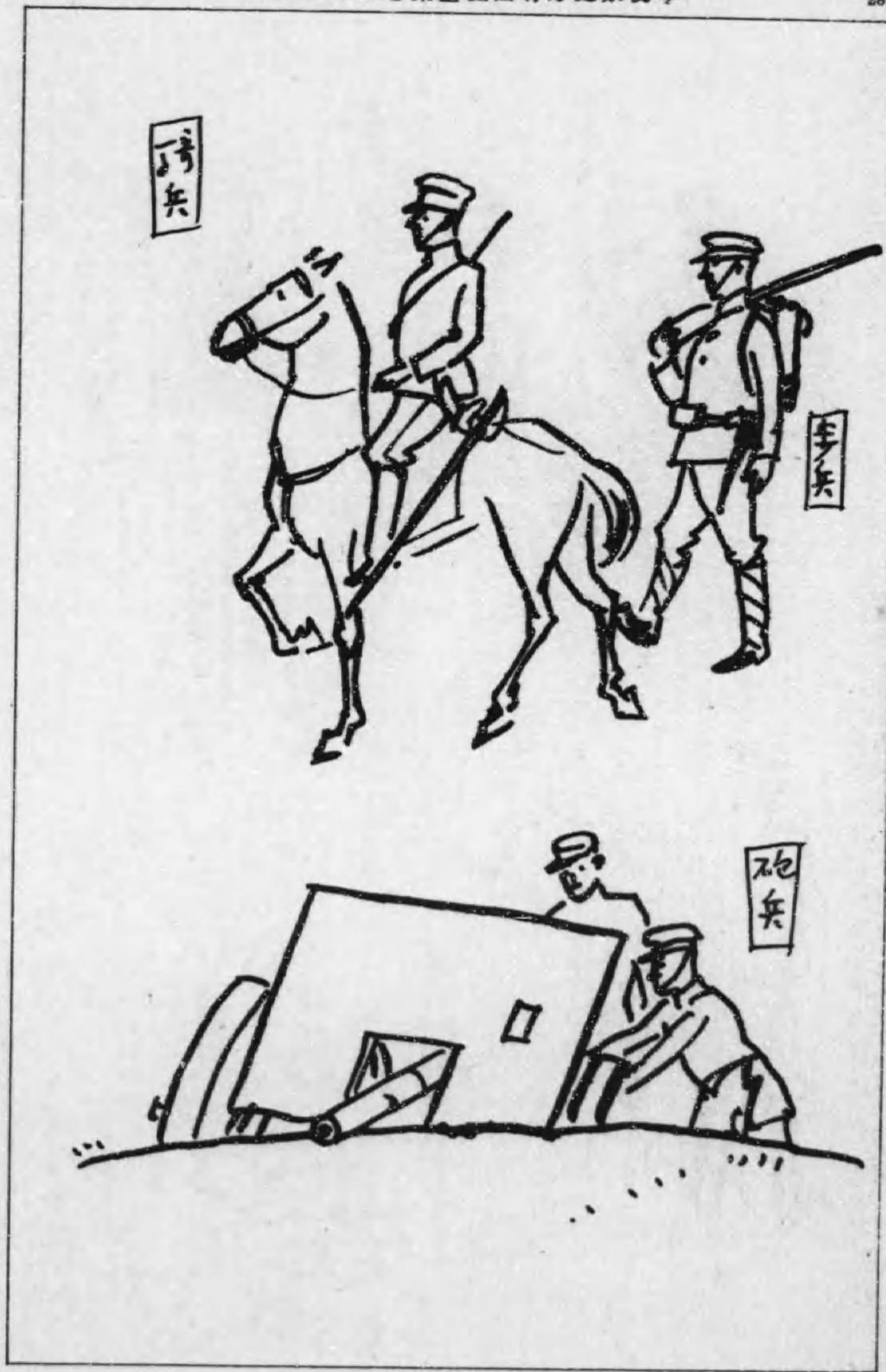




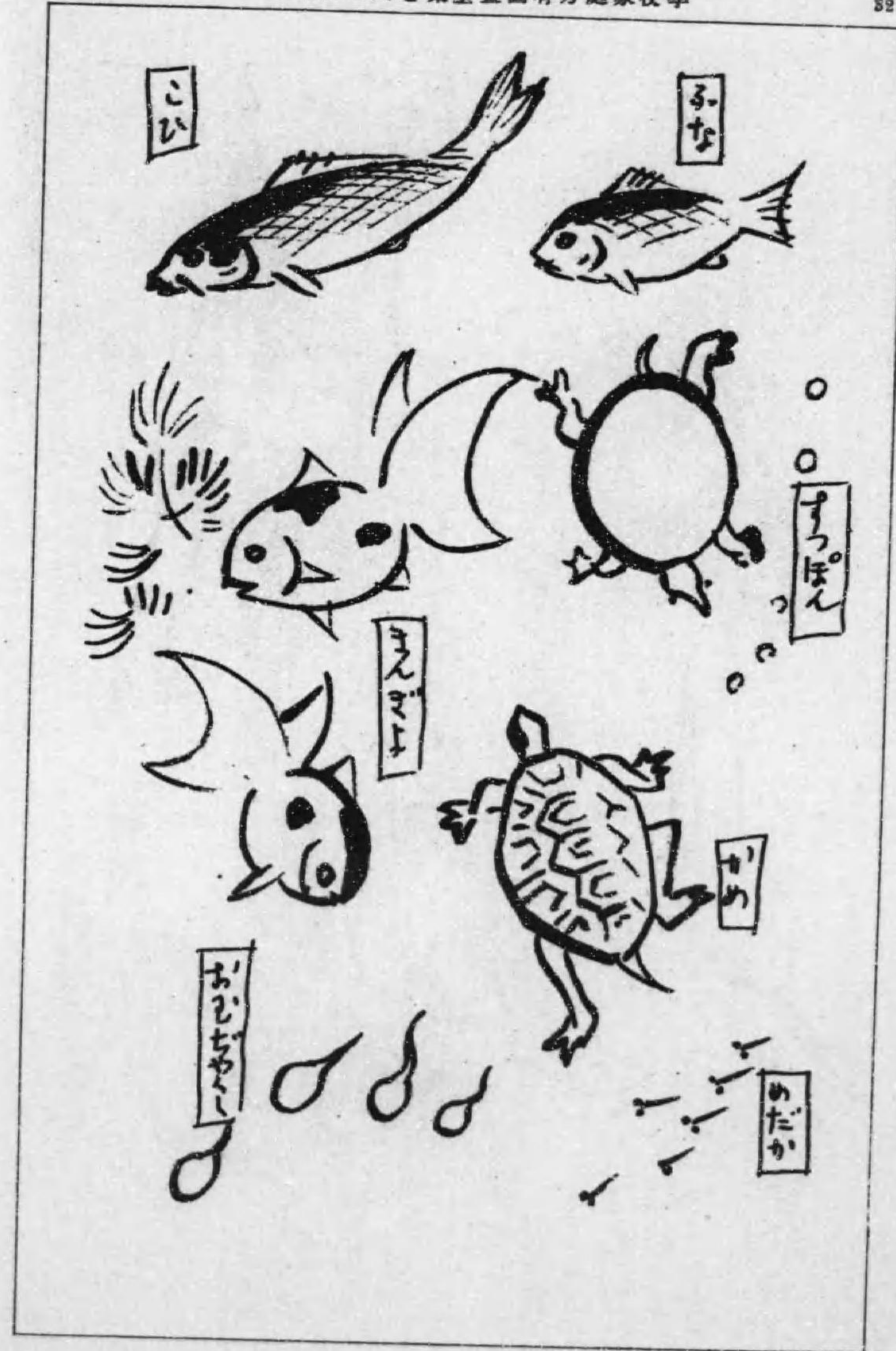


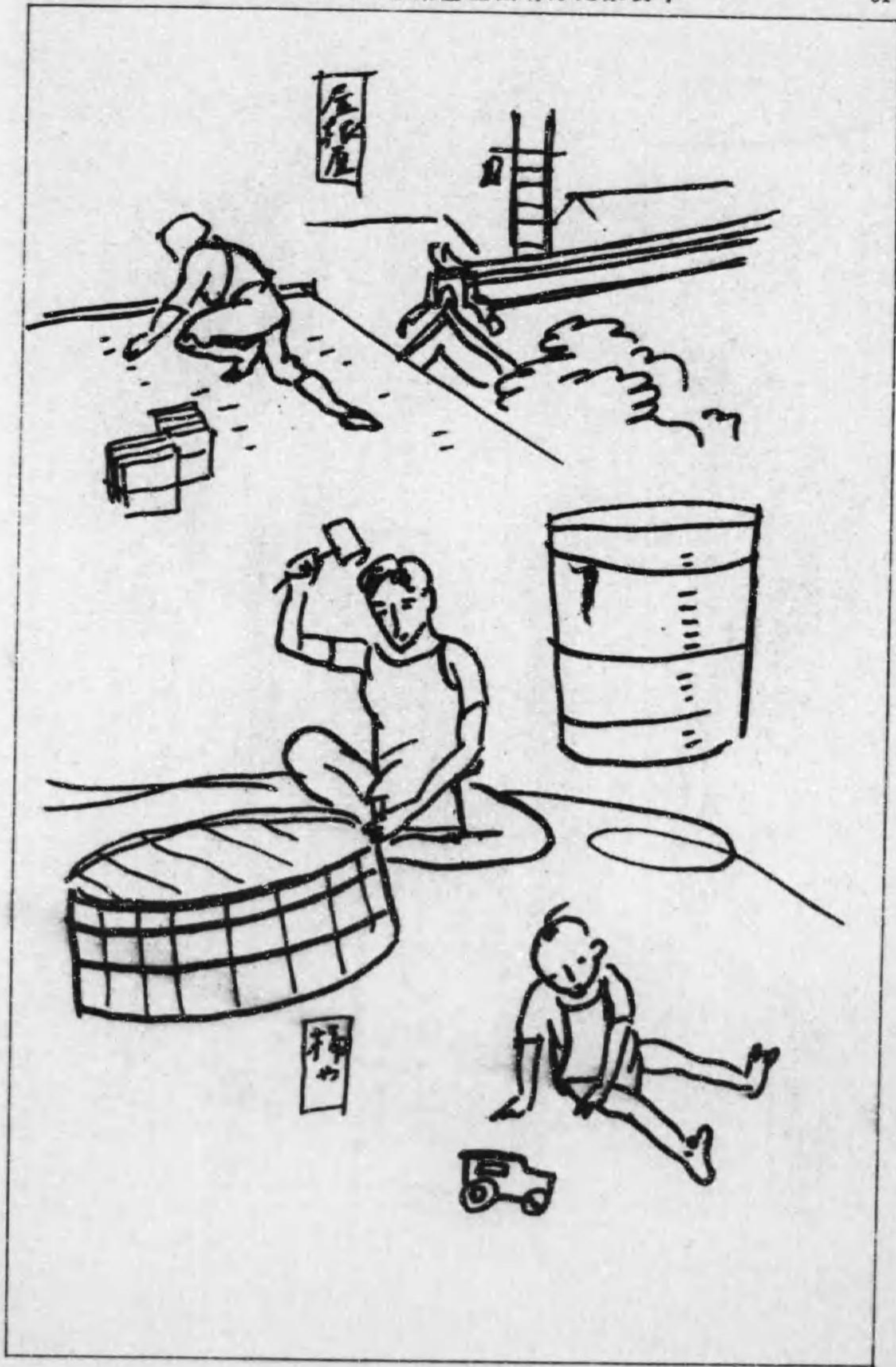


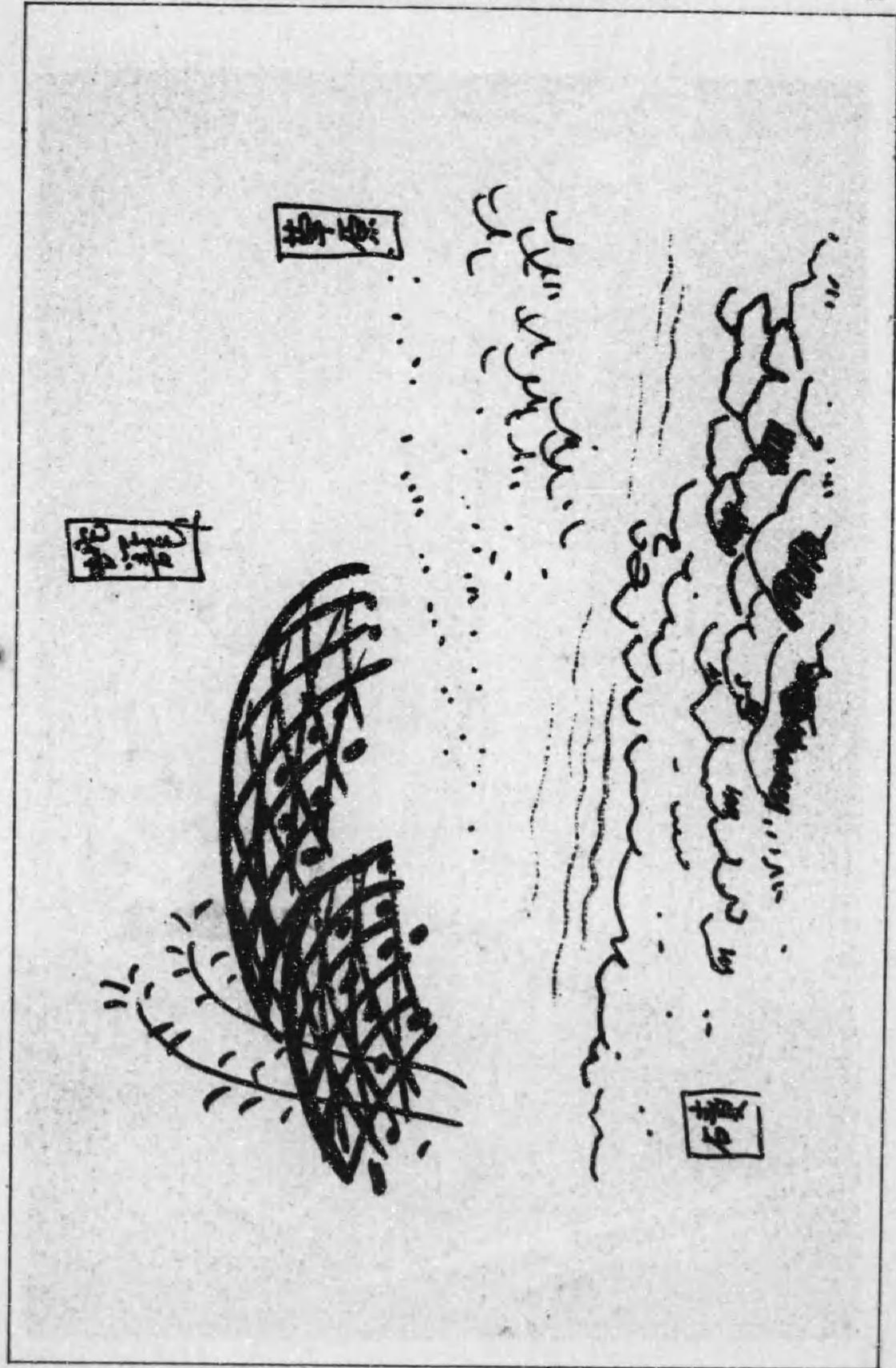
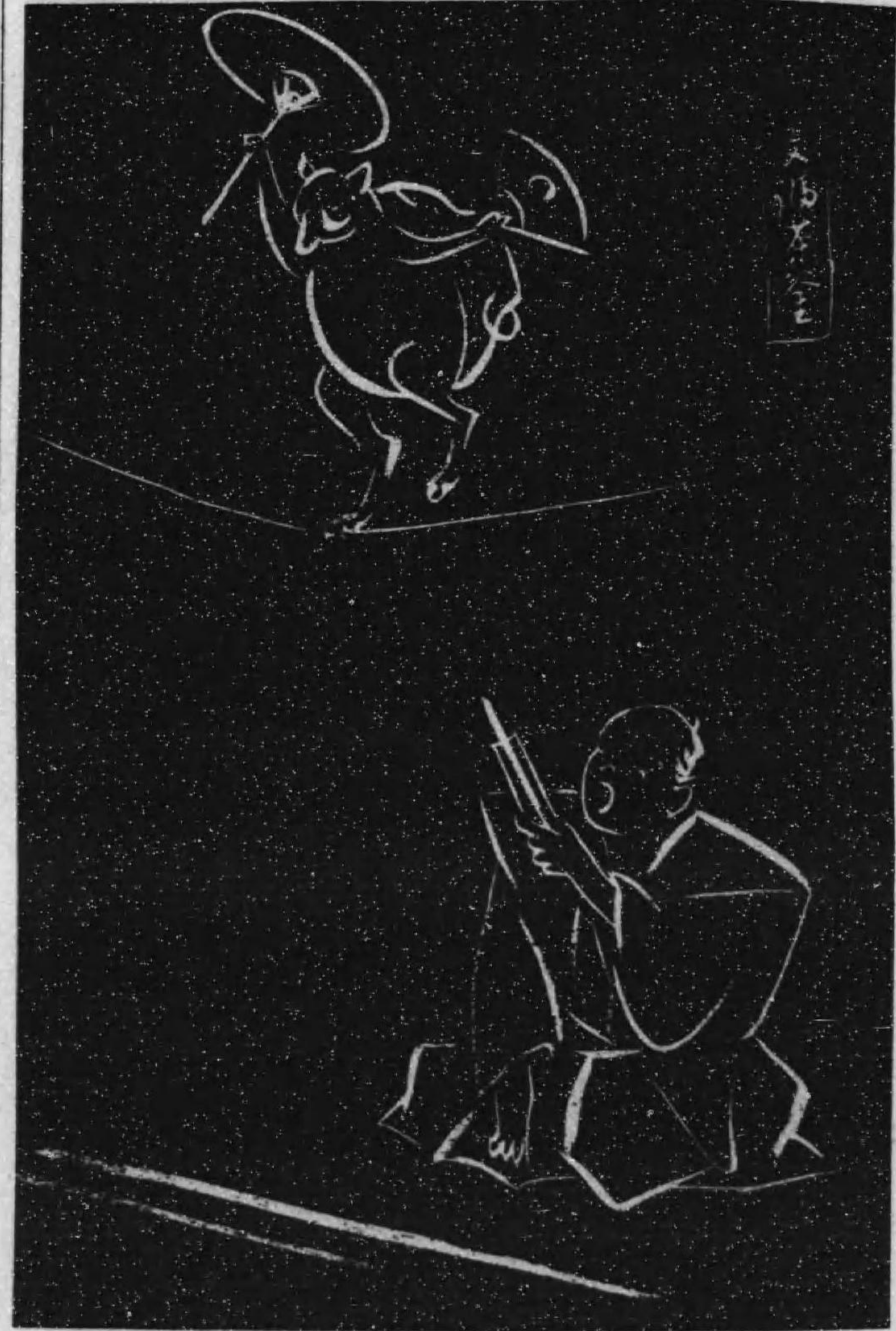


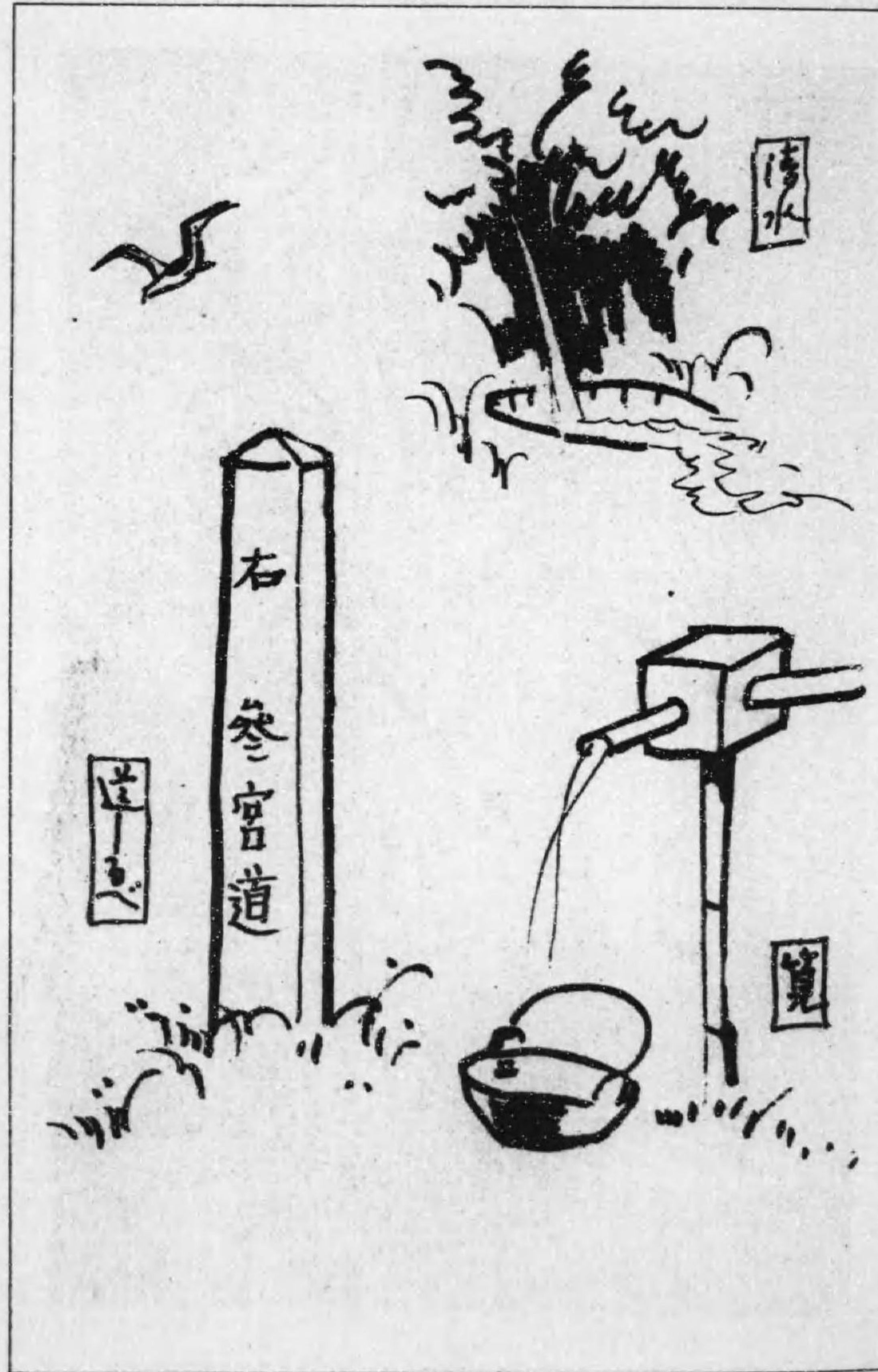




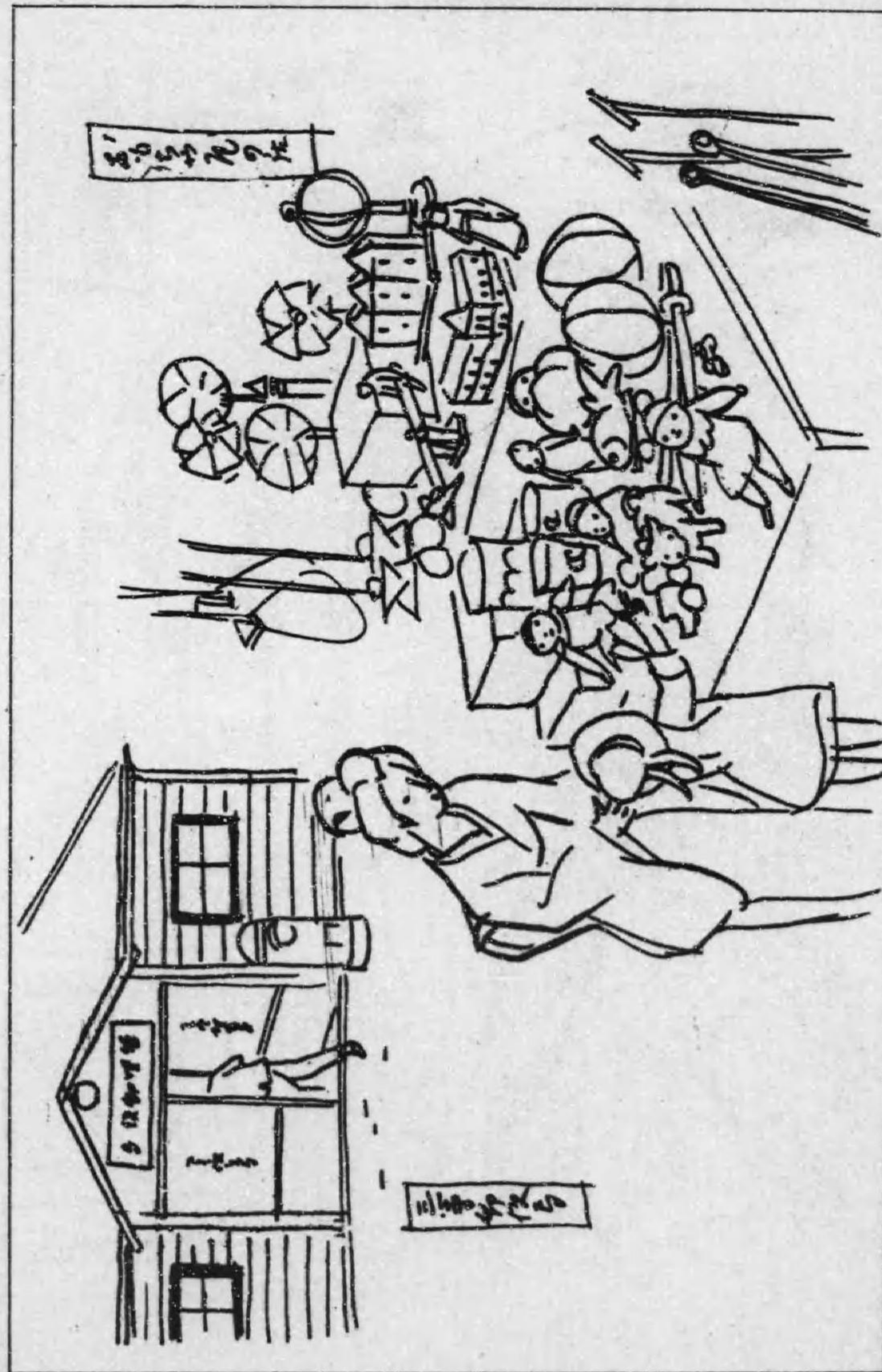






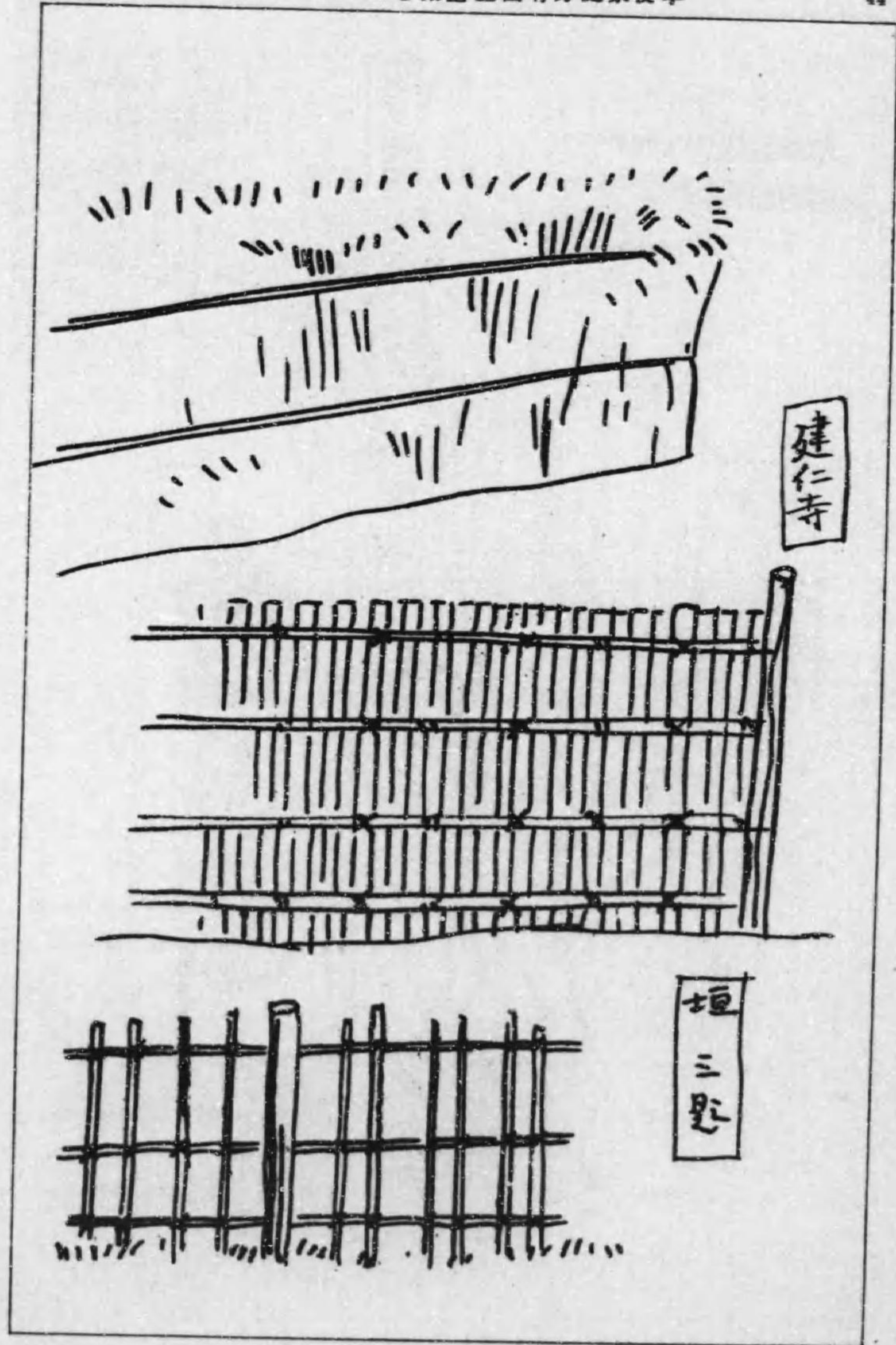








銅像と教會堂

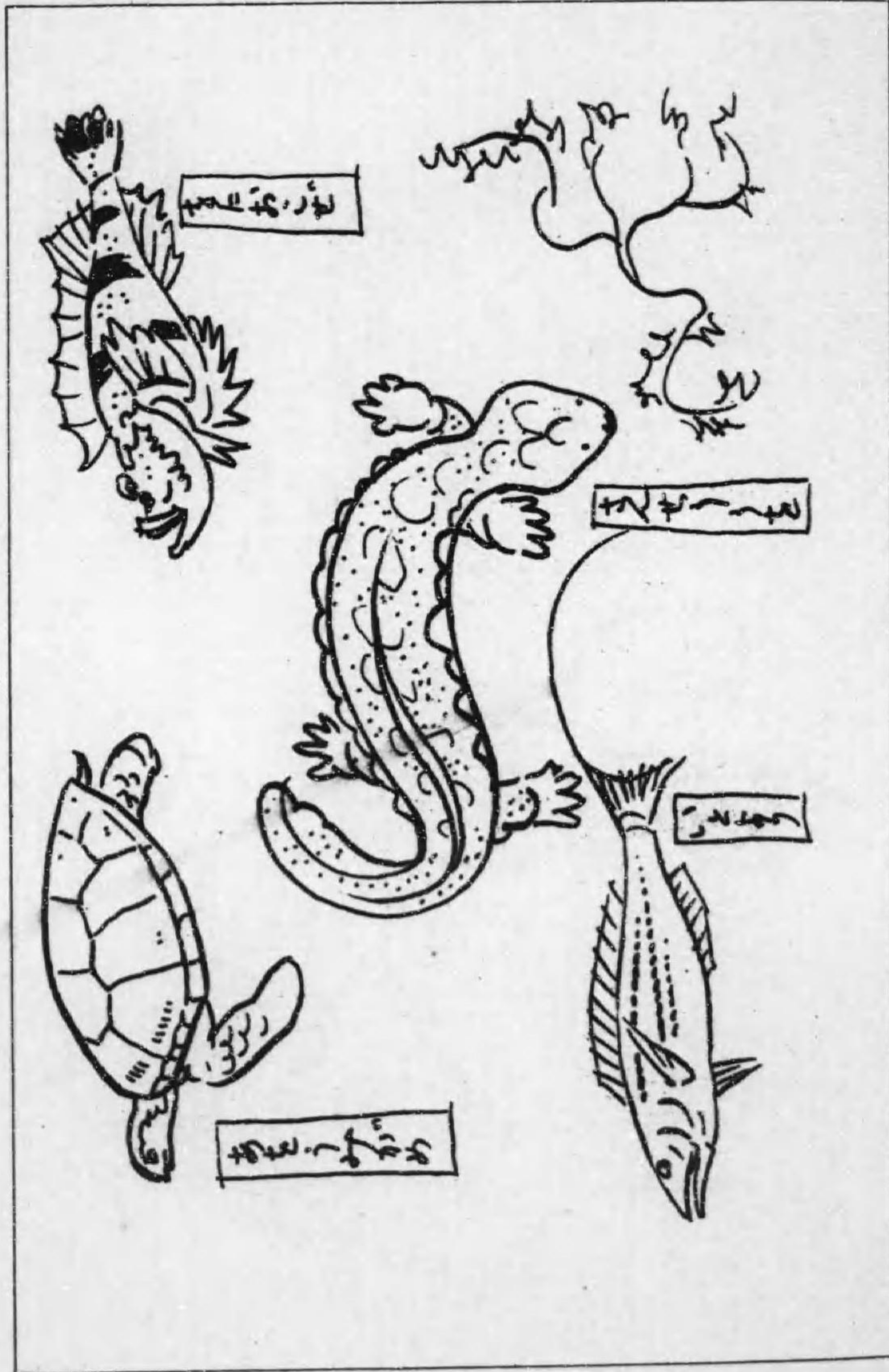


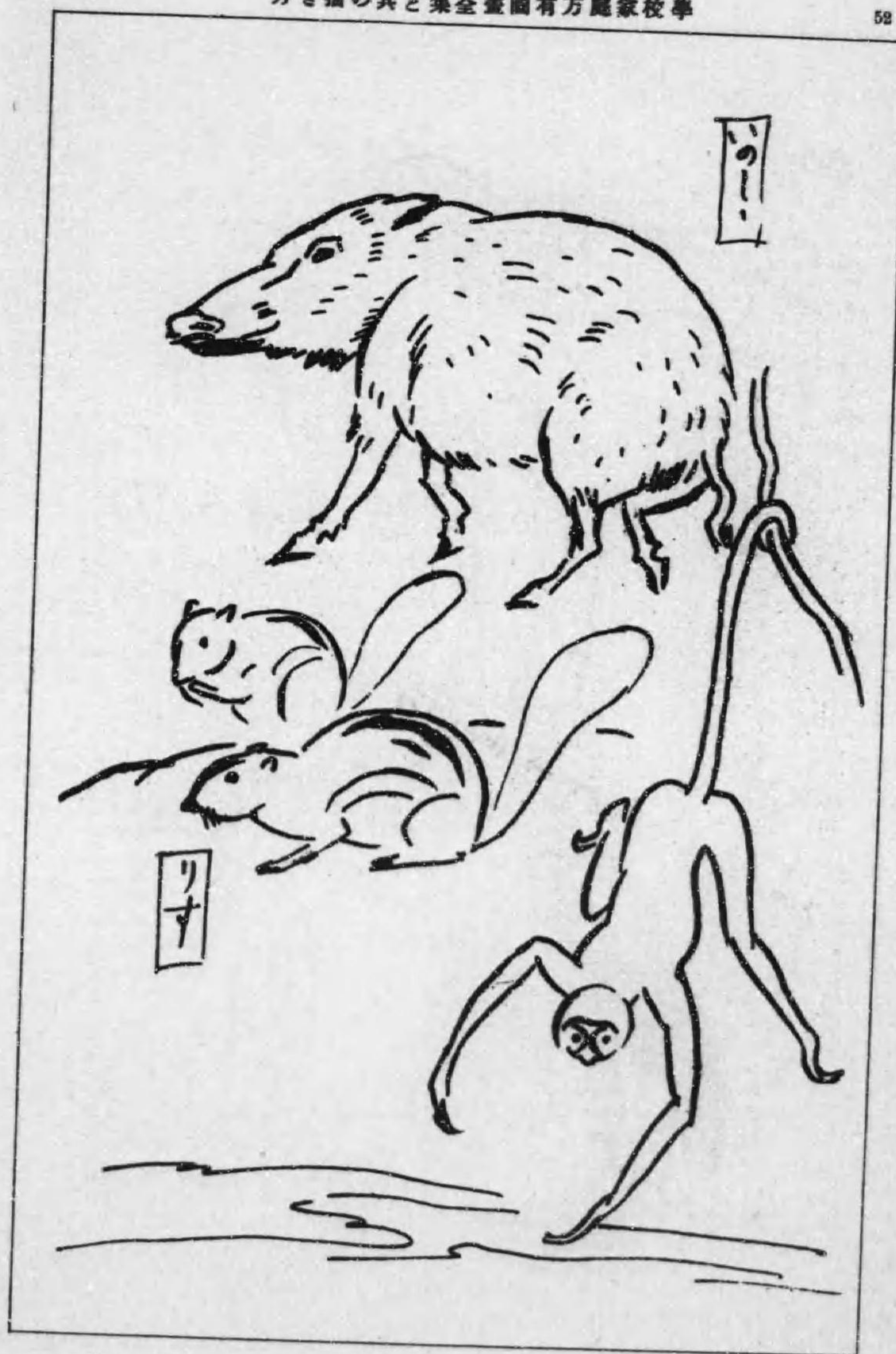
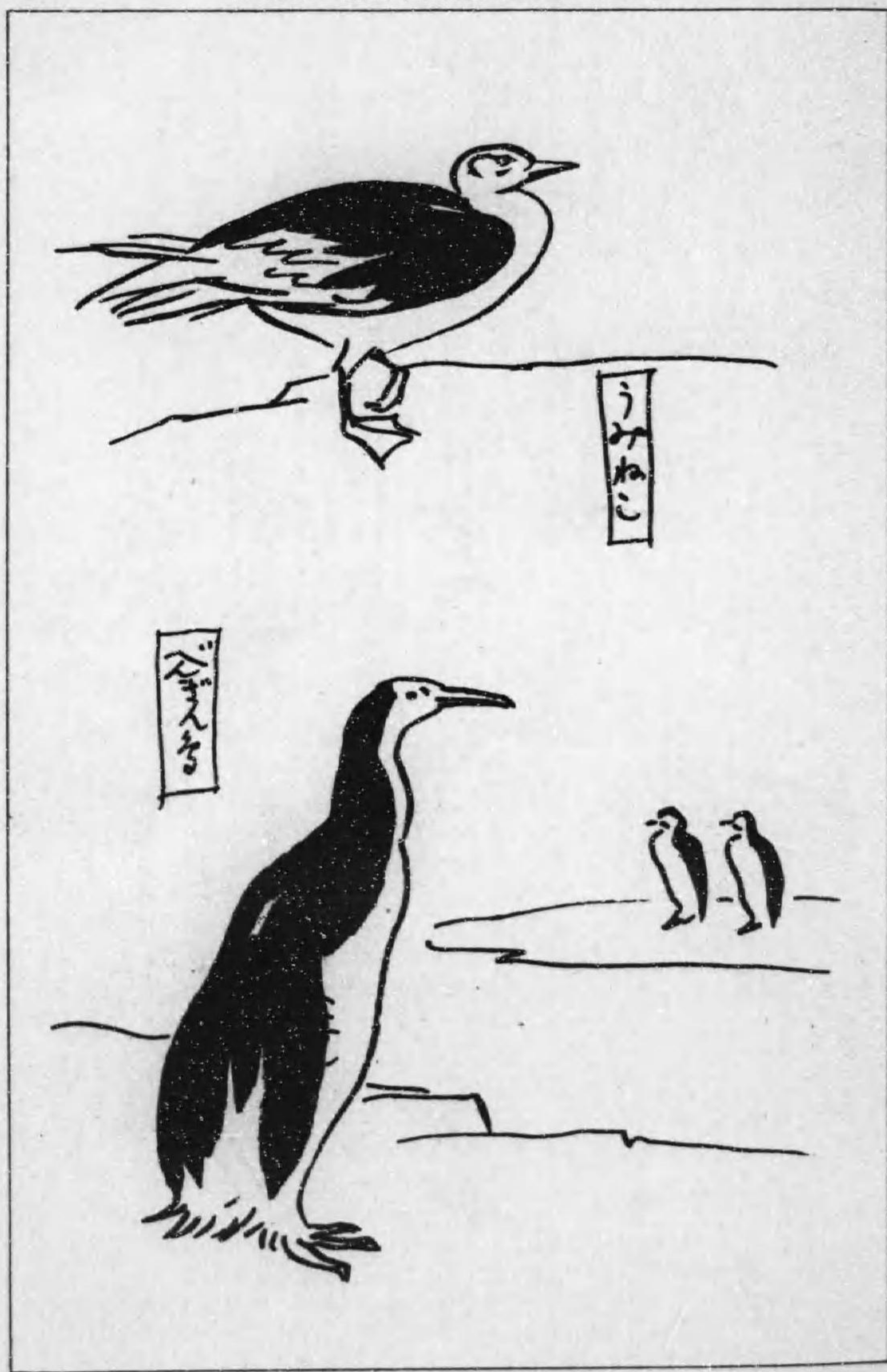
建仁寺

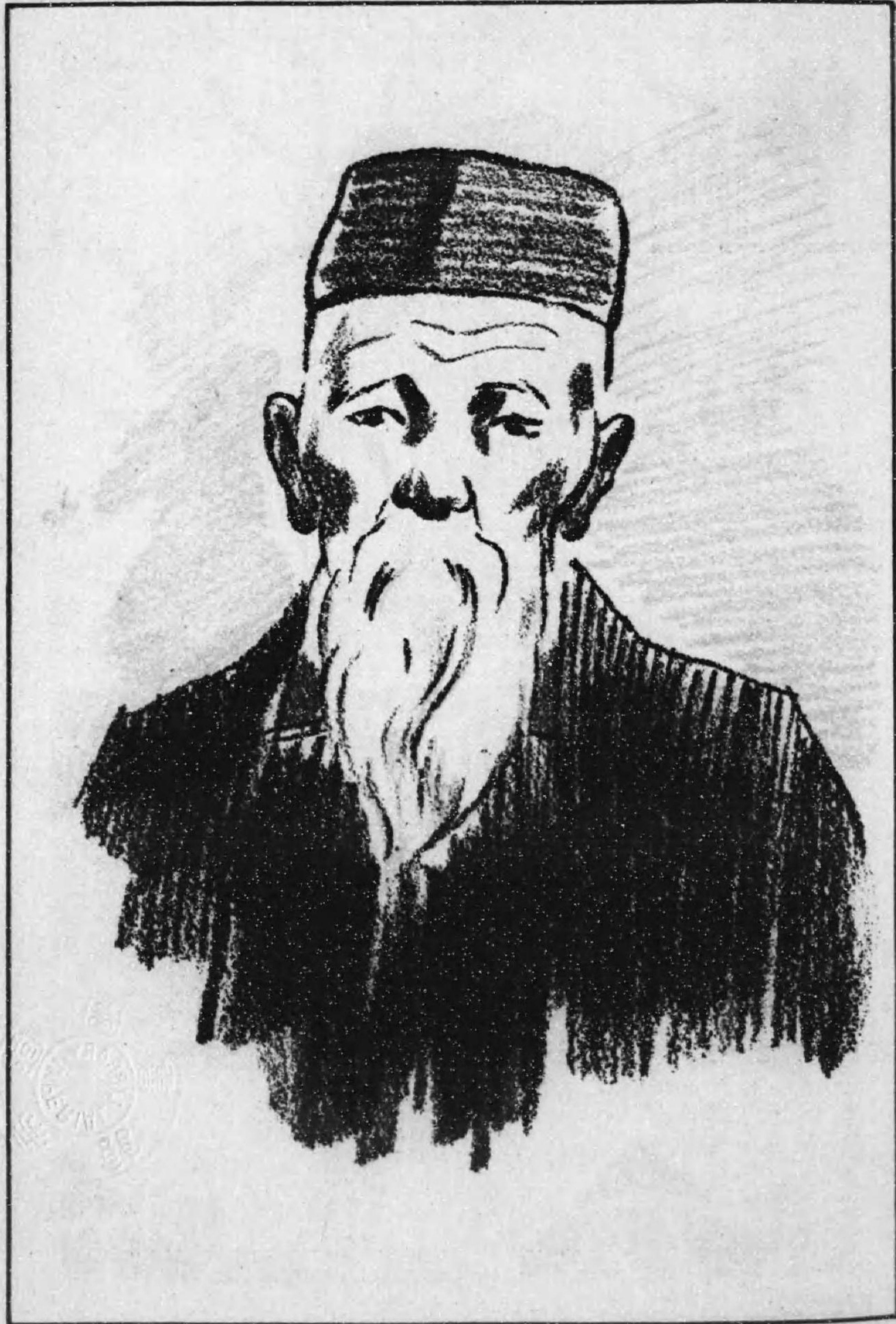
垣三題

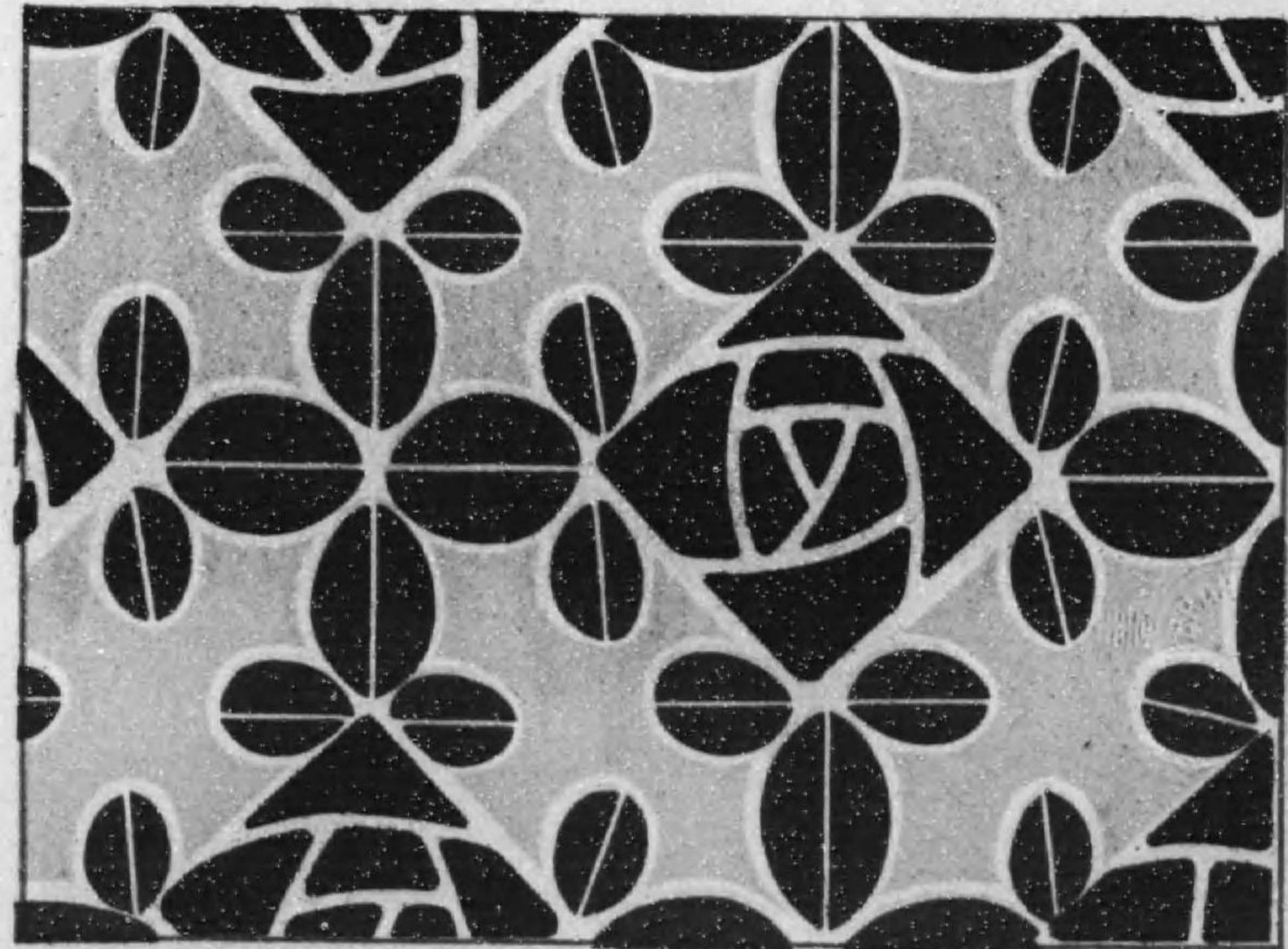


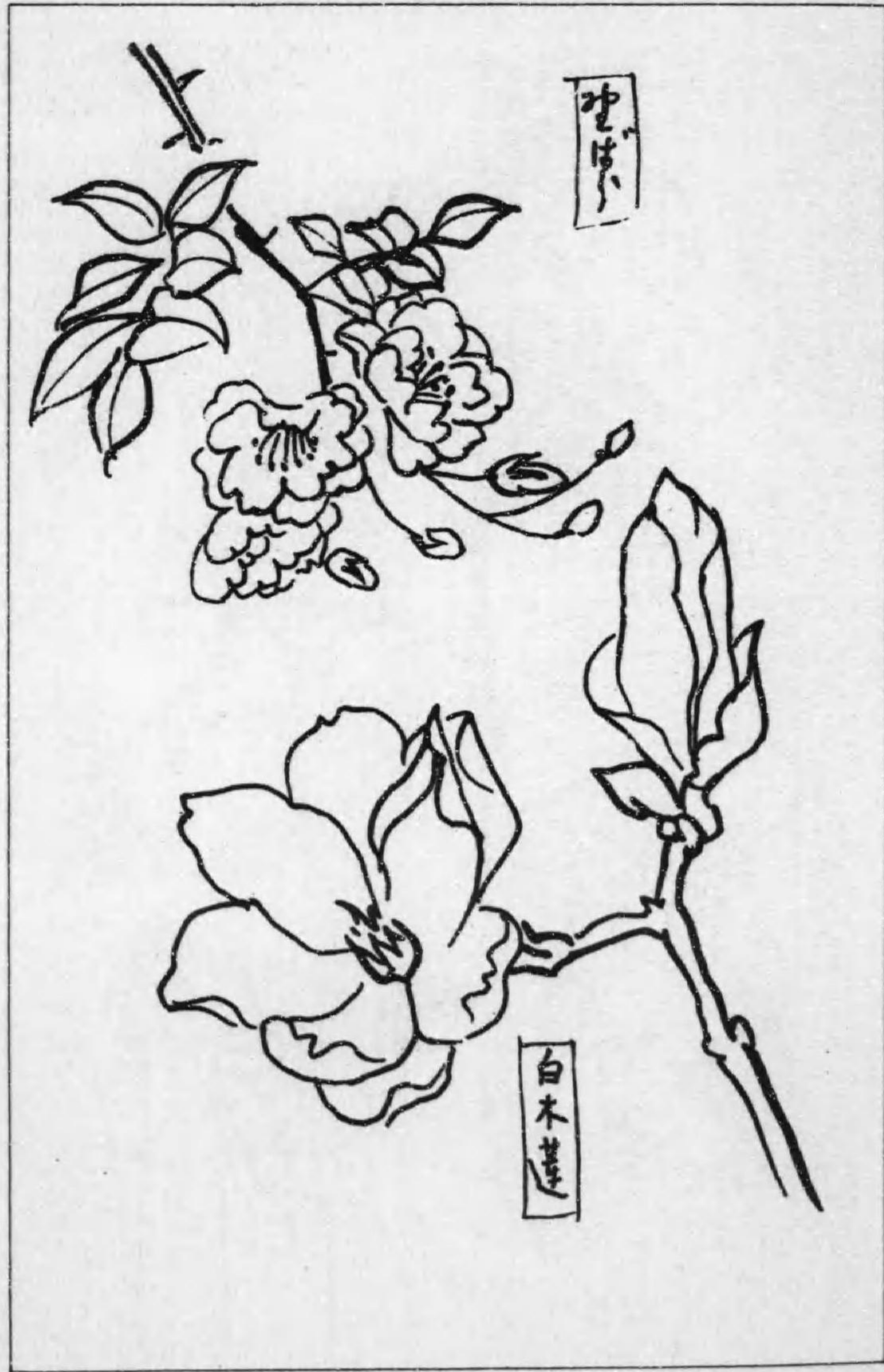






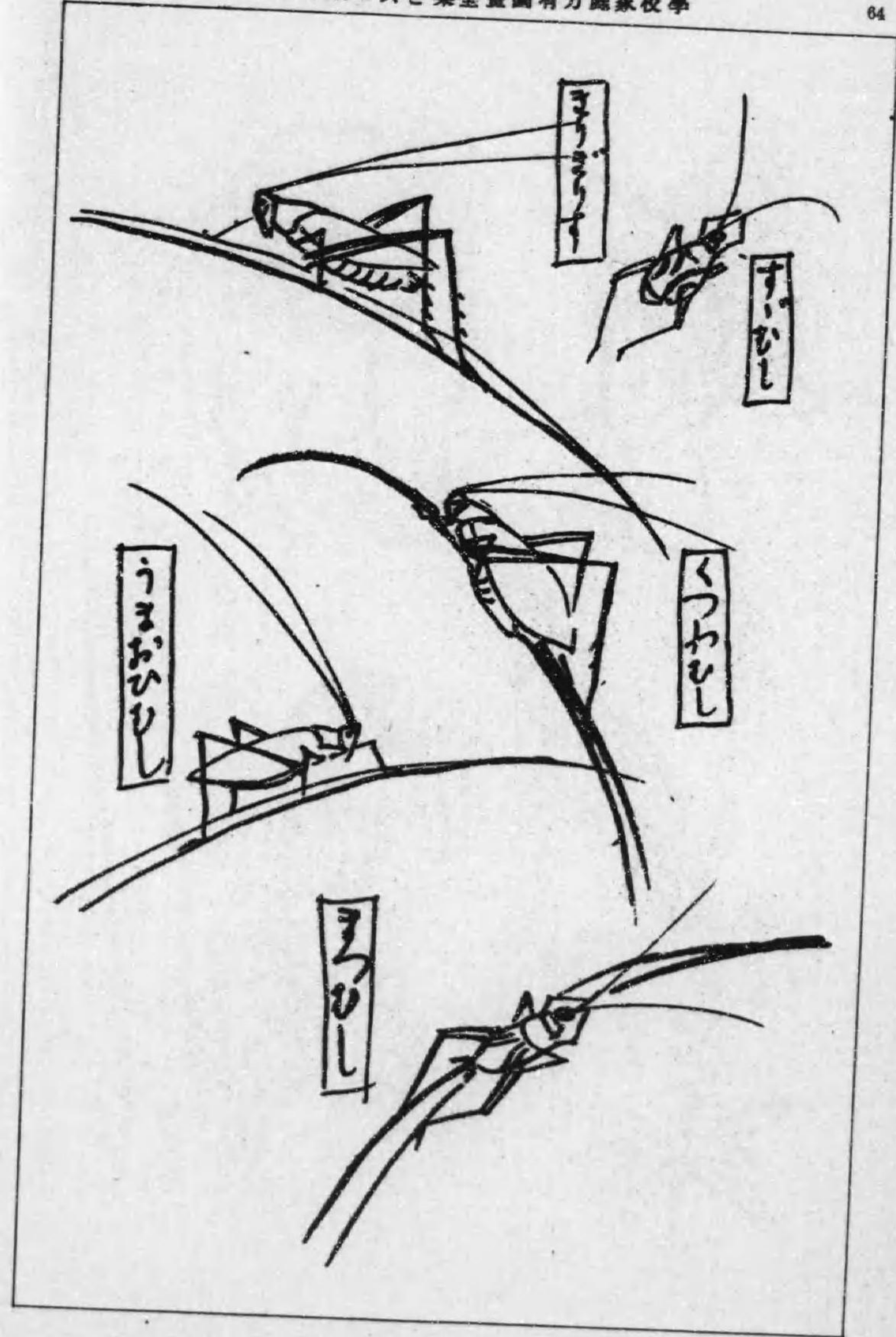
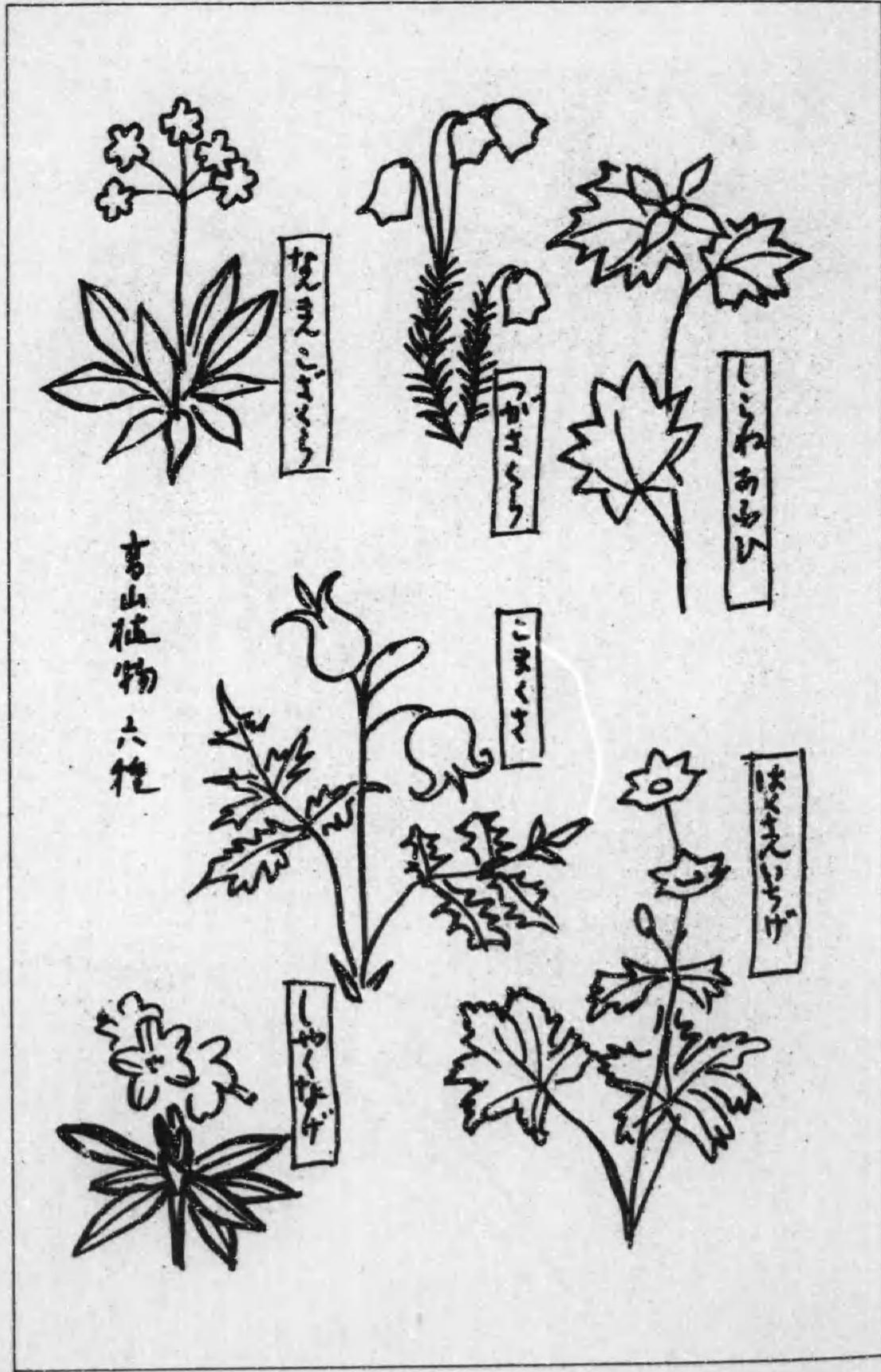








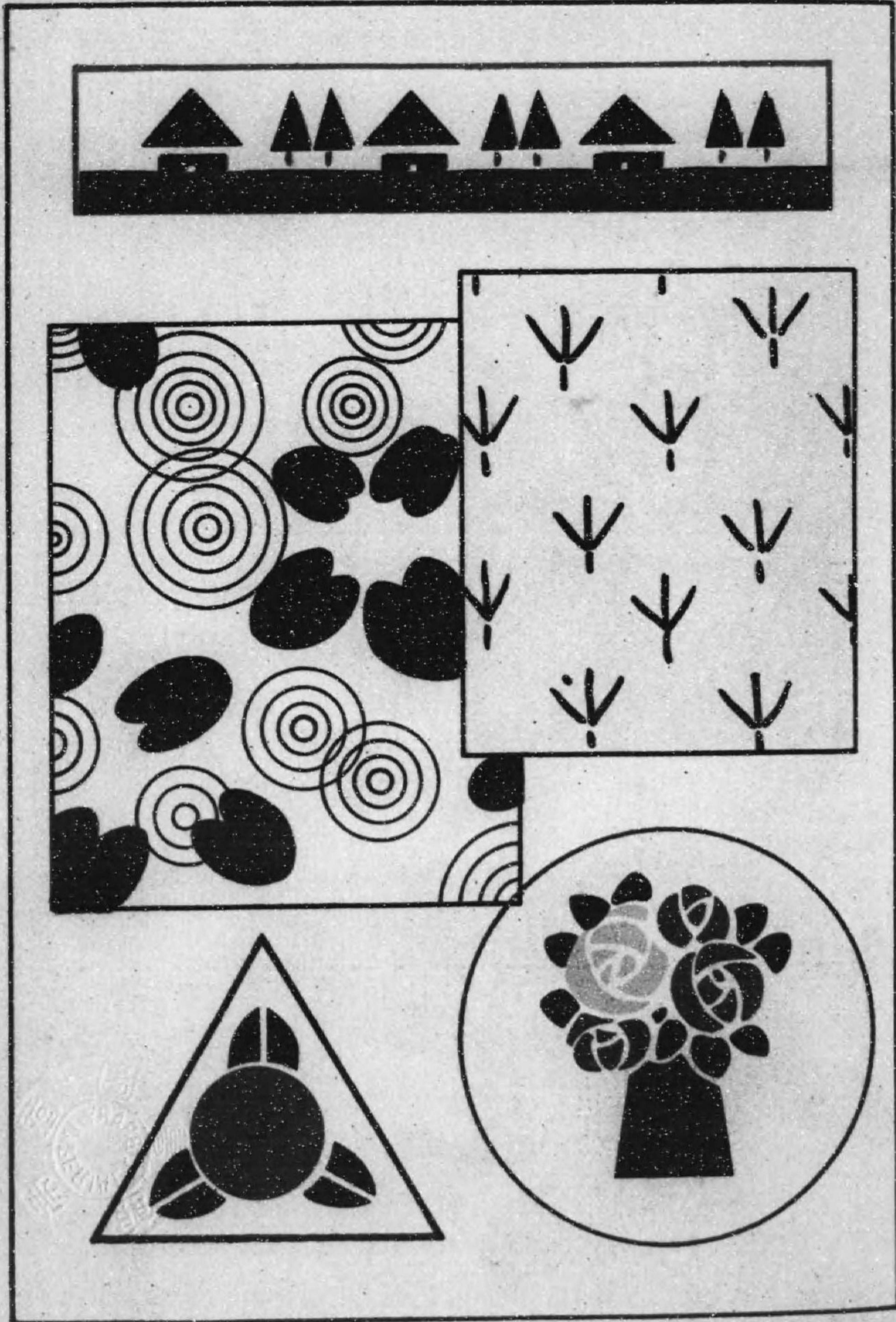






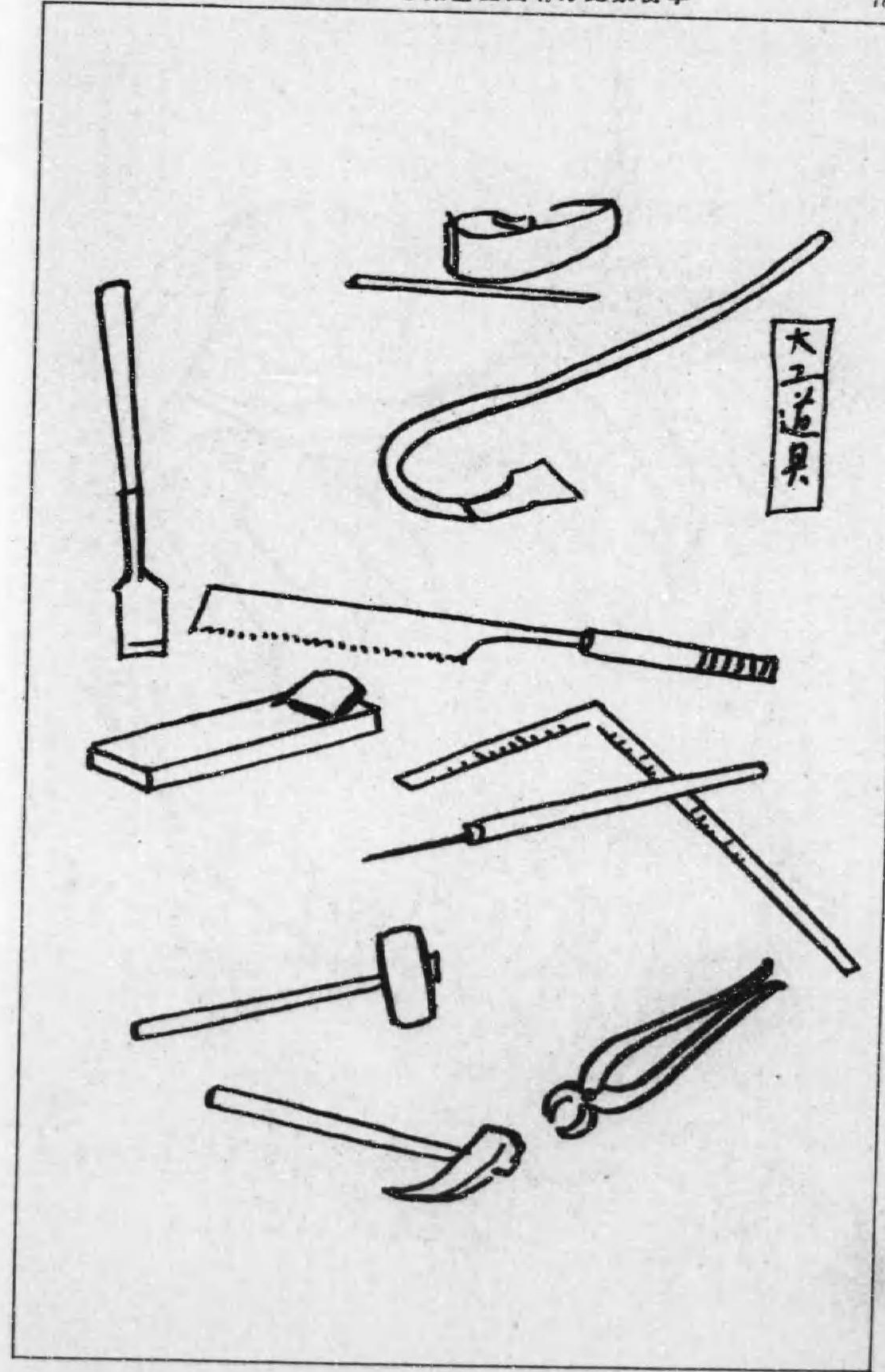
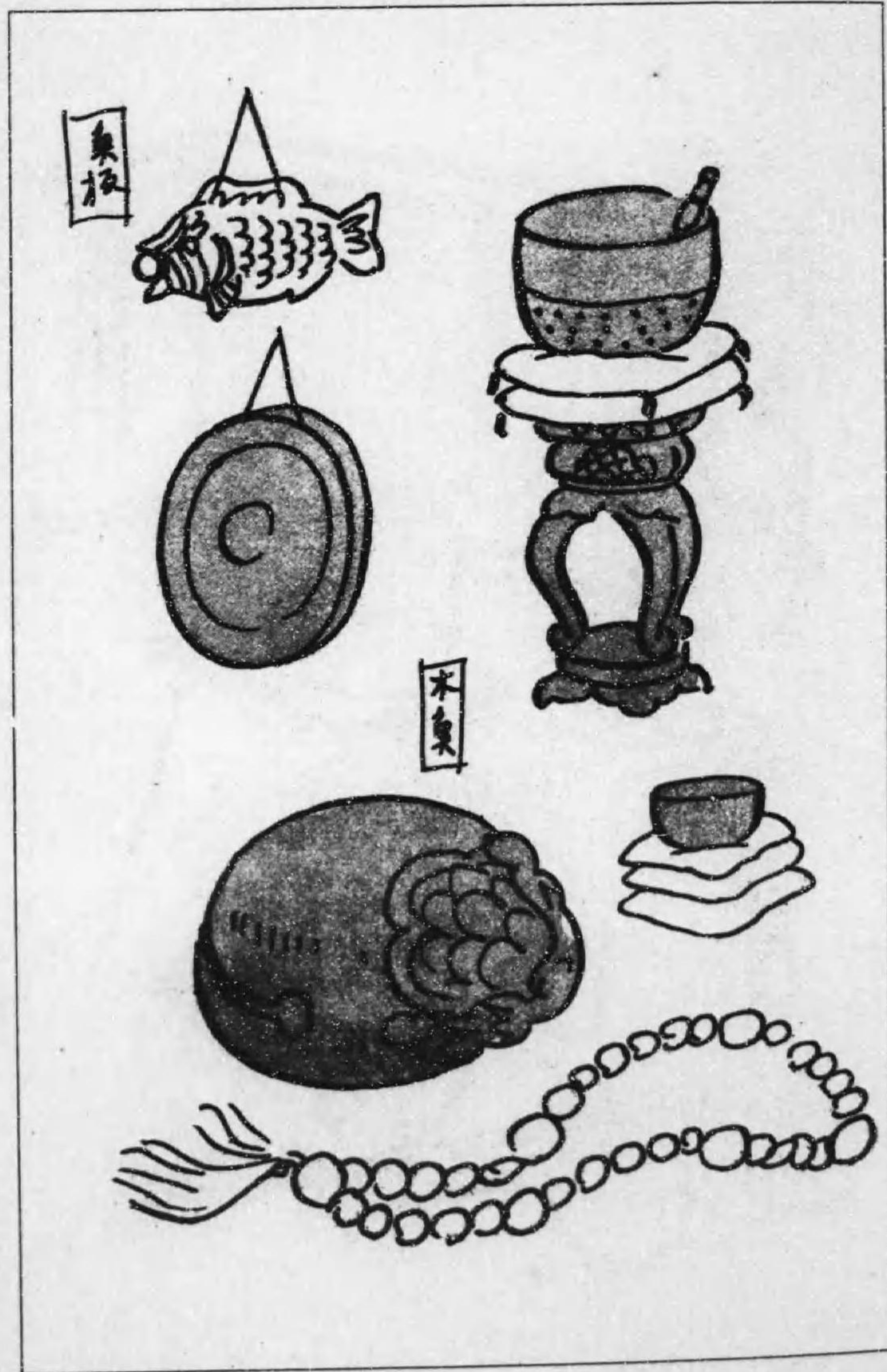


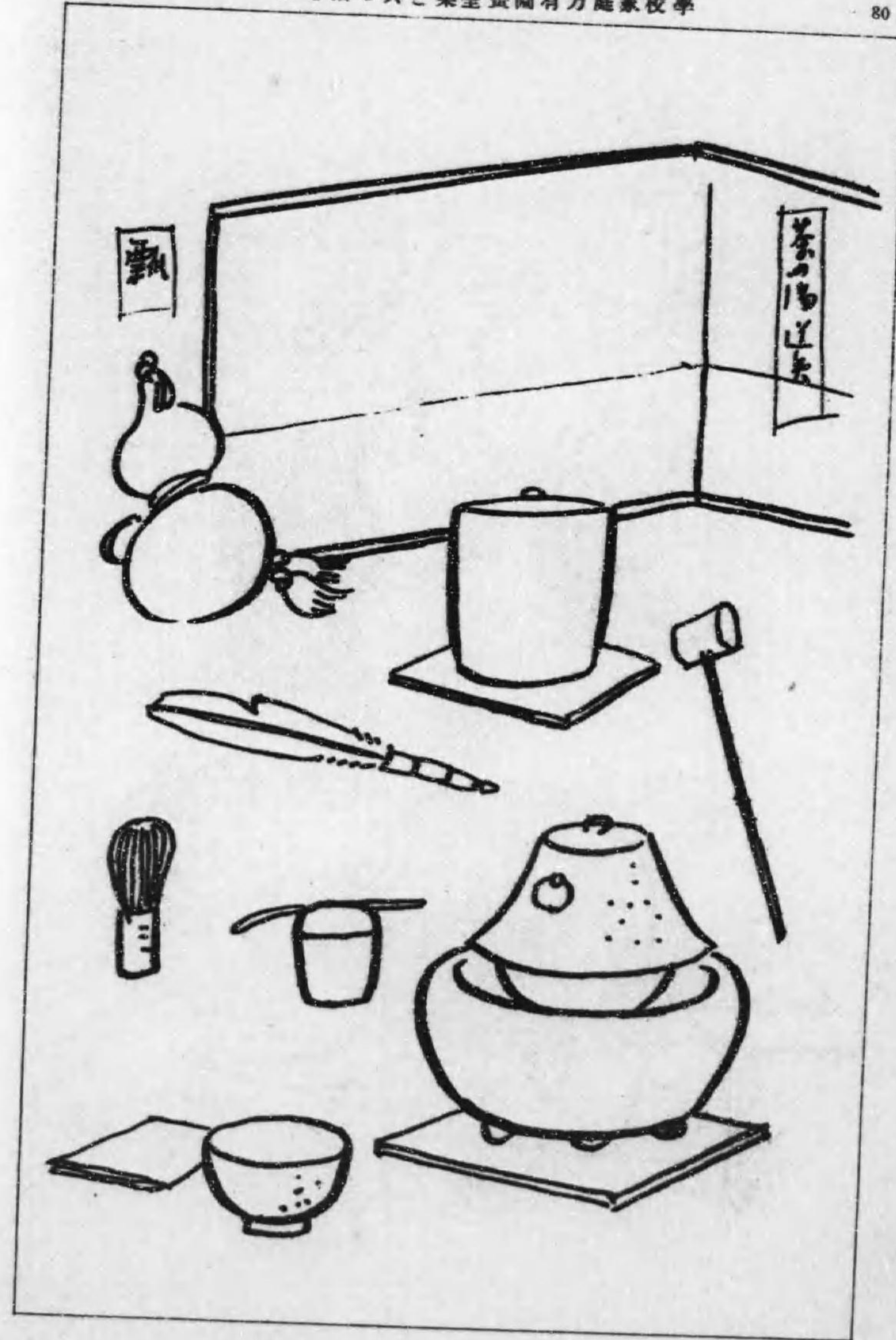


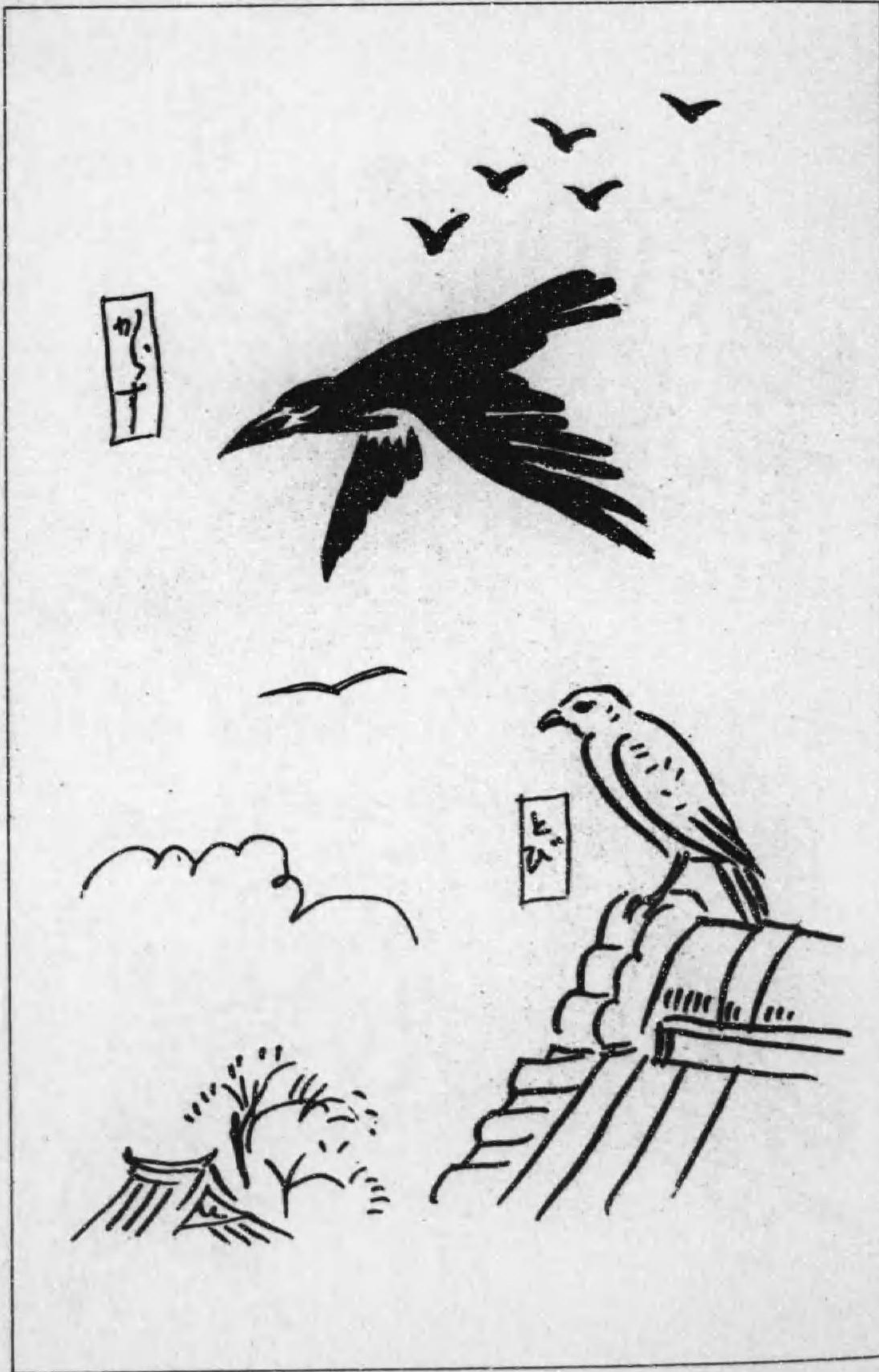


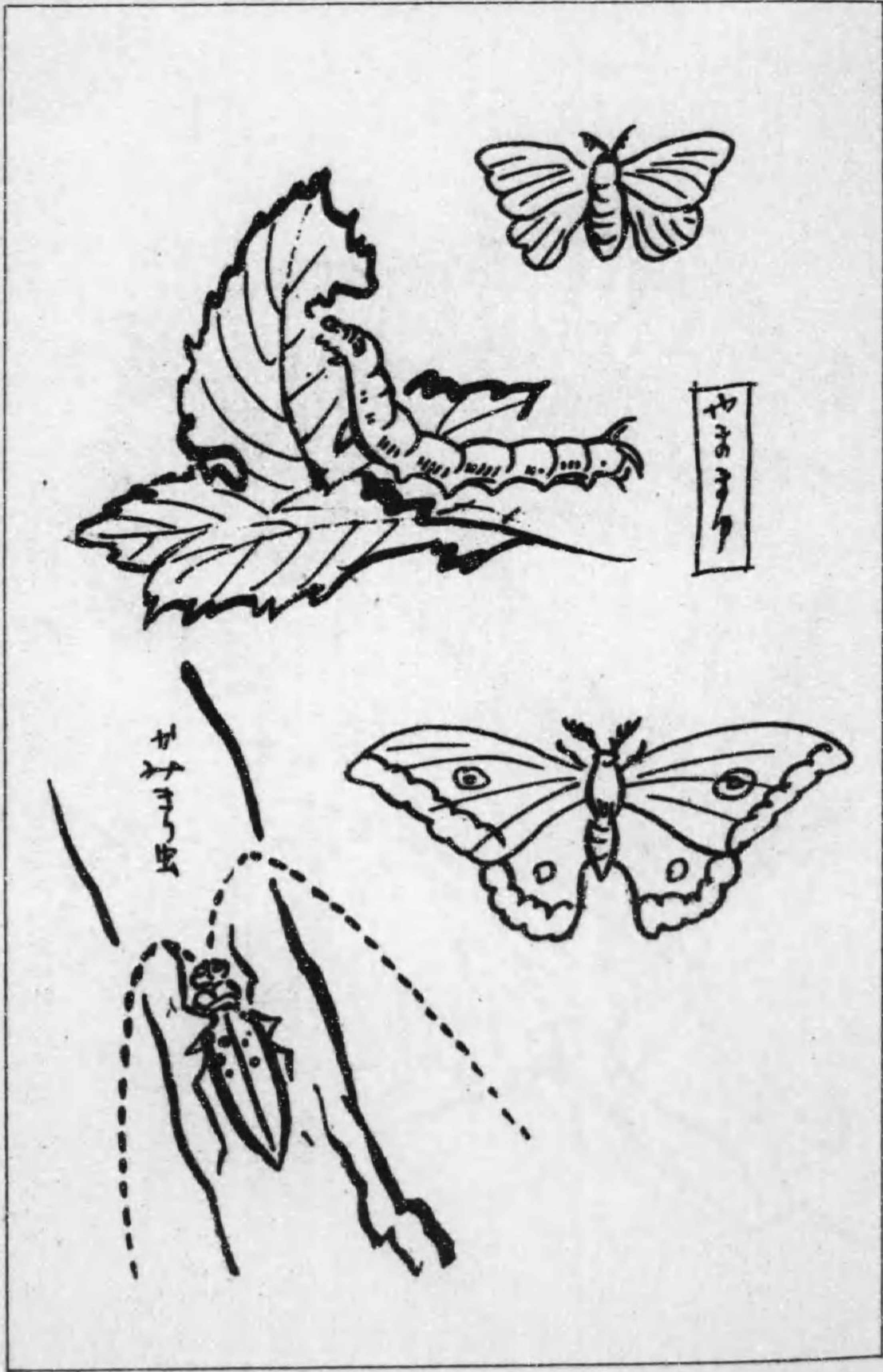


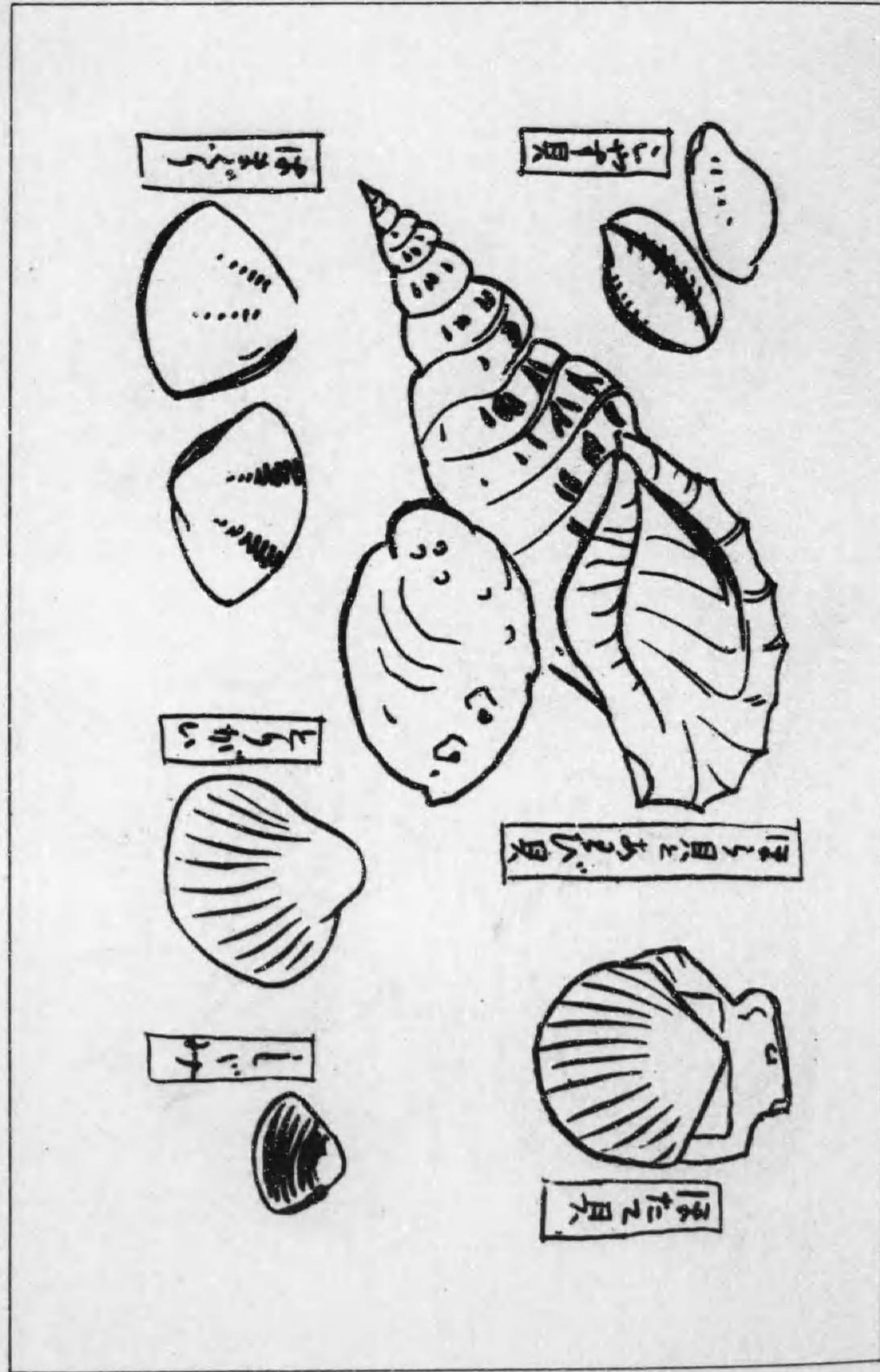


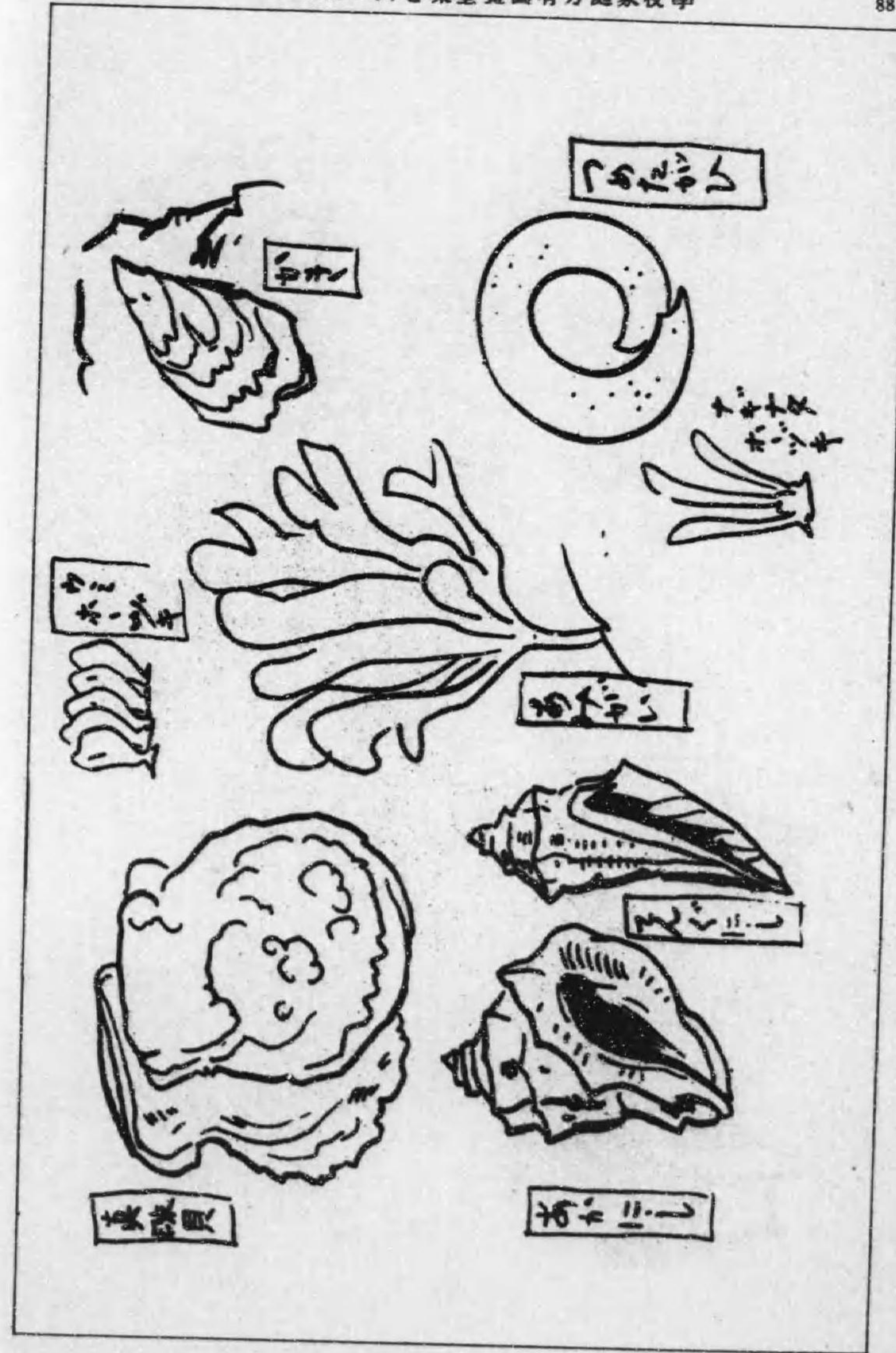


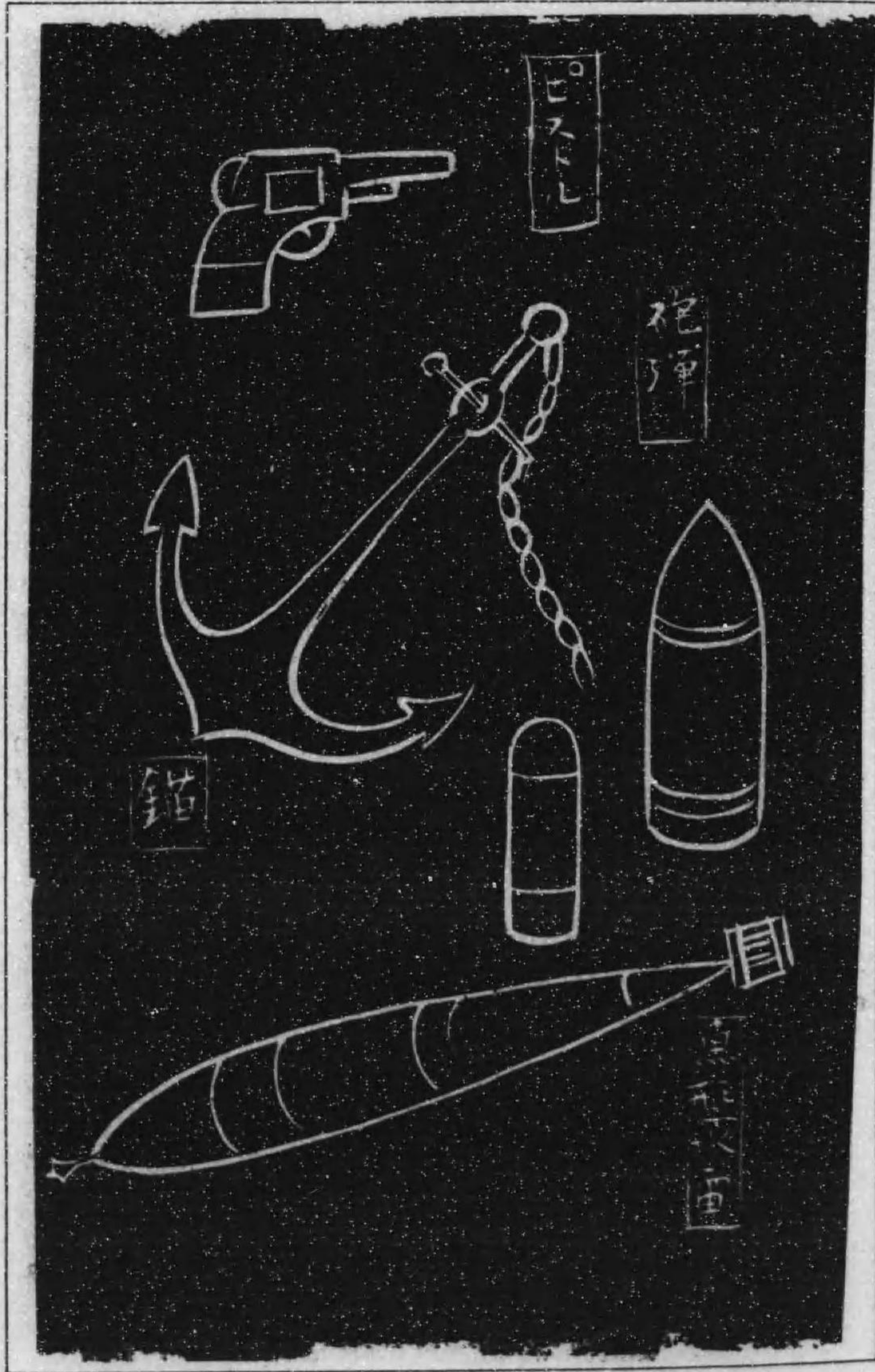










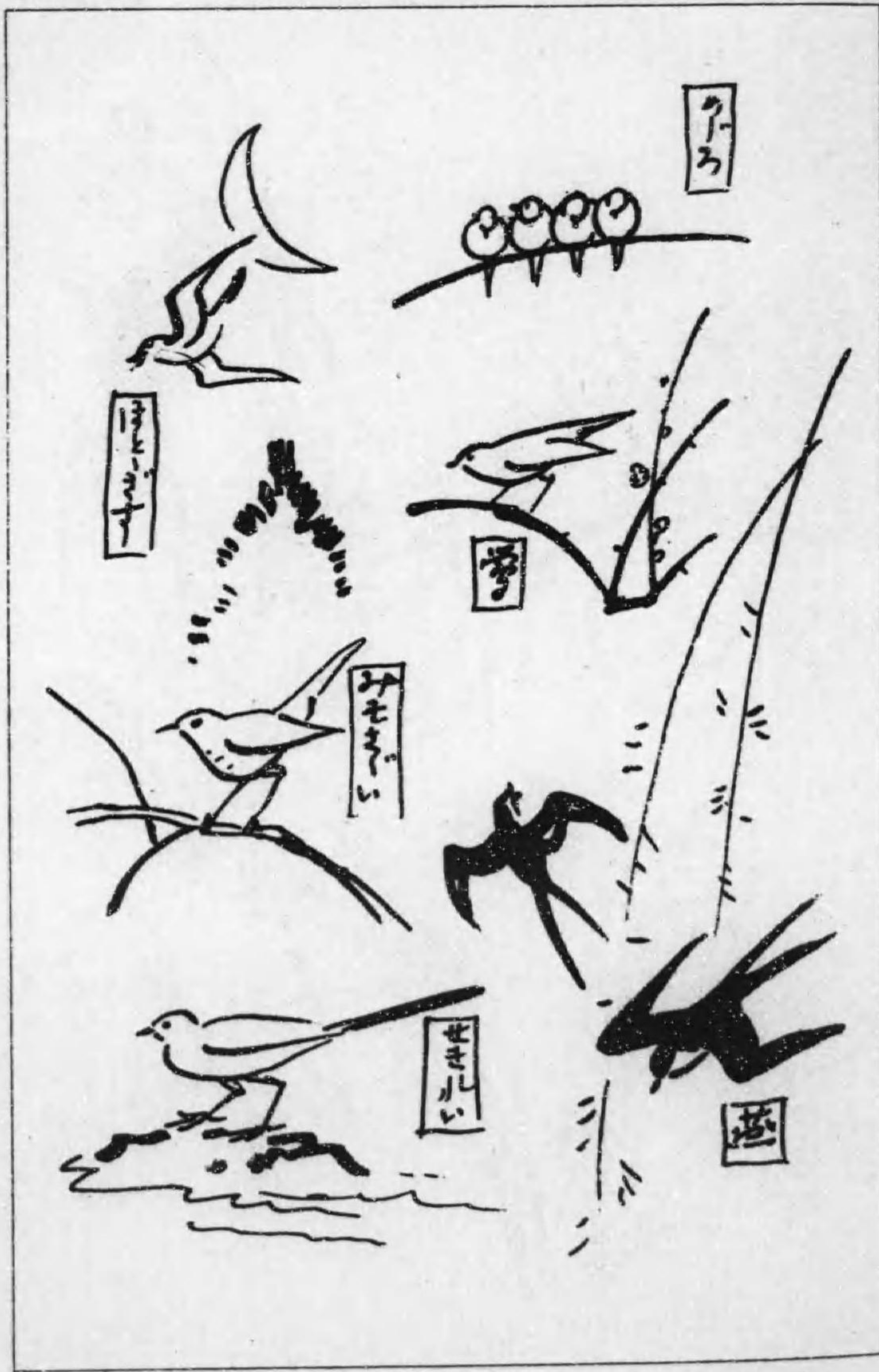


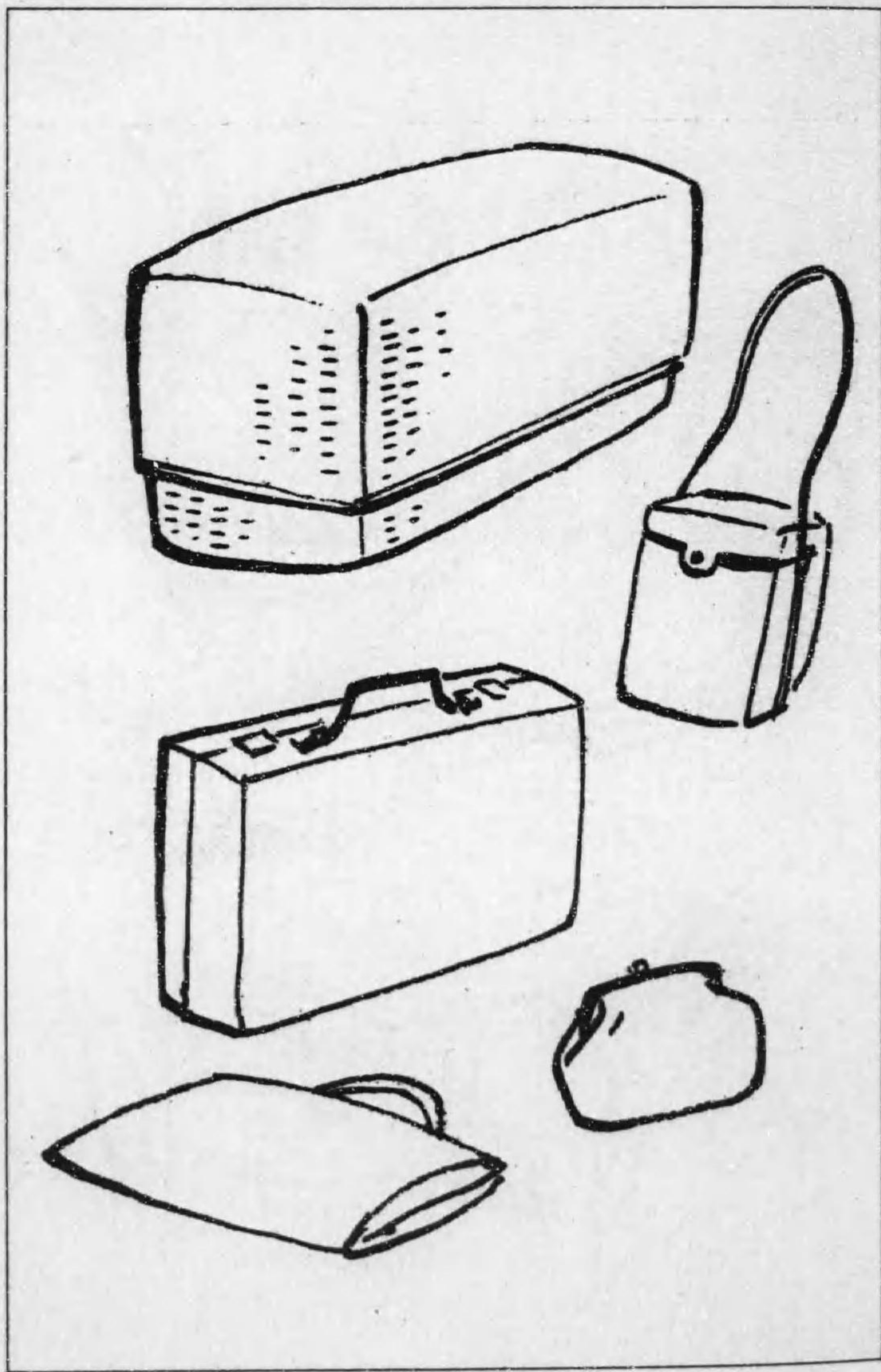




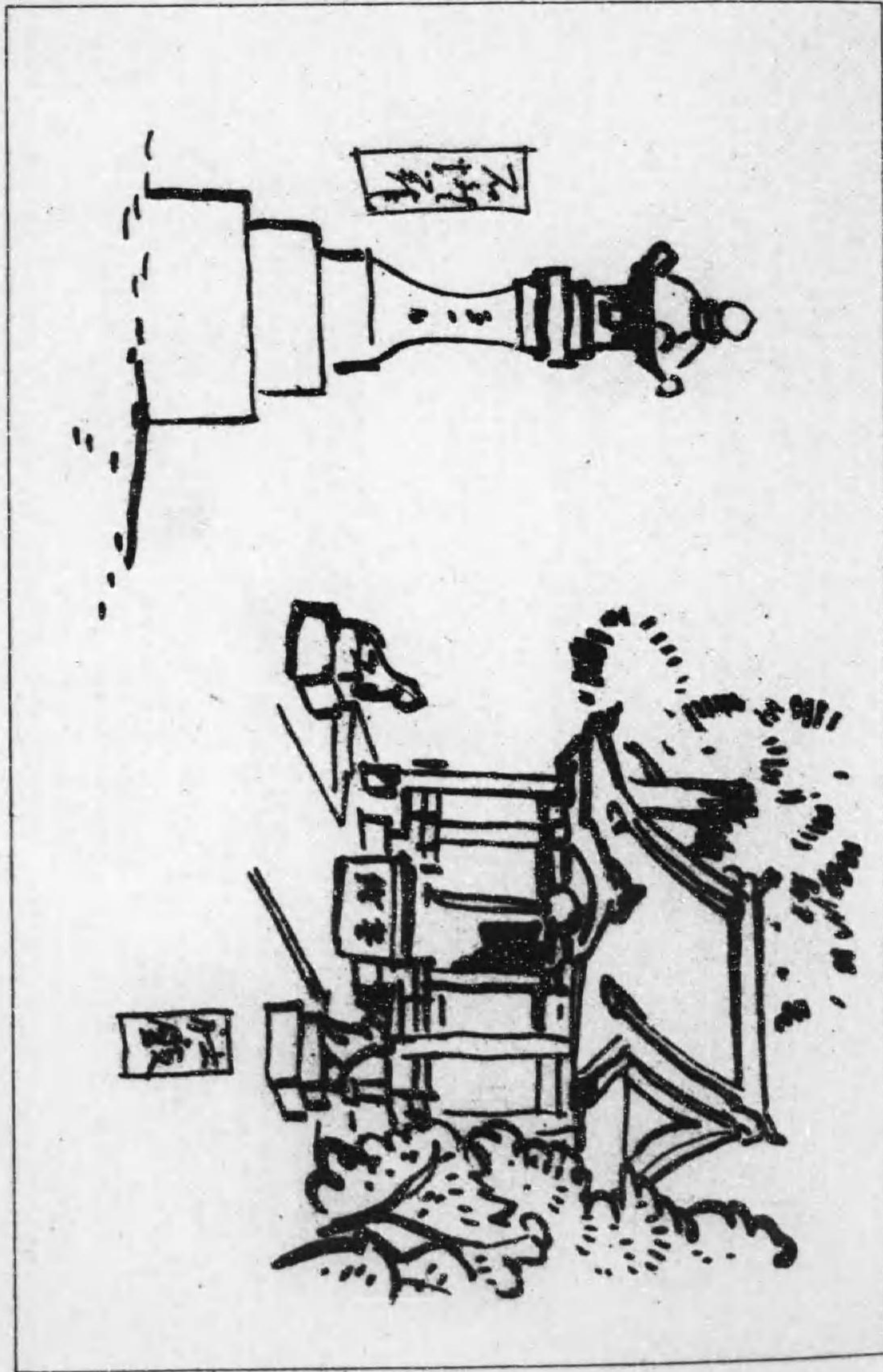


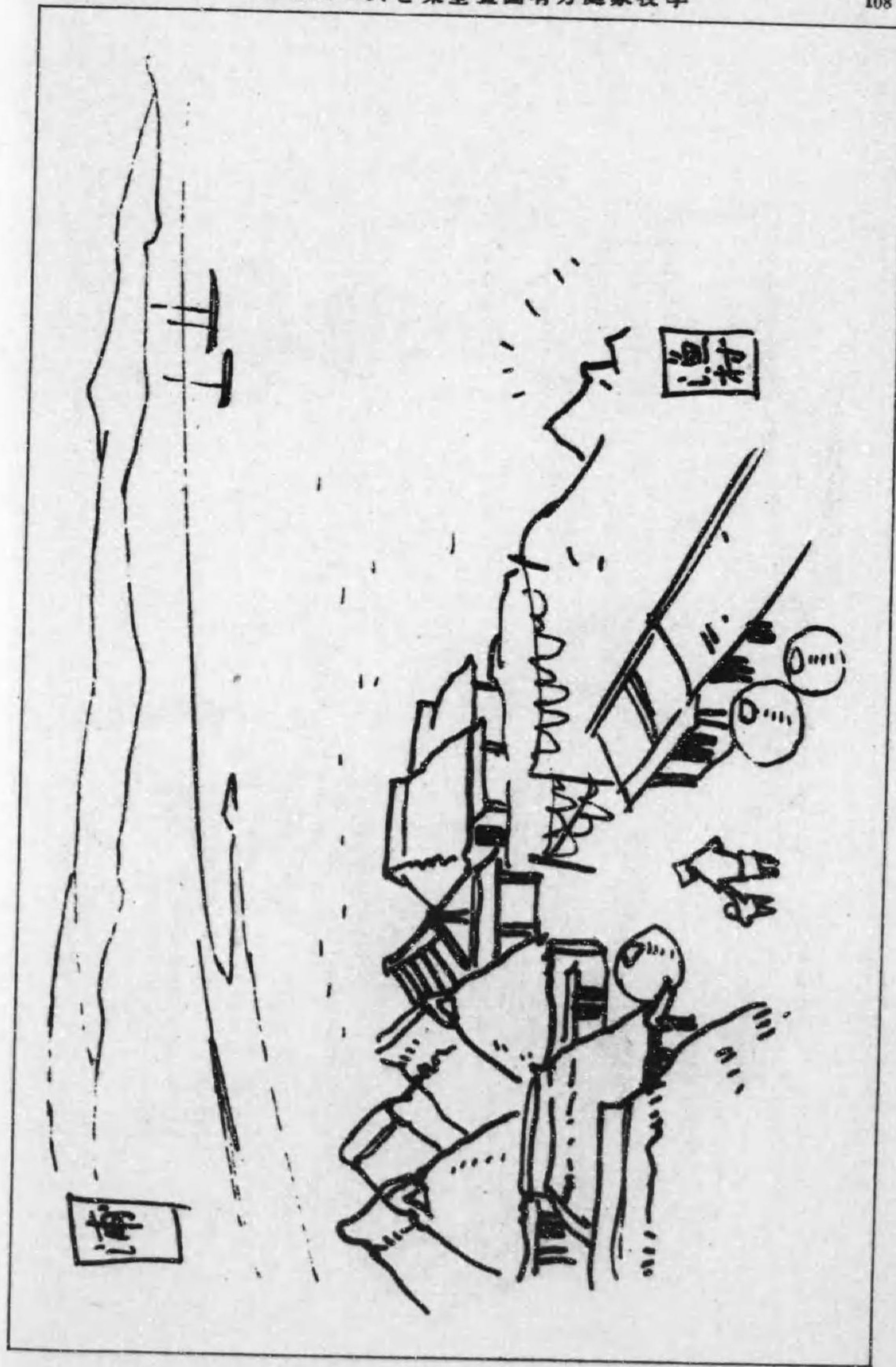
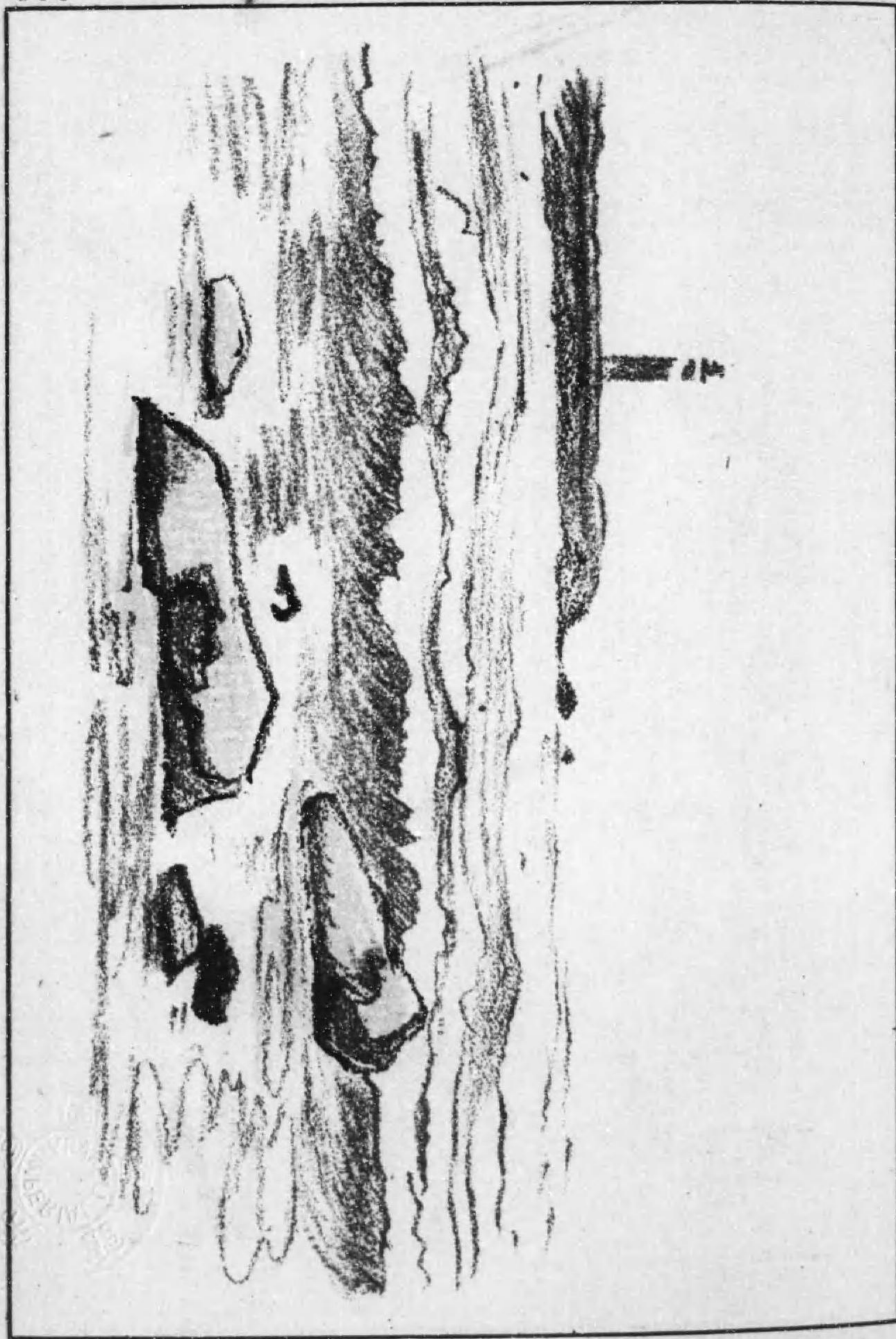


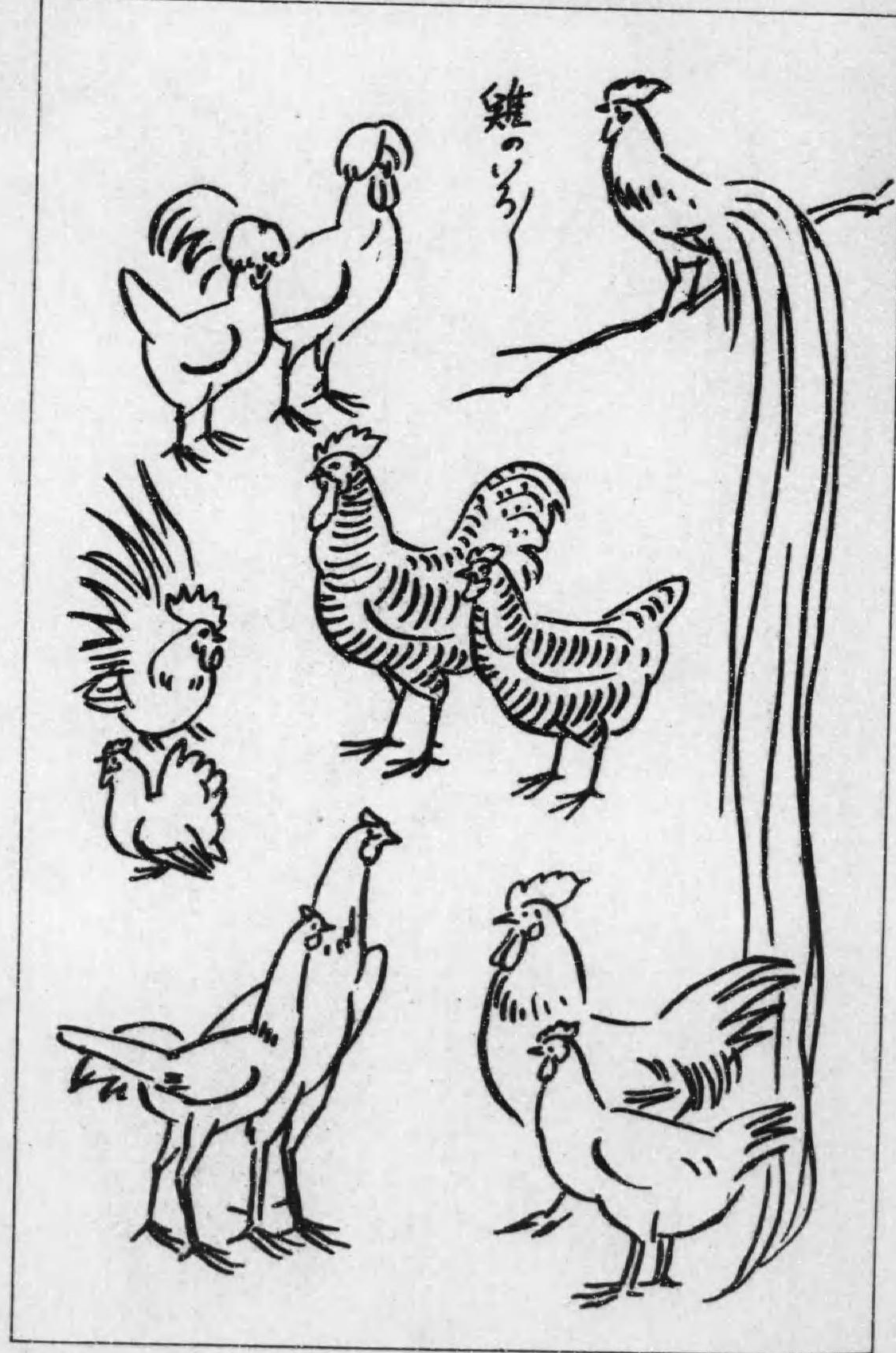




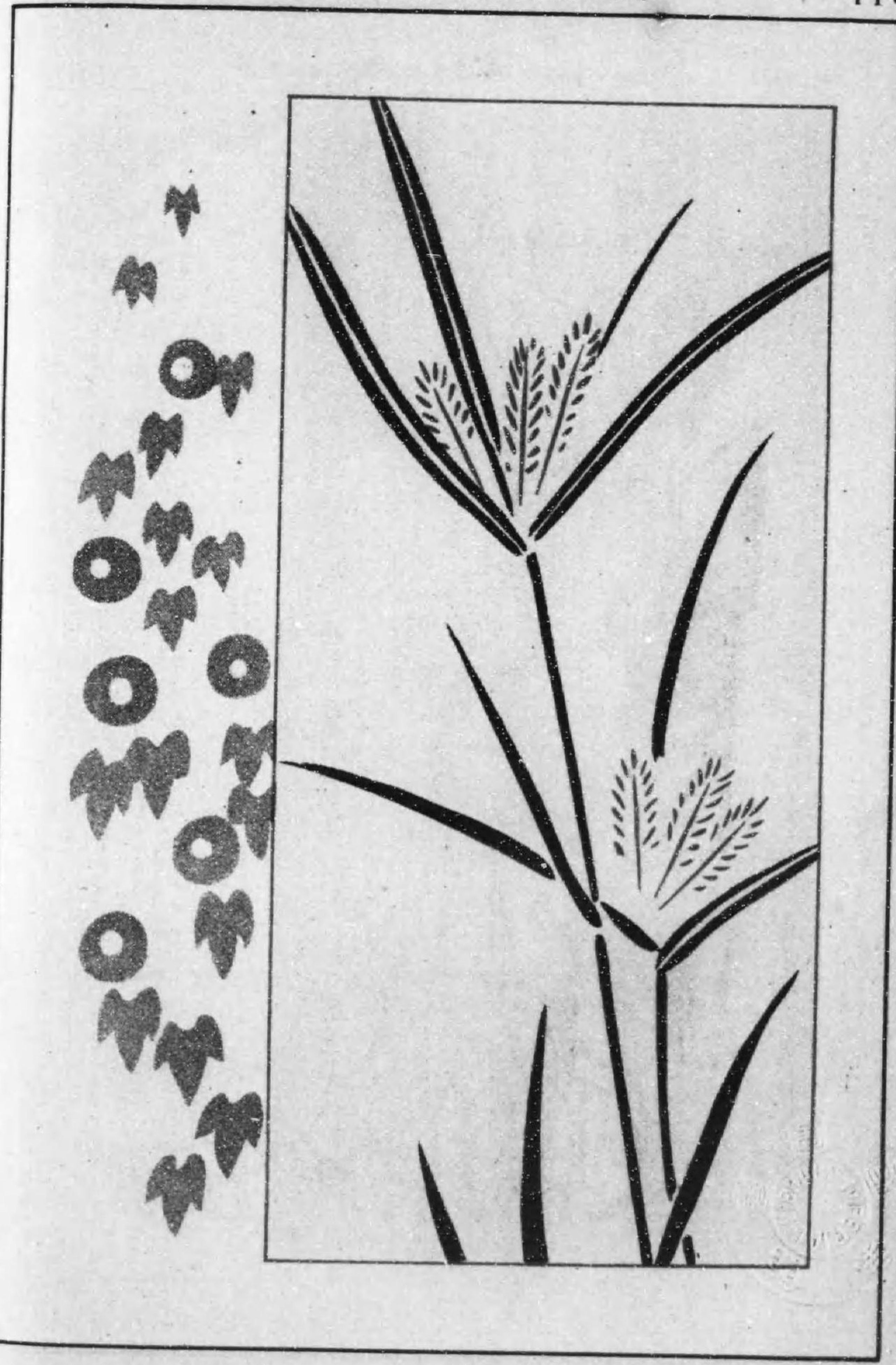




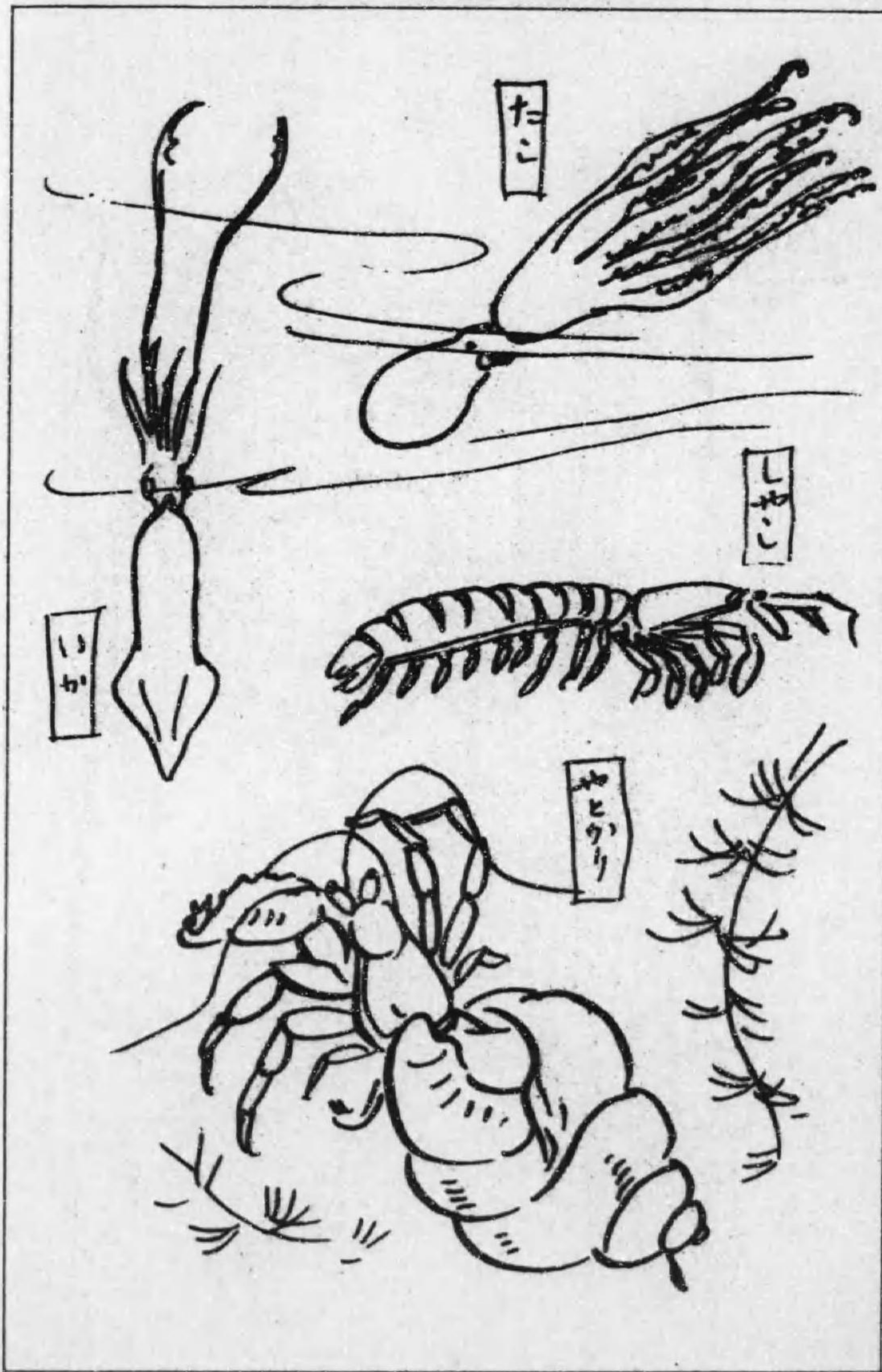


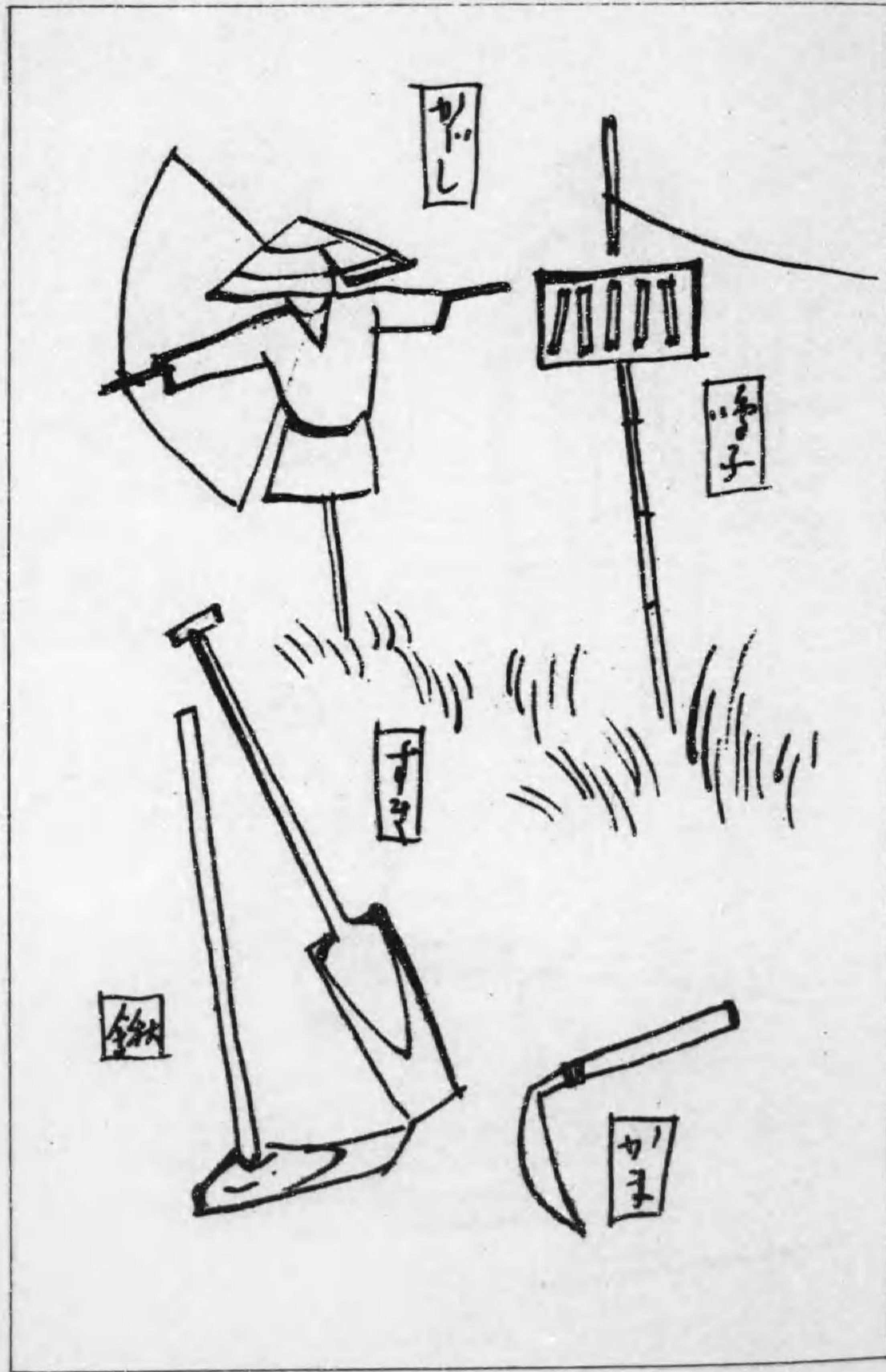


雞のしり

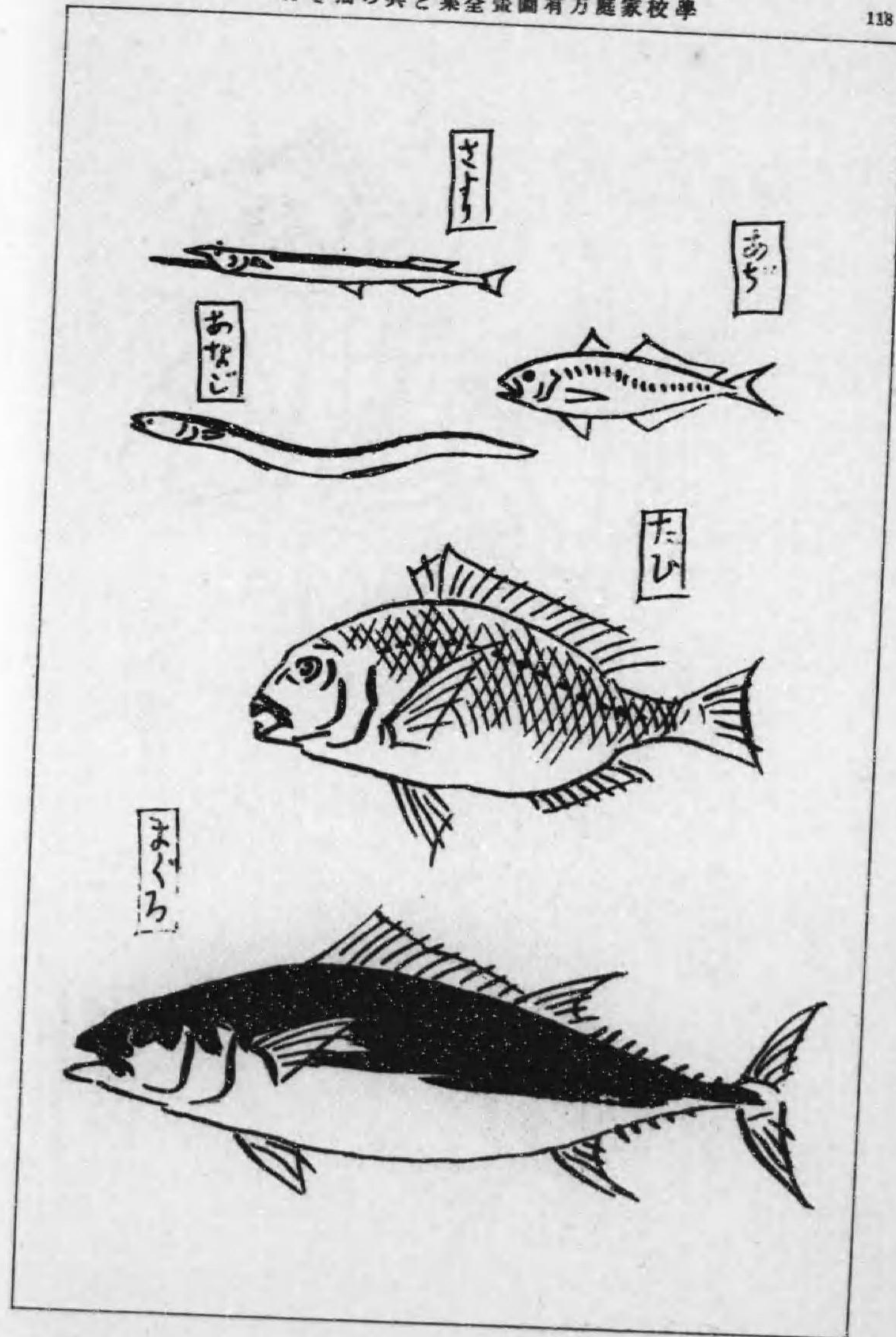


方き描の其と集全圖有万庭家校學



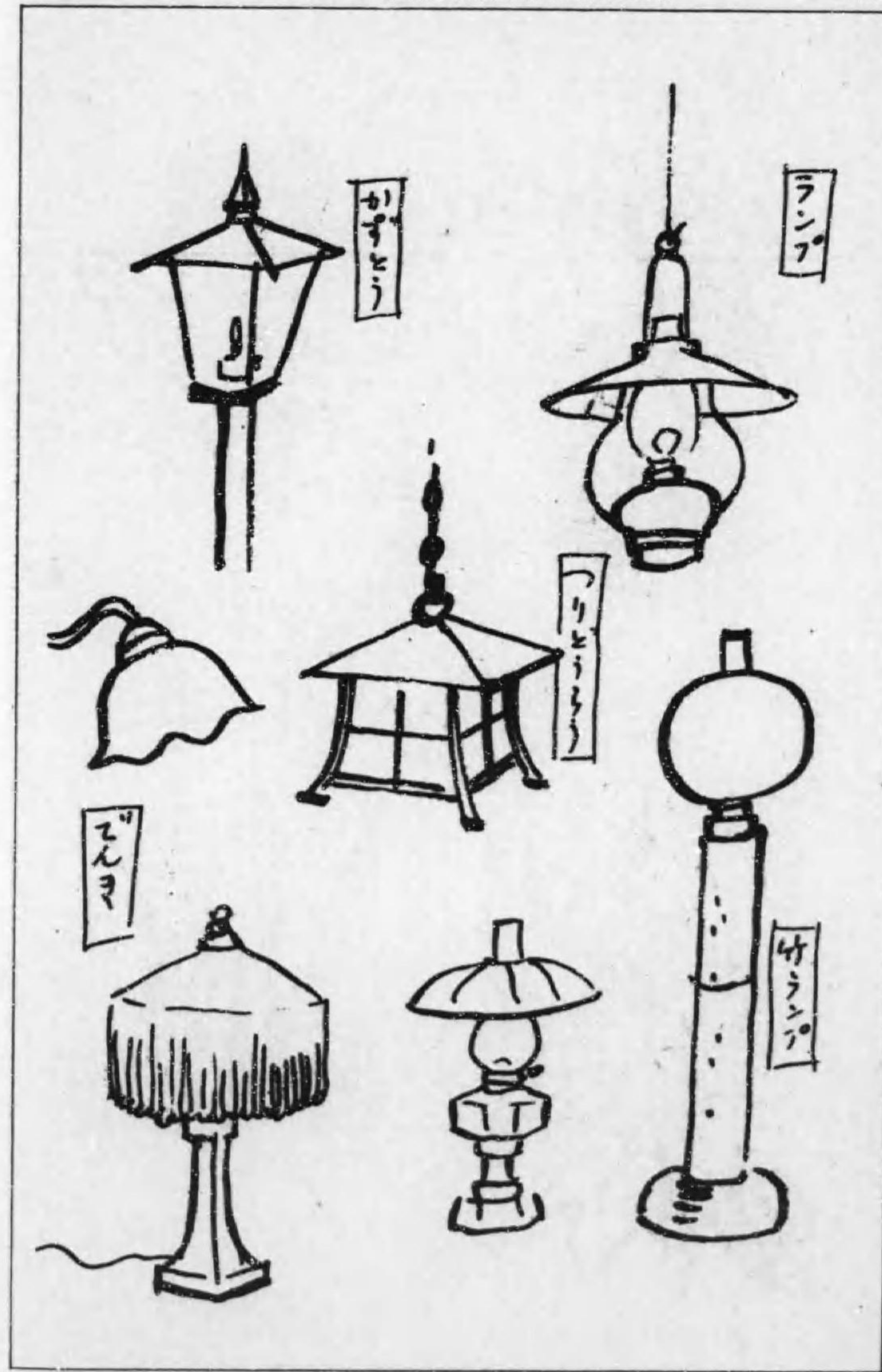


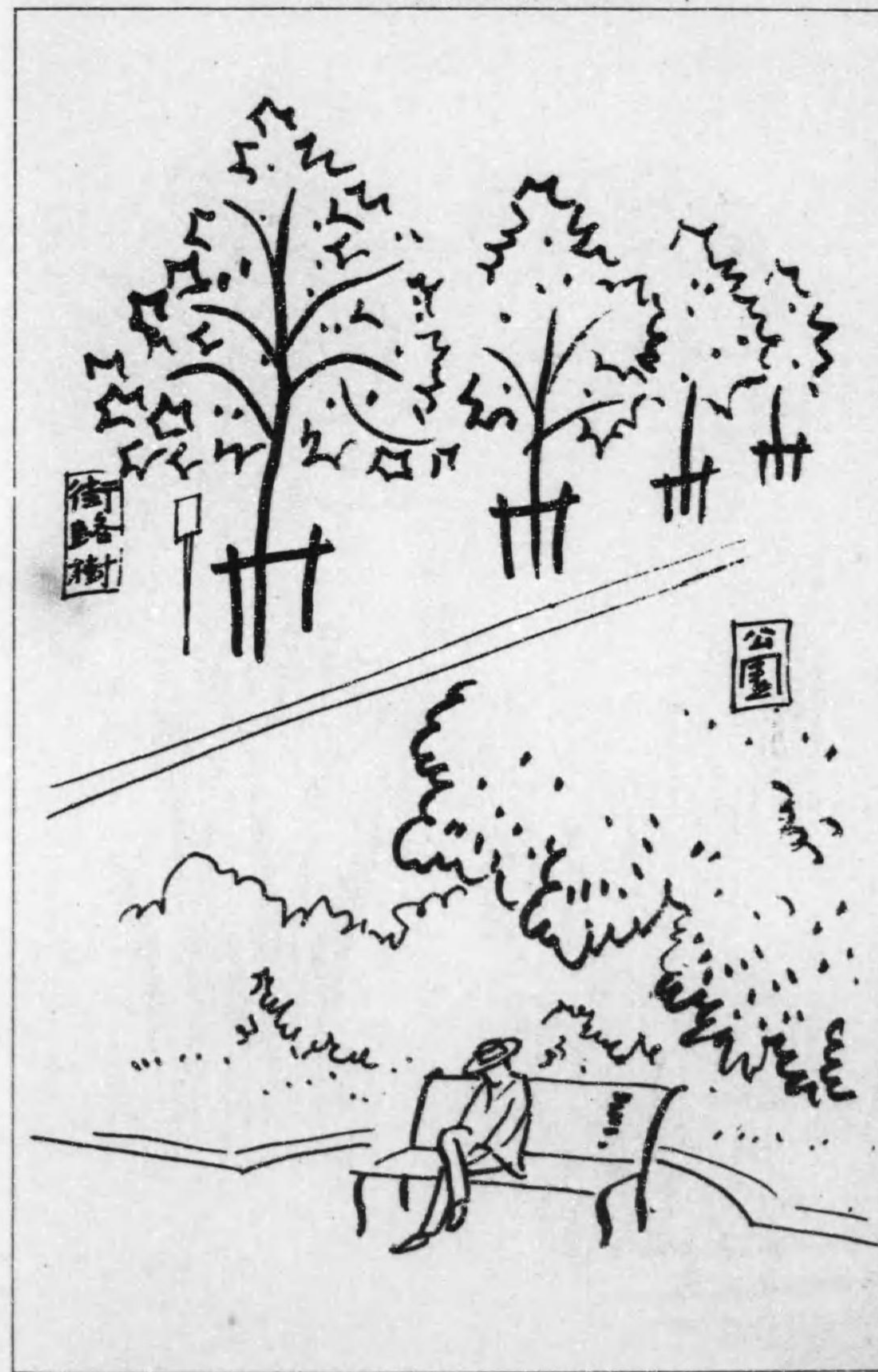
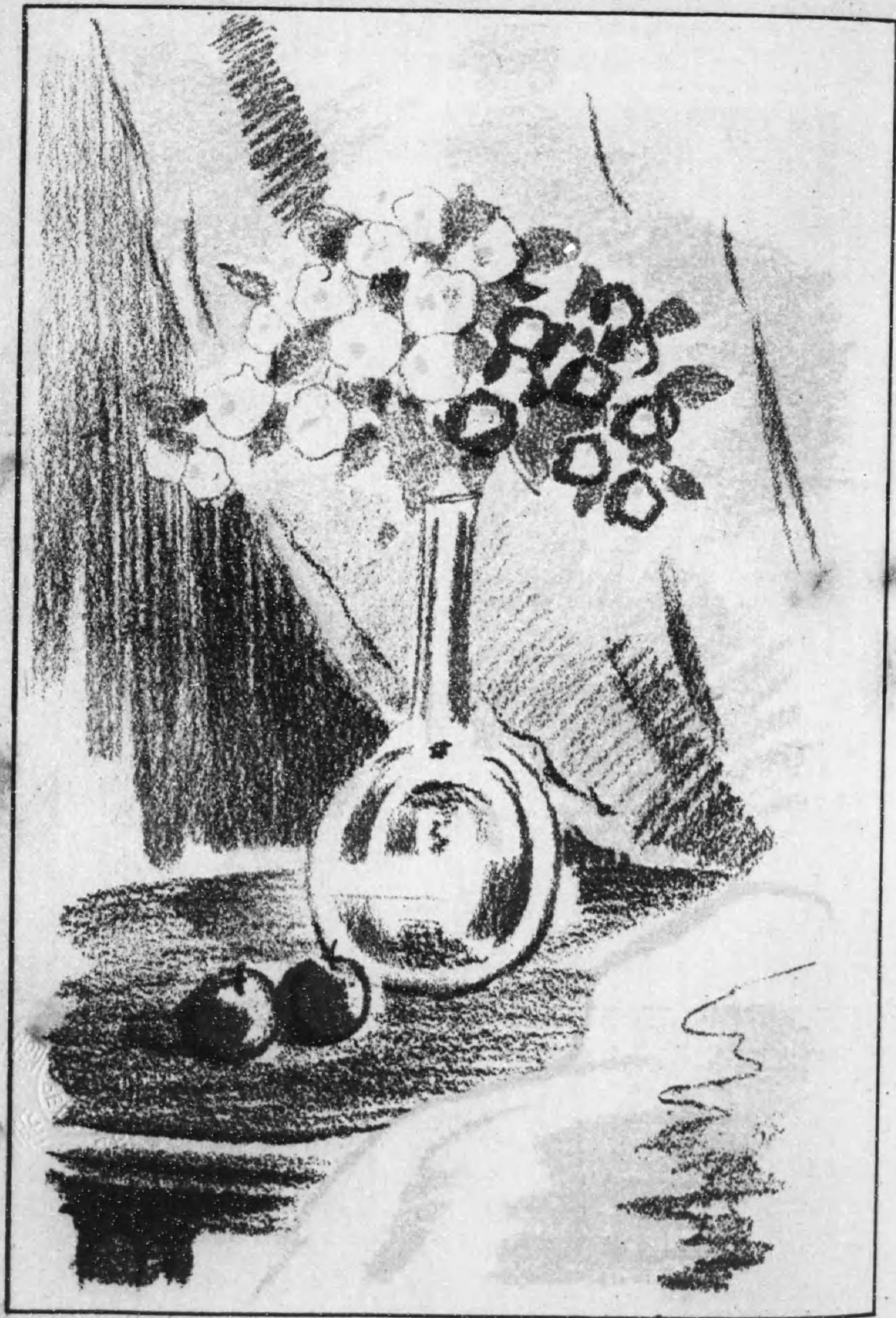


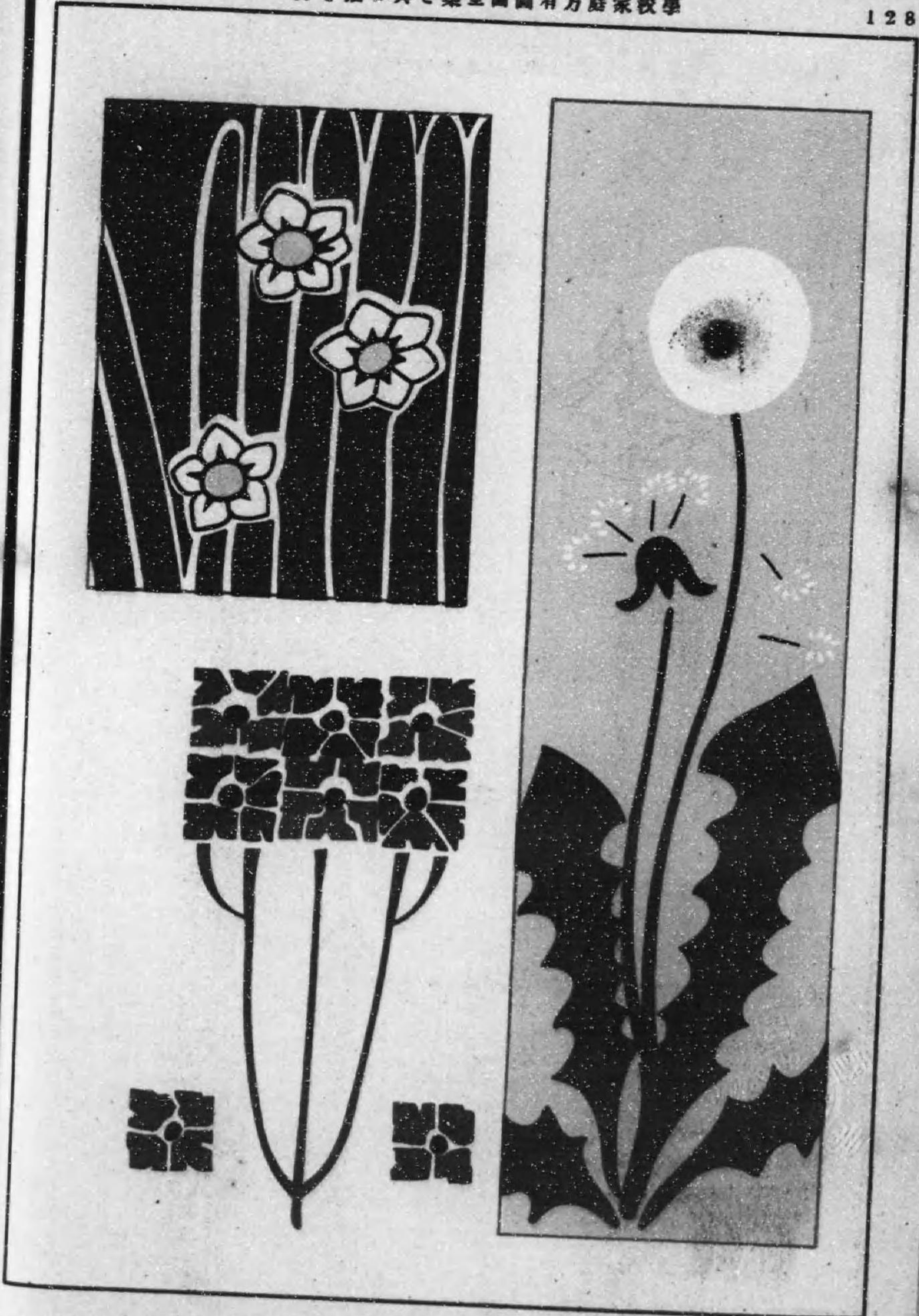
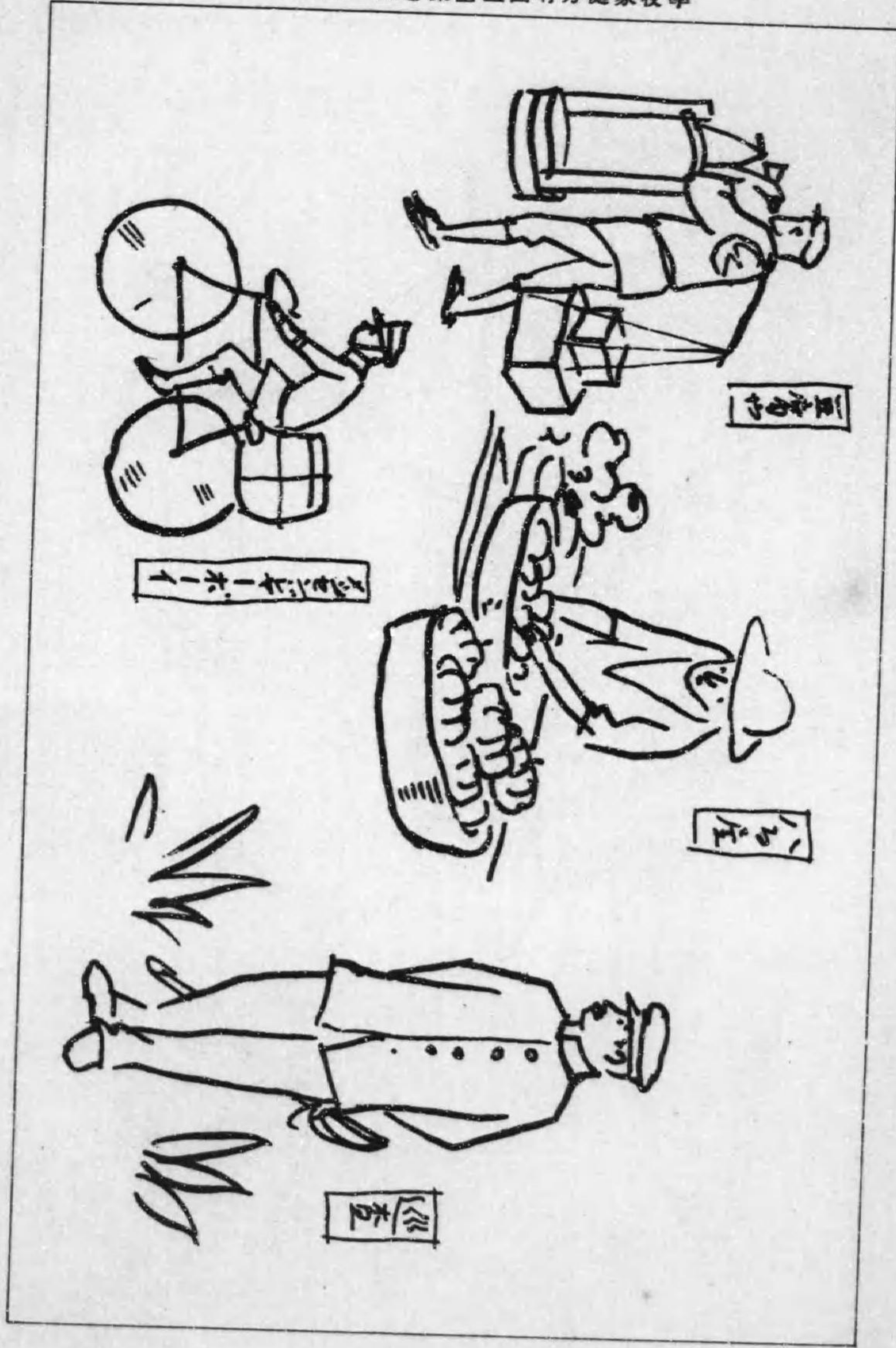


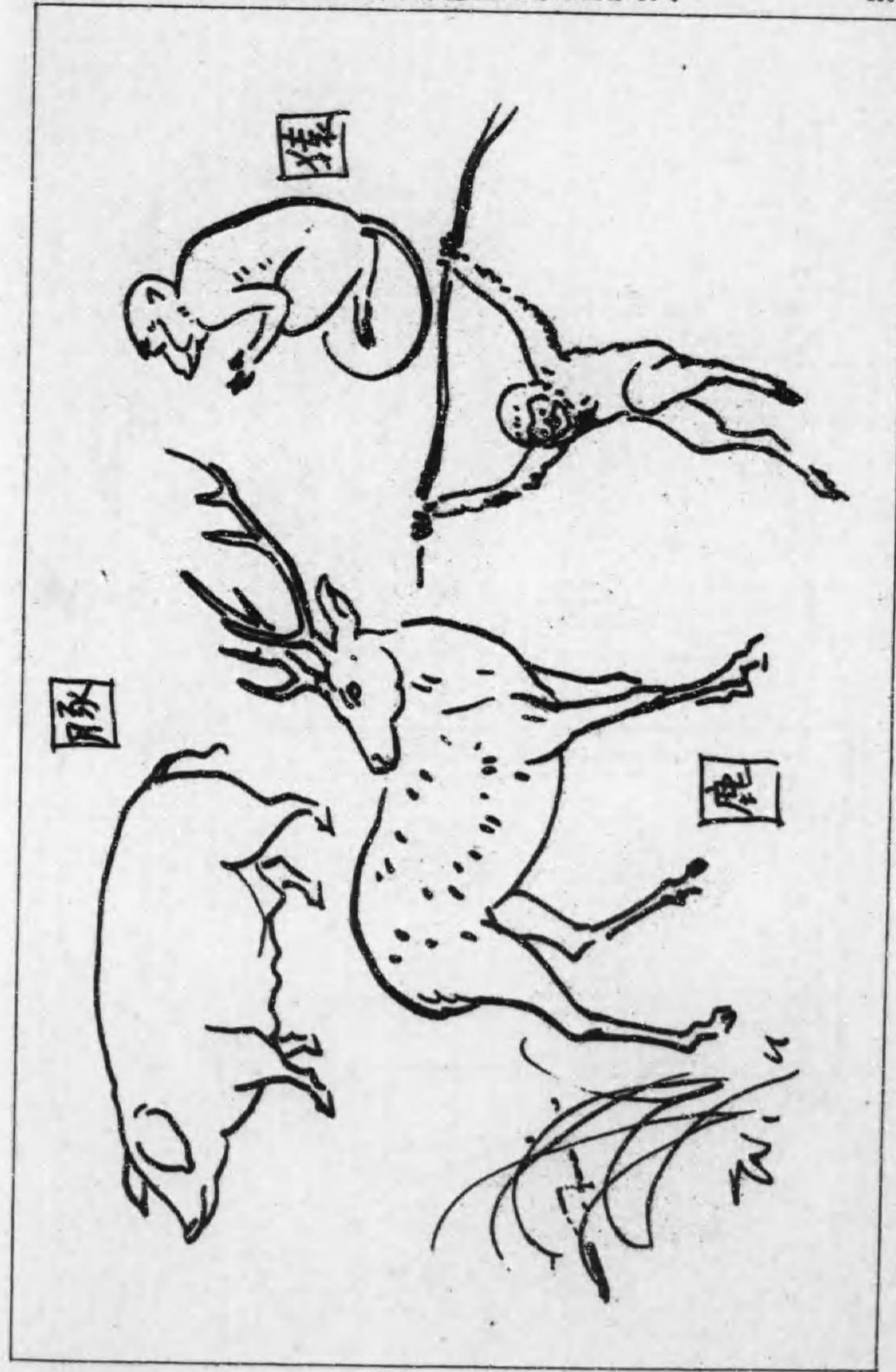
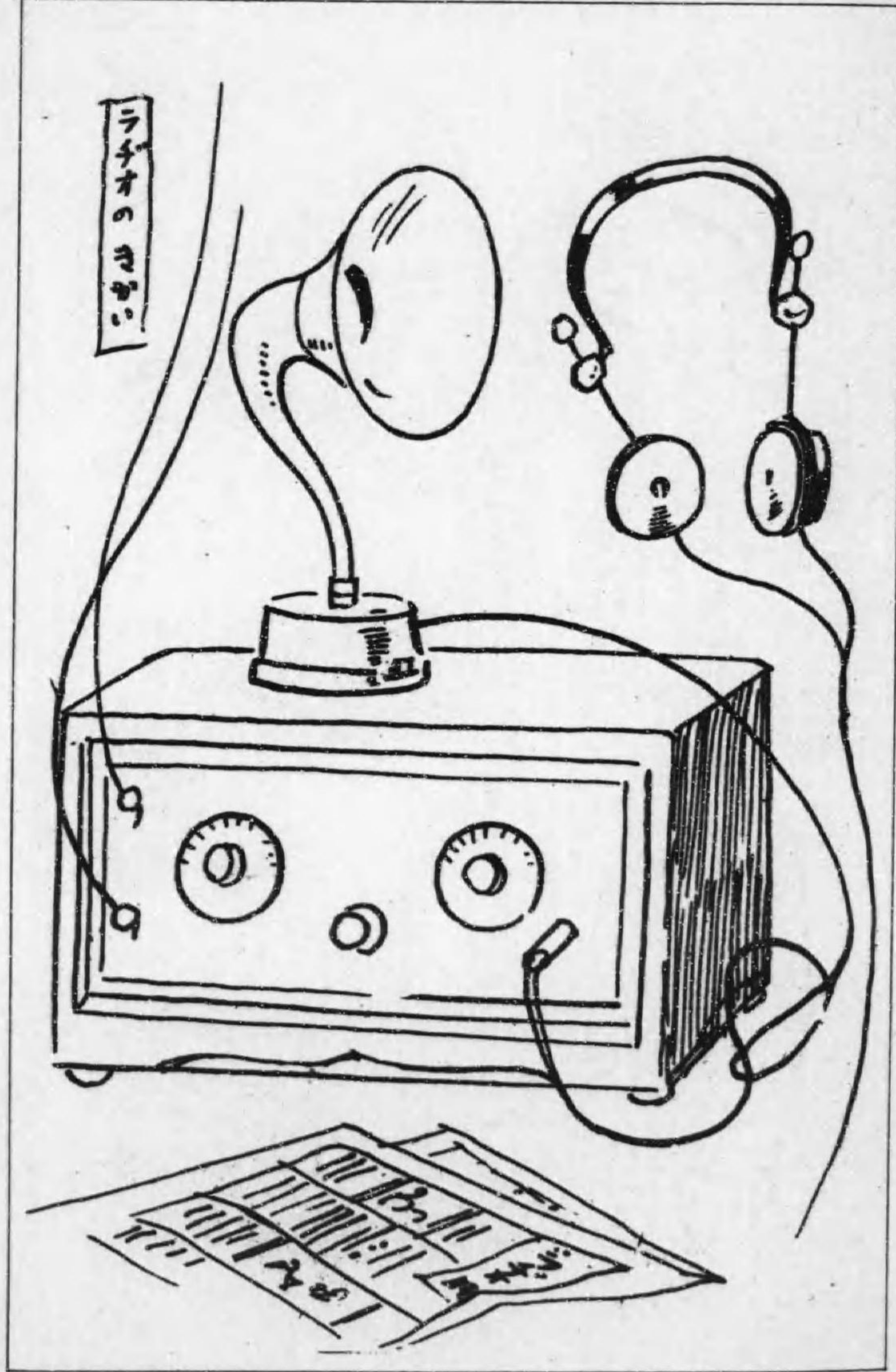


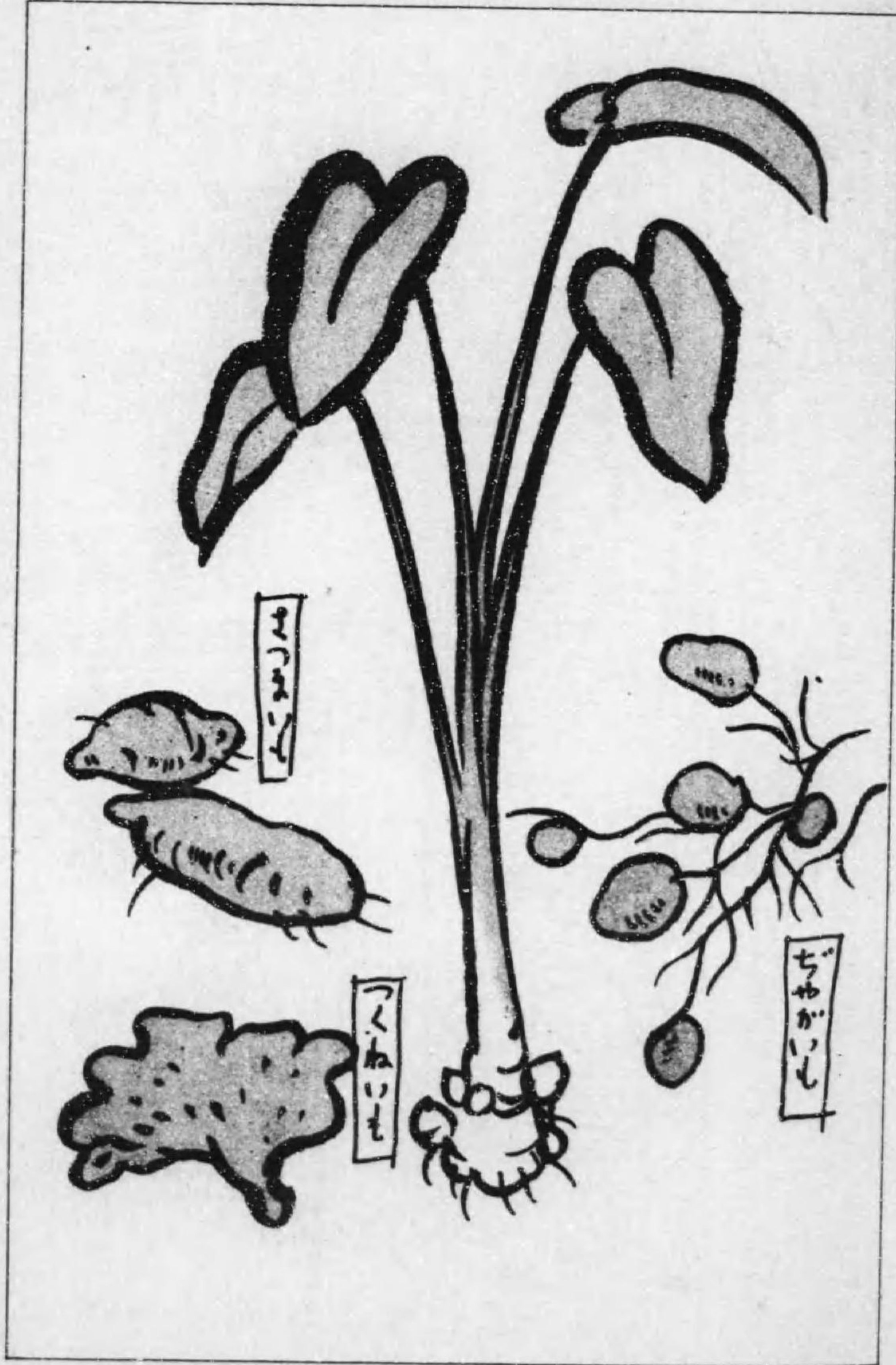


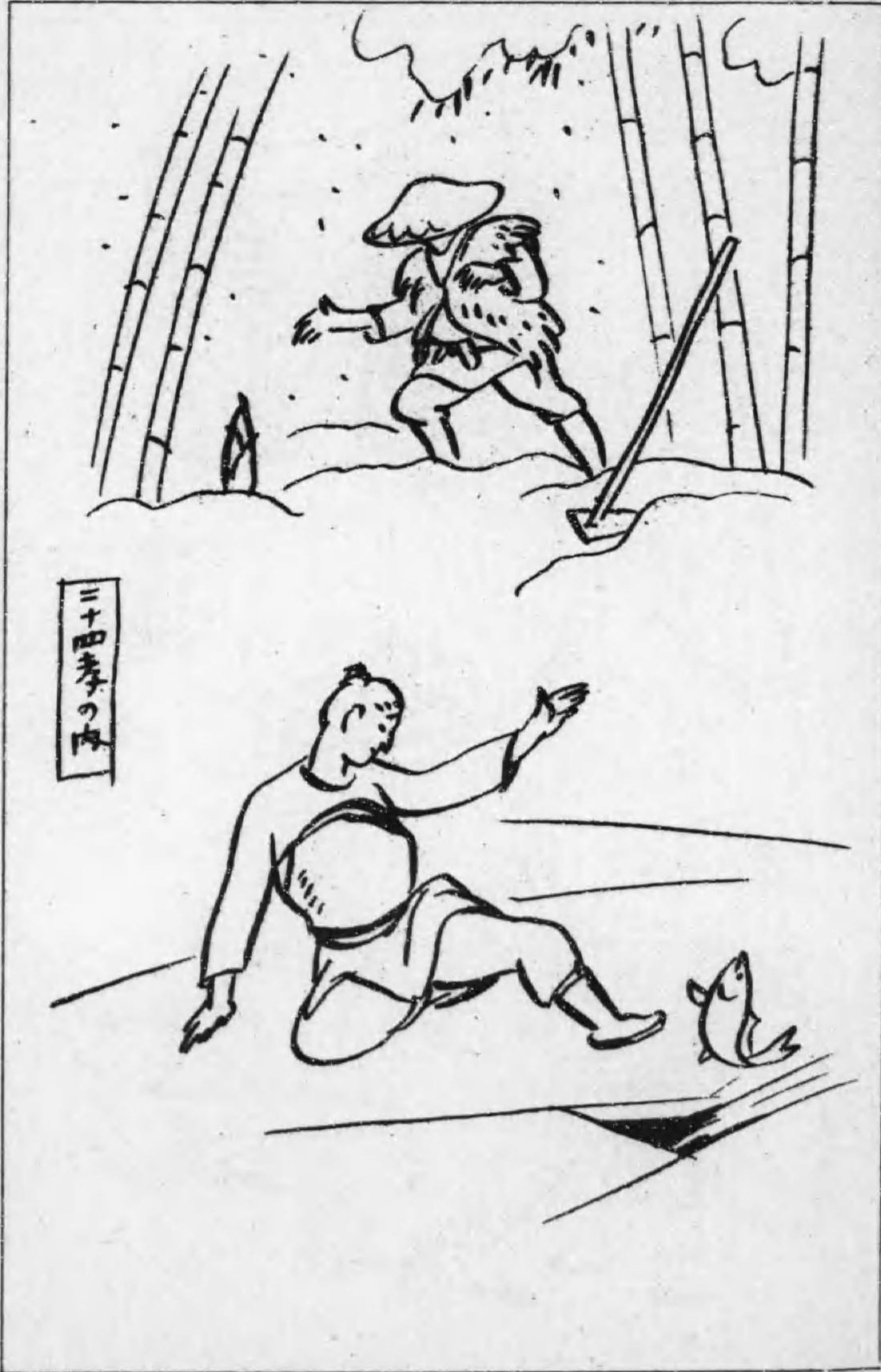












三十四孝の内



二十四孝の内

